

関東学院大学
高等教育研究・開発センター
年報

第8号



関東学院大学 高等教育研究・開発センター

目 次

研究論文

RESAS（地域経済分析システム）及びe-Stat（政府統計）を活用した大学生対象の オンデマンド型授業に関する実践と検証 -データサイエンス教育の潮流を踏まえて-	
杉原 亨	5
アダムとエバの召命：スタート地点かゴールか	
富田 茂美	37
『少年倶楽部』『少女倶楽部』における運動小説をめぐる人々——小泉葵南の仕事	
山田 昭子	59

研究実績報告

杉原 亨	77
富田 茂美	88

高等教育研究・開発センター活動報告、記録

2021年度 高等教育研究・開発センター 事業報告	93
高等教育研究・開発センター員会議開催記録	94
教育実践力向上セミナー開催記録	104
高等教育研究・開発センター構成員	105
高等教育研究・開発センター規程	106

研究論文

RESAS（地域経済分析システム）及び e-Stat（政府統計）を活用した 大学生対象のオンデマンド型授業に関する実践と検証 -データサイエンス教育の潮流を踏まえて-

杉原亨

概要

近年、高等教育においてデータサイエンス教育の重要性が主張されている。この潮流を踏まえて、本研究では地域におけるオープンデータの活用というアプローチから、大学生対象に、RESAS（地域経済分析システム）及び e-Stat（政府統計）を活用したオンデマンド型授業を実施した。

受講生は、動画により実演された V-RESAS（新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響の可視化）、e-Stat、RESAS に関して比較的容易に可視化が実行できる操作法や、グラフの見方を学習し、そのうえで、自分自身で興味関心がある地域に関して分析を行った。

授業実践の検証として授業終了後における、WEB による質問紙調査を実施した結果、次のことが明らかとなった。RQ1. 統計学やデータサイエンスの受講経験や興味関心、レベルの状況については、大半の受講生は受講経験がなく、半数弱が関心を抱いているものの、データ分析や数字に拒否反応を示している学生が一定数見受けられた。RQ2. V-RESAS、e-Stat、RESAS の使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさについては、概ねわかりやすいという評価で、10 分程度の短い解説で、使いやすい機能に焦点化して、具体的な操作法を見せたことが一因と考えられる。RQ3. V-RESAS、e-Stat、RESAS のユーザビリティについても、概ね使いやすく、役に立つという感想であったが、RESAS については、V-RESAS、e-Stat と比較して、使いにくい、見にくいなどネガティブな意見が散見された。RQ4. 分析ツールを通じた学修成果については、これらのツールを活用したことで地域の見方が変化した受講生も半数以上存在し、特に少子高齢化が進行していることがわかったという意見が多かった。また、授業を通じて、データ分析や情報を読み解く力、いわゆるデータリテラシーのスキルを習得できたという声が寄せられた。RQ5. 授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるかについては、地域やデータ分析というキーワードを軸に、行政（公務員）やビジネス、起業などで活かそうという意見が挙がった。

1. 近年のデータサイエンス教育の潮流

この章では、近年、国や産業界などから高等教育におけるデータサイエンス教育の必要性が主張されている状況と、実際に大学におけるデータサイエンス教育の動向について整理する。

1.1 データサイエンス教育に関する政策的動向

近年、いわゆる AI 時代（Artificial Intelligence）、デジタル社会の到来を背景に、急

速に高等教育におけるデータサイエンス教育の重要性が高まっている。日本においては、これまでデータサイエンス教育に関しては、統計学や情報学、及び関連する近接領域で展開されていたが、全学及び学部においての組織的な対応は発展途上であった。

データサイエンス教育に関連する提言として、日本学術会議情報学委員会（2014）では「ビッグデータ時代に対応する人材の育成」、日本学術会議数理科学委員会数理統計分科会（2015）においては「ビッグデータ時代における統計科学教育・研究の推進について」が存在する。これらではデータサイエンスを系統的に学習できる組織が少ないことを指摘している。さらに、内閣府（2015）が取りまとめ閣議決定した「科学技術イノベーション総合戦略 2015」においても、欧米と比較してデータ分析のスキルを有する人材や統計科学を専攻する人材が極めて少ないことに警鐘を鳴らしている。ちなみに、アメリカ統計学会のニュースレター（AMSTATNEWS 2020年11月号）によると、アメリカの統計学及び生物統計学の学位授与数（年間）は、2010年ごろから顕著に上昇し、2019年では学士号4,472人、修士号4,515人、博士号688人に上っている。

このような状況で、大きな転機となったのが、統合イノベーション戦略推進会議（2019）が発表した「AI戦略2019～人・産業・地域・政府全てにAI～」である。この文書では、今後のAIの利活用の方針や、現在に至るデータサイエンス教育の枠組みを示している。この戦略では、教育改革の大目標として、全ての高等学校卒業生が「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的なリテラシーを習得することを宣言しており、2025年までの具体的な育成目標として、年間でリテラシーレベル50万人（大卒・高専卒業生全員）、応用基礎レベル25万人、エキスパートレベル2,000人を掲げている。これらを実現するために、優れたデータサイエンス教育に関する「モデルカリキュラムの開発と展開」と、「優れた教育プログラムを政府が認定する制度」を主要な施策として実行した。さらに、統合イノベーション戦略推進会議（2022）は「AI戦略2022」を策定し、データサイエンス教育の更なる推進を図っている。

1.2 モデルカリキュラムの開発と展開

2017年度に、文部科学省より数理及びデータサイエンスに係る教育強化の拠点校として選定された6大学（北海道大学・東京大学・滋賀大学・京都大学・大阪大学・九州大学）から構成された「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム¹」はモデルカリキュラムの開発と展開を担っている。具体的にはリテラシーレベルと応用基礎レベルのモデルカリキュラムの作成、モデルカリキュラムに対応した教材開発（e-learning）、大学が活用可能なデータベースの整備などである。当初は拠点校の6大学で活動していたが、地域ブロックなどでの活動を通じて、2021年は会員校数140機関超に成長している。

¹ モデルカリキュラムの開発と展開に関しては、「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」を参照。<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/index.html>, (2022年9月7日アクセス)

1.2.1 リテラシーレベルのモデルカリキュラム

リテラシーレベルのモデルカリキュラムの学修目標を「今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。」と設定している。これは市民生活や仕事で活用することを想定しており、高度な専門知識よりも基礎的な教養として身につけることを狙いとしている。

具体的なカリキュラムとしては、導入「1. 社会におけるデータ・AI 利活用」、基礎「2. データリテラシー」、心得「3. データ・AI 利活用における留意事項」、選択「4. オプション（基礎的な統計分析）」の4段階で構成されている（図1）。

● モデルカリキュラムと教育方法

導入	1. 社会におけるデータ・AI利活用	
	1-1. 社会で起きている変化	1-2. 社会で活用されているデータ
	1-3. データ・AIの活用領域	1-4. データ・AI利活用のための技術
	1-5. データ・AI利活用の現場	1-6. データ・AI利活用の最新動向
	2. データリテラシー	
	2-1. データを読む	2-2. データを説明する
基礎	2-3. データを扱う	
	3. データ・AI利活用における留意事項	
心得	3-1. データ・AIを扱う上での留意事項	3-2. データを守る上での留意事項
	4. オプション	
選択	4-1. 統計および数理基礎	4-2. アルゴリズム基礎
	4-3. データ構造とプログラミング基礎	4-4. 時系列データ解析
	4-5. テキスト解析	4-6. 画像解析
	4-7. データハンドリング	4-8. データ活用実践（教師あり学習）
	4-9. データ活用実践（教師なし学習）	

図1. リテラシーレベルのモデルカリキュラム²

1.2.2 応用基礎レベルのモデルカリキュラム

応用基礎レベルのモデルカリキュラムの学修目標を「数理・データサイエンス・AI 教育（リテラシーレベル）の教育を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力を修得すること。そして、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AI を応用するための大局的な視点を獲得すること。」と設定している。応用基礎レベルの教育をリテラシーレベルの教育と専門教育とを繋ぐ「橋渡し教育」として位置づけている。具体的なカリキュラムとしては、「1. データサイエンス基礎」、「2. データエンジニアリング基礎」、「3. AI 基礎」の3段階で構成され

² 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム（2020）から引用。

ている（図2）。

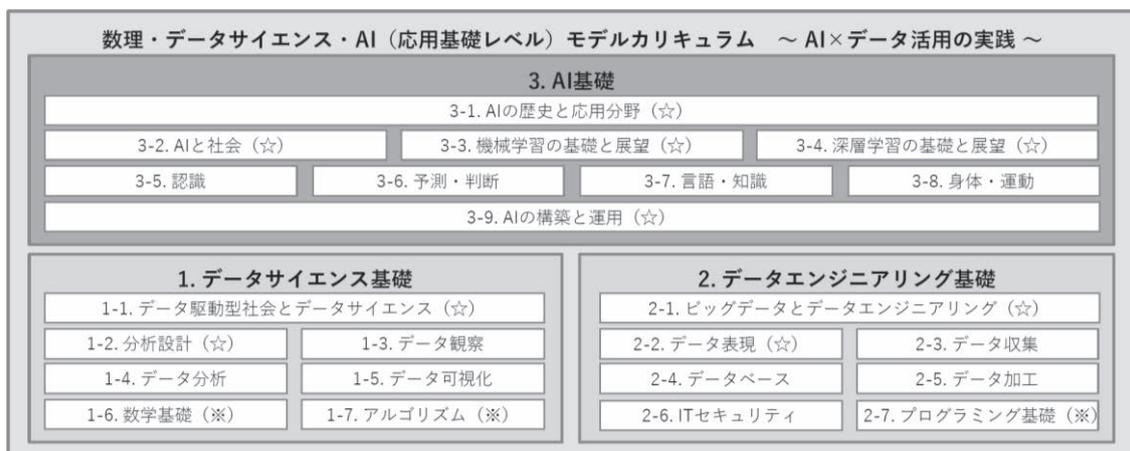


図2. 応用基礎レベルのモデルカリキュラム³

1.3 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度

文部科学省は2021年度より、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度⁴」の運用を開始した。この認定制度は、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程（教育プログラム）を文部科学大臣が認定及び選定して奨励するものである。この認定制度は補助金の交付ではなく、データサイエンス教育の実績を評価して、認定された大学の教育力を社会に認知させるアプローチを採用している。ちなみに、令和4年度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」認定状況は、リテラシーレベルは139件、応用基礎レベルは68件のプログラムが認定されている。

1.4 大学におけるデータサイエンス教育の動向

大きな動きとしては、2017年度に滋賀大学で日本初のデータサイエンス学部を開設し、定員は1学年100人であった。滋賀大学でデータサイエンス学部の設立に関わった、伊達ほか（2022）によると、データサイエンス学部の教育においては、情報学、統計学、データからの価値創造の3つの側面をバランスよく教える必要があり、文理融合的な領域であるとみなしている。2018年度には横浜市立大学、2019年度には武蔵野大学、2021年度には立正大学とデータサイエンス学部の設立が続いており、2022年度にも複数の大学で学部を設置され、2023年度には一橋大学でソーシャル・データサイエンス学部、名古屋市立大学でデータサイエンス学部などが設置される。これに加えて、多くの大学で学科設置、及び副専攻、全学共通のプログラムなどで実施されている。

³ 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム（2021）から引用。

⁴ 文部科学省 数理・データサイエンス・AI 教育認定制度を参照、
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00001.htm, （2022年9月7日アクセス）

2 地域をテーマとしたデータサイエンス教育

この章では、まず地域に関する主なオープンデータ⁵の概要を示したうえで、地域をテーマとしたデータサイエンス教育の事例を紹介する。

2.1 地域に関する主なオープンデータ

地域に関する代表的なオープンデータに関するサイトである、e-Stat（政府統計の総合窓口）と RESAS（地域経済分析システム）の概要は、次の通りである。

2.1.1 e-Stat（政府統計の総合窓口）

政府統計の総合窓口(e-Stat)は、各府省が公表する統計データを一つにまとめ、統計データの検索や、地図上に表示できるなどの、多数の便利な機能を備えた政府統計のポータルサイトである。17 の分野で合計 690 調査を対象にしている。具体的には、国土・気象（2 調査）、人口・世帯（21 調査）、労働・賃金（74 調査）、農林水産業（73 調査）、鉱工業（38 調査）、商業・サービス業（27 調査）、企業・家計・経済（85 調査）、住宅・土地・建設（40 調査）、エネルギー・水（15 調査）、運輸・観光（36 調査）、情報通信・科学技術（20 調査）、教育・文化・スポーツ・生活（27 調査）、行財政（33 調査）、司法・安全・環境（50 調査）、社会保障・衛生（110 調査）、国際（8 調査）、その他（31 調査）である。また、誰もが利用しやすいように、統計データを CSV ファイルなどでダウンロードでき、ダッシュボードで主要指標のグラフ化が可能である⁶。

2.1.2 RESAS（地域経済分析システム）

2015 年 4 月より WEB にて提供を開始した RESAS は Regional Economy and Society Analyzing System の略であり、地方創生のデータ利用の「入口」として、地域経済に関する官民の様々なデータを、地図やグラフ等で分かりやすく「見える化」しているシステムで、各地域が、自らの強み・弱みや課題を分析し、その解決策を検討することを後押しすることを目的としている。いわゆる PDCA（効果的な施策の立案、実行、検証）の支援であり、勘や経験や思い込みではなく、データに基づく政策立案(EBPM: Evidence-Based Policy Making)に向けた取り組みである。

主なデータとしては人口動向、地域経済に関する循環、産業構造、企業活動、消費、観光、

⁵ 総務省ではオープンデータを次のように定義している。「国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、次のいずれの項目にも該当する形で公開されたデータをオープンデータと定義する。1. 営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、2. 機械判読に適したもの、3. 無償で利用できるもの」、
https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/opendata/,（2022 年 9 月 6 日アクセス）

⁶ e-Stat を参照。<https://www.e-stat.go.jp/>,（2022 年 8 月 28 日アクセス）

まちづくり、医療・福祉、地方財政を扱っており、地域ごとにグラフにより「見える化」が可能である（表1）。

表1. RESAS で「見える化」可能な主な分析項目

マップ	主な分析可能な項目
人口マップ	人口構成, 人口増減, 人口の自然増減, 人口の社会増減, 新卒者就職・進学など
地域経済循環マップ	地域経済循環図, 生産分析, 分配分析, 支出分析
産業構造マップ	全産業の構造, 稼ぐ力分析, 企業数, 事業所数, 従業者数, 付加価値額, 労働生産性など
企業活動マップ	黒字赤字企業比率, 中小・小規模企業財務比較, 海外への企業進出動向, 輸出入取引, 企業の海外取引額分析など
消費マップ	消費の傾向・From-to 分析 (POS データ), 外国人消費, キャッシュレス加盟店数・決済データなど
観光マップ	目的地分析, From-to 分析 (宿泊者), 外国人訪問, 外国人滞在など
まちづくりマップ	From-to 分析 (滞在人口), 流動人口メッシュ, 滞在人口率, 通勤通学人口, 不動産取引, 事業所立地動向, 国内移動時間分析など
医療・福祉マップ	医療需給, 介護需給
地方財政マップ	自治体財政状況の比較, 一人当たり地方税, 一人当たり市町村民税法人分, 一人当たり固定資産税

出典：RESAS を参照したうえで、筆者作成

普及活動としては、RESAS を活用して地域の状況を分析し、地域を元気にするアイデアを広く募集する「地方創生★政策アイデアコンテスト」、地方公共団体や地域の多様な関係者によるデータに基づく施策の立案、及び実現を支援する「政策立案ワークショップ」、地方公共団体職員向け RESAS 研修を実施している。さらに、自治体の活用事例として、地域経済分析システム (RESAS) 利活用事例集を公開している。また、教育現場向けに RESAS を活用した授業の展開方法として、高校等向けの授業モデル (RESAS 副教材) を「RESAS for Teachers」で公開している⁷。なお、RESAS から派生している V-RESAS (新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響の可視化) についての概要は後述する。

また、デジタル田園都市国家構想実現会議事務局では、Youtube の RESAS チャンネル⁸で RESAS 及び V-RESAS の操作方法や活用のポイントなどを説明する動画 (各機能で 5 分から 10

⁷ RESAS を参照。https://resas.go.jp/#/13/13102, (2022 年 8 月 28 日アクセス)。なお、RESAS の概要説明については、杉原 (2022) を基に加筆修正した。

⁸ RESAS チャンネルの登録数は 1210 人、一般市民まで普及しているとは言い難い。https://www.youtube.com/channel/UckwDhyiJ6DifwKeG8C6bkew/featured, (2022 年 9 月 2 日アクセス)

分程度)を掲載し、ツールの活用に関する普及を推進している⁹。

2.2 地域をテーマとしたデータサイエンス教育の事例

大学において地域をテーマとしたデータサイエンス教育の一例として、金沢大学では内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)及び内閣府(地方創生推進室)との連携講座の全学共通科目「統計学から未来を見る(担当教員:松浦義昭)」を全8回1単位科目で実施している¹⁰。また、学生の学修目標を「学生は、RESASの基本的な操作方法を理解するとともに、客観的な統計データに基づいた現状・将来の分析から課題を発見し、その解決策をグループで多面的に議論し、地域課題の解決に向けたアイデアを提案できるようになること」と設定しており、RESASのビッグデータで地域課題を考えることをテーマとしている。この他に、愛知大学地域政策学部では「まちづくりとデータ分析(担当教員:駒木伸比古)」を開講しており、計量地理学をベースに地域分析手法の理解と習得をテーマとしている¹¹。

社会人対象の事例としては、杉原(2022)が、RESASやe-Statを活用したデータサイエンスの講座の実践について報告している。この講座は全3回でZoomを活用した双方向型のオンラインで実施し、実際に講師がRESASやe-Statのやり方を実演し、その後受講生が地域に関するデータを分析している。さらに、杉原(2022)の資料を基に、2022年8月に岡山県の社会人向けのオンラインによる講習を主催している鼓山塾にて、「デジタル社会のデータ分析・活用(担当講師:廣川佐千男)」をテーマに3回講習が開催されている¹²。いくつかの事例からRESASやe-Statを始めとした地域のオープンデータを活用したデータサイエンス教育は実施されているものの、本稿で報告する大学生対象のオンデマンド型授業は管見の限り見当たらない。

3. RESAS(地域経済分析システム)及びe-Stat(政府統計)を活用したオンデマンド型授業の実践

この章では、RESAS(地域経済分析システム)及びe-Stat(政府統計)を活用した大学生対象のオンデマンド型授業の実践に関する概要と流れを整理した。

⁹ 内閣府・内閣府統合サイト地方創生にRESAS、V-RESASの解説動画が掲載されている。
https://www.chisou.go.jp/sousei/resas/resas_setsumeidouga.html, (2022年9月2日アクセス)

¹⁰ 金沢大学「統計学から未来を見る」シラバスを参照。(2022年9月7日閲覧)

¹¹ 愛知大学地域政策学部「まちづくりとデータ分析」シラバスを参照。(2022年9月7日閲覧)

¹² 鼓山塾を参照。

<http://cyberlawschool.jp/kagayama/CLII/Maniwacity/KozanLiberalArts/LectureSchedule.html>, (2022年9月7日アクセス)

3.1 授業概要

本研究は、首都圏の総合私立 X 大学にて、筆者が授業を担当した全学部全学年対象のキャリア教育科目（選択科目）の受講生を対象に実施した。対象のキャリア教育科目は、2022 年度については Blackboard による LMS（学習管理システム：Learning Management System）を活用した非同期オンデマンド型授業で行われた。この科目の履修者は、204 人であった。

その中で、第 13 回（2022 年 7 月 22 日配信）で、「統計データの見方と活用を学ぶ」をテーマにオンデマンド型授業を実施した。オンデマンド型授業は動画視聴と資料読解で行い、リアクションペーパーを課した。それと共に、Google Forms を活用した WEB による授業に関する質問紙調査を実施した。

3.2 授業設計

第 13 回の授業テーマは、「統計データの見方と活用を学ぶ：e-Stat（政府統計）や RESAS（地域経済分析システム）を通じて」で、概要は「近年、データサイエンスという言葉に代表されるように、データを正しく読み取り、活用する力が求められている。この回では公的な統計データ、e-Stat（政府統計）や RESAS（地域経済分析システム）などの見方と活用法を学ぶ」であった。

大枠の授業の流れとしては、冒頭に本日のテーマや学習到達目標を共有した後、デジタル化に関する政策及び企業のデータ活用に関して解説を行ったうえで、オープンデータの活用として、V-RESAS（新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響の可視化）、e-Stat（政府統計）、RESAS（地域経済分析システム）の見方と活用法を説明した。これらのオープンデータは WEB で分析可能である。

授業内の個人ワークとして、受講生は動画やスライドの資料を参考にしながら、これらのツールを実際に活用し分析を行った。この授業のリアクションペーパーとして、個人ワークを通じて、受講生が上記 3 つのツールを活用してわかったことについて、ツールごとに 300 文字以上の記述を課した。表 2 に第 13 回のオンデマンド型授業の流れを整理した¹³。

表 2. 授業の流れ（第 13 回「統計データの見方と活用を学ぶ」）

授業のコンテンツ	概要
講師が授業前に準備した こと	<ul style="list-style-type: none">・講義用動画を作成。Youtube に限定公開でアップし、LMS で視聴するための URL を掲載・V-RESAS、e-Stat、RESAS の URL を掲載・リアクションペーパーの課題を LMS に掲載・Google Forms で授業に関する質問票を作成し、URL を LMS に掲載

¹³ 授業設計は社会人向けに実施した杉原（2022）を参考にした。

オンデマンド動画① (3分)	・本日のテーマ、学習到達目標
オンデマンド動画② (10分)	・デジタル化に関する国の施策、自治体のデータ活用及びデジタル化事例
オンデマンド動画③ (13分)	・企業におけるデータ活用の現状と課題。事例：株式会社ワークマンの「エクセル経営」
オンデマンド動画④ (10分)	・V-RESAS の活用（新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響の可視化）＋個人ワーク①
オンデマンド動画⑤ (8分)	・e-Stat（政府統計）から見る地域の現状＋個人ワーク②
オンデマンド動画⑥ (10分)	・地域経済分析システム（RESAS：リーサス）の活用法＋個人ワーク③
課題（リアクションペーパー）	・3つのツールを実際に活用してわかったこと（6点満点）

3.3 オンデマンド動画の詳細

オンデマンド動画に関しては、動画①では本日のテーマ、学習到達目標を共有した。

次に、動画②ではデジタル化に関する国の施策として、デジタル庁が取りまとめた「デジタル社会の実現に向けた重点計画」や、内閣官房が取りまとめた「デジタル田園都市国家構想」の概要を解説した。さらに、自治体のデータ活用及びデジタル化事例として、e-Stat、RESAS などの公的統計データを活用した福岡県糸島市のマーケティングモデル推進事業や、神奈川県内の自治体における行政デジタル化の取り組み状況、新型コロナに関する自治体のデータや LINE による全国調査の分析結果、香川県の AI による交通事故危険度予測マップなどを紹介した。

動画③では、企業におけるデータ活用の優良事例として、株式会社ワークマンのエクセル経営を解説し、企業活動全般におけるデジタルデータ活用の現状と課題を共有するために、総務省が作成した令和2年版「情報通信白書」の中から該当する図表を読み解いた。

動画④から⑥は、地域に関するオープンデータを WEB 上で分析可能な3つのツール（V-RESAS、e-Stat、RESAS）に関する見方や活用法を解説した¹⁴。これらのツールは、かなり詳細な分析が可能であるが、本授業では複雑な操作やプログラミングによる分析ではなく、出来るだけ少ないクリックでデータ分析結果が可視化できる方法で解説動画を作成した¹⁵。

動画④では、V-RESAS（新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響の可視化）の見方と活用法について解説した。V-RESAS は、地方公共団体や金融機関、商工団体などが、新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響を適時適切に把握することで、観光関

¹⁴ 動画④から⑥のV-RESAS、e-Stat、RESASの見方と活用法に関するスライドの資料は本論文末尾の付録1に掲載。

¹⁵ 動画で解説した3つのツールの操作法については、PowerPointで作成した資料を巻末（付録1）に掲載している。

連施設や生活基盤等の地域資源を維持し、感染症拡大の収束後に地域経済を再活性化させていくための施策の立案、遂行及び改善への活用を想定している。具体的には人流や飲食、消費、宿泊、イベントなどの動きをコロナ以前の2019年との対比でグラフにより可視化している（図3、表3）。V-RESASは、データの更新頻度（週次）、リアルタイム性（タイムラグの少なさ）から速報性を重視している。事例として神奈川県の人流、消費、飲食のグラフを示して解説した。動画の最後に、個人ワーク①として、V-RESASで関心がある都道府県の人流や飲食、消費、宿泊などのデータから考察する（メモをする）ことを課した。



図3. V-RESAS 分析画面（神奈川県のサマリーの）¹⁶

表3. V-RESAS が扱っているデータ一覧

データ項目（前年比）	地域単位	時間単位	データ提供企業
人の流れ（人の動きの活発度）	都道府県／地点	週次	株式会社 Agoop
飲食店（グルメサイトの閲覧状況）	都道府県／エリア	週次	Retty 株式会社
決済データ（クレジットカード利用等での消費支出）	都道府県	半月次	株式会社ジェーシービー 株式会社ナウキャスト
POS（主にスーパーマーケットでの消費支出）	都道府県	週次	株式会社日本経済新聞社 株式会社ナウキャスト
宿泊施設（ホテル・旅館の予約の状況）	都道府県／エリア	月次／週次	観光予報プラットフォーム推進協議会

¹⁶ V-RESAS 分析画面から引用, <https://v-resas.go.jp/prefectures/14#population>, (2022年8月22日アクセス)

イベント（イベント開催やチケット予約の状況）	都道府県	月次	ぴあ株式会社
興味・関心（検索キーワード）	都道府県	週次	ヤフー株式会社
雇用（求人サイトの求人状況）	都道府県	週次	株式会社ゴーリスト
企業財務（会計アプリで見た企業の財務状況）	全国	月次	freee 株式会社

出典：令和2年12月 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局ビッグデータチーム経済産業省地域経済産業調査室「地域経済分析システム（RESAS, V-RESAS）について」

動画⑤では、国の統計調査（オープンデータ）について基礎的な説明をし、地域の現状把握という観点で、e-Stat（政府統計）の見方と活用法を解説した。1回の授業内でe-Statの全てを扱うことは時間の関係上難しいことから、受講生全員が住民として当事者意識を持つことができる「統計でみる市区町村のすがた」¹⁷を取り上げて、その中で市区町村の主要な統計データやグラフが表示可能な「統計ダッシュボード」の活用法を解説した。事例として、神奈川県横須賀市のグラフを示した（図4）。動画の最後に、個人ワーク②として、「統計でみる市区町村のすがた」で、関心がある市町村の統計ダッシュボードを閲覧したうえで考察する（メモをする）ことを課した。



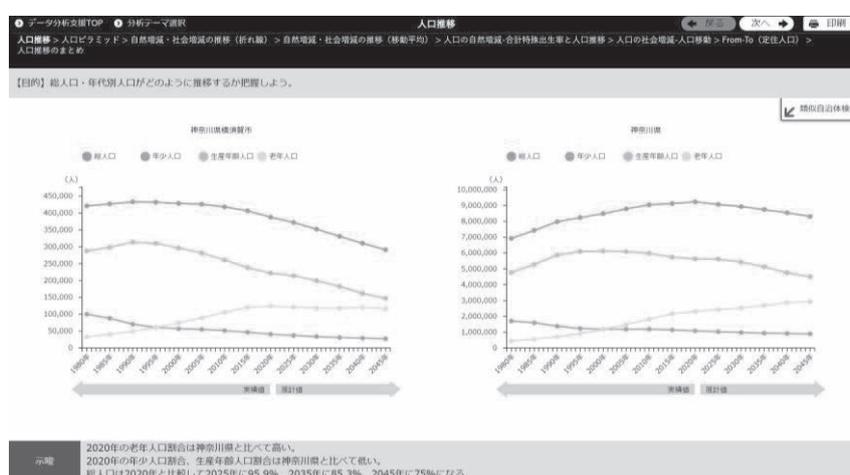
図4. 統計ダッシュボード分析画面（神奈川県横須賀市）¹⁸

¹⁷ 総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」を参照。

<https://www.stat.go.jp/data/ssds/index.html>, (2022年8月22日アクセス)

¹⁸ 総務省統計局「統計ダッシュボード」から引用。<https://dashboard.e-stat.go.jp/graphSearch/graphSearchResult?selectedCityCd=14201>, (2022年8月22日アクセス)

動画⑥では、RESAS（地域経済分析システム）の見方と活用法について解説した。具体的には、RESASは詳細な分析機能が搭載されているが、ここでは比較的容易な操作で分析可能な「データ分析支援」の機能を説明した。データ分析支援は、RESASに搭載されている数多くのデータ・分析グラフの中から、人口対策、産業や観光等、分析テーマに沿った代表的な分析画面を抽出して観点別で順番に表示することが可能である。各分析画面には、分析の視点となる「グラフの見方」、全国傾向と比較した特徴等を示す「示唆」、分析結果から施策を検討するヒントとしての「施策検討例」等、分析を支援するための様々なコメントが表示される。また他自治体との比較も可能である。動画では、神奈川県横須賀市の人口対策や産業を事例として操作法を解説した（図5）。動画の最後に、個人ワーク③として、動画やスライドの資料を参考にしながら、関心がある市区町村を1つ選択し、分析テーマを選択（人口、産業、観光）して可視化されたデータを基に考察する（メモをする）ことを課した。



4. 質問紙調査（WEB）の概要

RESAS（地域経済分析システム）及びe-Stat（政府統計）を活用した大学生対象のオンデマンド型授業について効果検証を行うため、質問紙調査（WEB）を実施した。

4.1 調査概要

受講生には、LMSで授業動画を視聴して、個人ワークに取り組んだうえで、Google Formによる質問紙調査への回答を依頼した²⁰。回答者は91人（受講生204人、回答率44.6%）

¹⁹ RESAS「データ分析支援」から引用。https://resas.go.jp/data-analysis-support/#/population-composition/14/14201/1/-, (2022年8月22日アクセス)

²⁰ 実査にあたっては回答者に対して、回答は任意であること、そして調査は個人が特定出来ないよう無記名で実施したうえで、回答結果は統計的に処理し、教育や研究活動のみに活用し、かつ成績には一切影響しない旨をLMS及びGoogle Formにて文章で伝えた。

であった。学年別は1年生37人、2年生32人、3年生16人、4年生以上6人であった。学部学科系統については、経済経営系20人、工学系43人、外国語・語学系27人で、その他1人であった。

4.2 質問項目

主な質問項目として、統計学やデータサイエンスに関する授業の履修経験や興味関心及びレベル、オンデマンド型動画のわかりやすさ、3つの分析ツールの利用経験、分析ツールの使いやすさ及び利点や課題、分析ツールの役立ち度、分析ツールを通じた地域の見方の変化、分析ツールを活用して身についた能力・スキル、今後の就職活動やキャリアで活かし方などを設定した。

4.3 リサーチクエスション

RESAS（地域経済分析システム）及びe-Stat（政府統計）を活用した大学生対象のオンデマンド型授業について効果検証を行うために、大きく5つの観点でリサーチクエスション（RQ）を立てた（表4）。RQ1では受講生の統計学やデータサイエンスの受講経験や興味関心、レベルの状況、RQ2ではV-RESAS、e-Stat、RESASの使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさ、RQ3ではV-RESAS、e-Stat、RESASのユーザビリティ（usability）、RQ4では分析ツールを通じた学修成果（learning outcomes）、RQ5では授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるか、について検証した。

表4. 本調査のリサーチクエスション

RQ1. 統計学やデータサイエンスの受講経験や興味関心、レベルの状況
RQ1-1. 統計学やデータサイエンスの受講経験
RQ1-2. 統計学やデータサイエンスに関する興味関心
RQ1-3. 統計学やデータサイエンスに関する自分自身のレベル
RQ2. V-RESAS、e-Stat、RESASの使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさ
RQ3. V-RESAS、e-Stat、RESASのユーザビリティ（usability）
RQ3-1. V-RESAS、e-Stat、RESASの利用経験
RQ3-2. V-RESAS、e-Stat、RESASの使いやすさ
RQ3-3. V-RESAS、e-Stat、RESASの役立ち度
RQ4. 分析ツールを通じた学修成果（learning outcomes）
RQ4-1. 分析ツールを活用して調べた地域でわかったこと
RQ4-2. 分析ツールで調べた結果、地域の見方が変化したか
RQ4-3. 分析ツールを活用して、身についた能力・スキル
RQ5. 授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるか

5 検証結果

5.1 RQ1. 統計学やデータサイエンスの受講経験や興味関心、レベルの状況

5.1.1 RQ1-1. 統計学やデータサイエンスの受講経験

統計学やデータサイエンスに関連する授業を履修経験に関して、回答結果は「履修したことがある、もしくは履修中である」13人(14.3%)、「履修したことはない」69人(75.8%)、「わからない」9人(9.9%)であり、統計学やデータサイエンス関連の受講経験は15%程度で、低い状況であった(図6)。

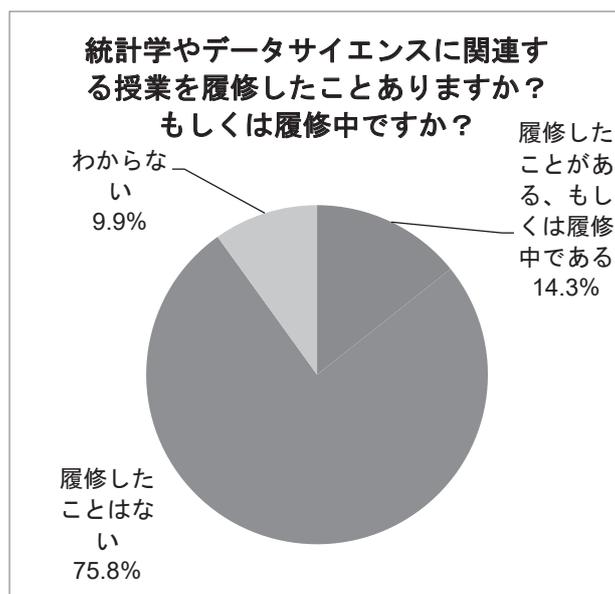


図6. 統計学やデータサイエンスの受講経験 (割合)

5.1.2 RQ1-2. 統計学やデータサイエンスに関する興味関心

統計学やデータサイエンスに関する興味関心に関して、回答結果は「かなり関心がある」3人(3.3%)、「まあ関心がある」34人(37.4%)、「あまり関心がない」41人(45.1%)、「全く関心がない」13人(14.3%)であり、4割程度は関心があるが、6割程度は関心がなく、割れている状況である(図7)。

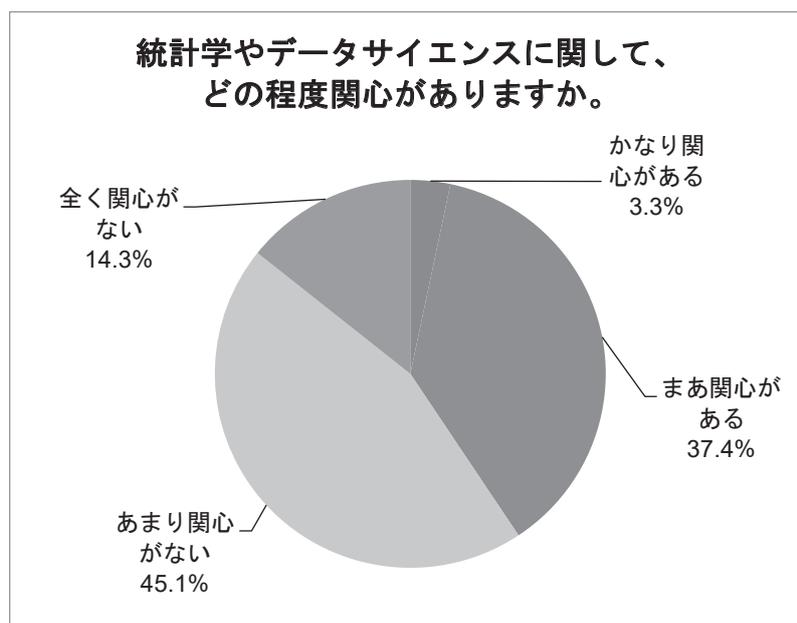


図 7. 統計学やデータサイエンスに関する興味関心 (割合)

さらに上記回答を選択した理由を自由記述で回答させた。その結果、関心があると回答した主な理由として、「データサイエンスが将来役立つから」(回答例：将来的にデータサイエンスシステムの道に進むつもり、今後の人生で役に立つと思ったからなど) や、「データや情報を分析することに関心がある」(回答例：統計データからわかるかことについて興味がある、情報を目に見えるように表し分析できるからなど)、「統計やデータサイエンスが社会で活用されているから」(回答例：現在は、スポーツや日常生活でデータが取り入れられているから、市場で何が人気になっているか気になるからなど) が挙げた。反対に関心がないと回答した主な理由として、「あまり関心がない」「やったことが無い」「データに触れることが難しそう」という意見が大半であり、データや情報を扱うこと自体に関心が薄く、かつ拒否反応を示していることが伺える。

5. 1. 3 RQ1-3. 統計学やデータサイエンスに関する自分自身のレベル

統計学やデータサイエンスに関する自分自身のレベルに関して、回答結果は「かなり得意である」0人(0.0%)、「まあ得意である」7人(7.7%)、「やや不得意である」26人(28.6%)、「不得意である」15人(16.5%)、「わからない」43人(47.3%)であり、わからないという回答が半数弱であり、そもそも統計学やデータサイエンスに関する学習経験が乏しいことが伺える。また、「わからない」を除いた大半が不得意と回答しており、苦手意識を抱いている受講生が多いことがわかる(図8)。

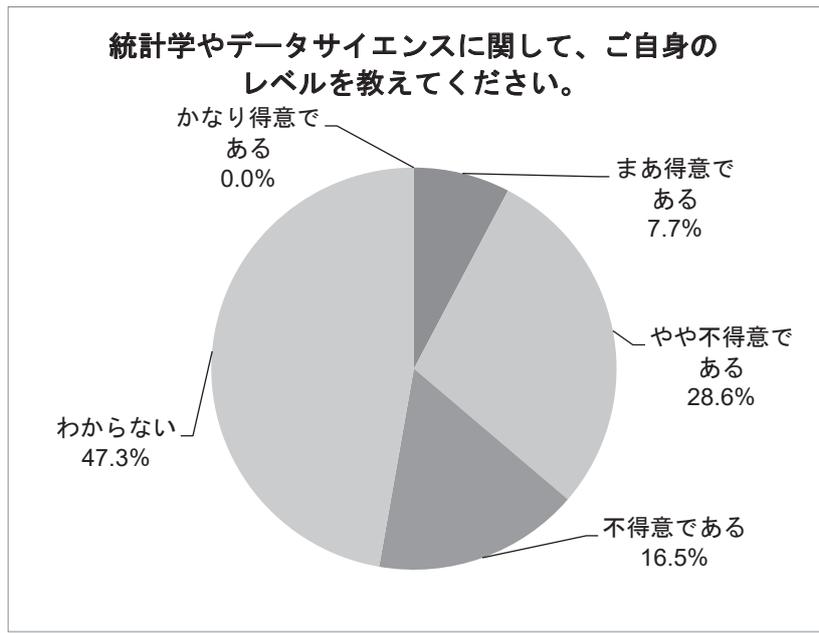


図 8. 統計学やデータサイエンスに関する自分自身のレベル (割合)

5.2 RQ2. V-RESAS、e-Stat、RESAS の使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさ
 V-RESAS、e-Stat、RESAS の使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさに関して、回答結果は「とてもわかりやすかった」45 人 (49.5%)、「まあわかりやすかった」43 人 (47.3%)、「少しわかりにくかった」2 人 (2.2%)、「わかりにくかった」1 人 (1.1%) であり、概ね解説動画はわかりやすいと評価されている (図 9)。

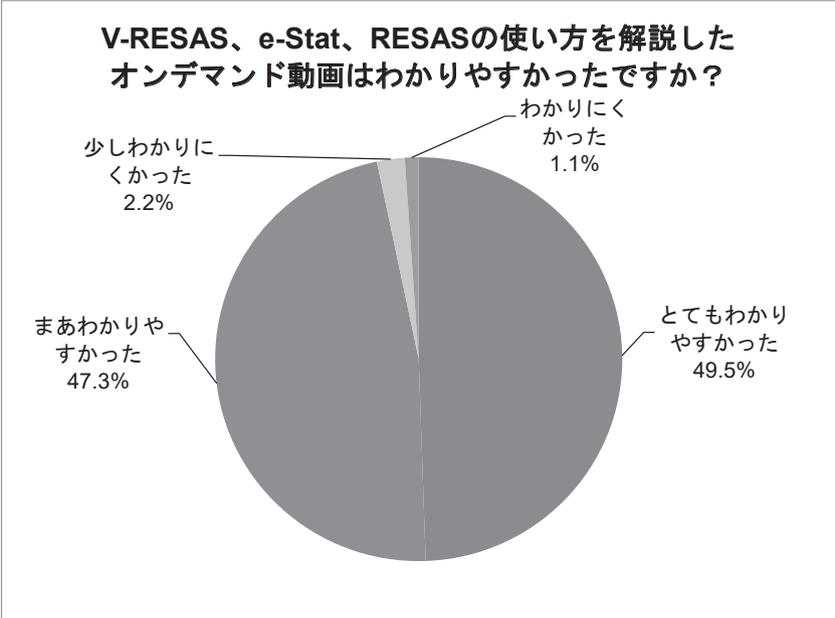


図 9. V-RESAS、e-Stat、RESAS の使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさ (割合)

5.3 RQ3. V-RESAS、e-Stat、RESAS のユーザビリティ (usability)

5.3.1 RQ3-1. V-RESAS、e-Stat、RESAS の利用経験

授業前の段階において、V-RESAS、e-Stat、RESAS の利用経験に関して、V-RESAS では「利用したことがあった 6 人 (6.6%)」「利用したことはなかった 85 人 (93.4%)」、e-Stat では「利用したことがあった 5 人 (5.5%)」「利用したことはなかった 86 人 (94.5%)」、RESAS では「利用したことがあった 5 人 (5.5%)」「利用したことはなかった 86 人 (94.5%)」であった。大多数はこれらのツールの利用経験がない状況で、授業に臨んでいた (図 10)。

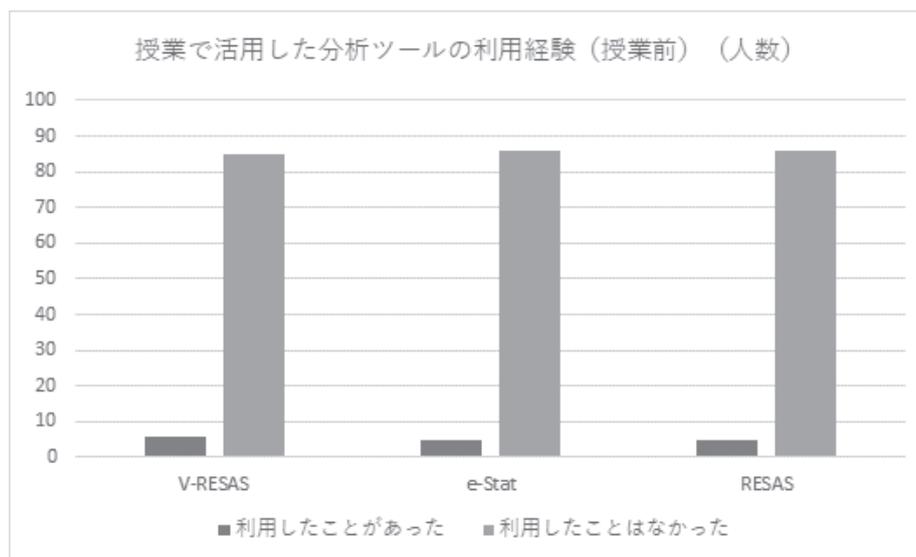


図 10. V-RESAS、e-Stat、RESAS の利用経験 (人数)

5.3.2 RQ3-2. V-RESAS、e-Stat、RESAS の使いやすさ

V-RESAS、e-Stat、RESAS の使いやすさに関して、V-RESAS では「とても使いやすかった 43 人 (47.3%)」「まあ使いやすかった 45 人 (49.5%)」「やや使いにくかった 3 人 (3.3%)」「使いにくかった 0 人 (0.0%)」、e-Stat では「とても使いやすかった 30 人 (33.0%)」「まあ使いやすかった 52 人 (57.1%)」「やや使いにくかった 9 人 (9.9%)」「使いにくかった 0 人 (0.0%)」、RESAS では「とても使いやすかった 24 人 (26.4%)」「まあ使いやすかった 52 人 (57.1%)」「やや使いにくかった 14 人 (15.4%)」「使いにくかった 1 人 (1.1%)」であった。概ね使いやすいという評価であったが、RESAS に関しては一定の受講生が使いにくさを感じていることが伺える (図 11) ²¹。

²¹ 前提として、受講生が 3 つのツールを操作したのは、今回のオンデマンド授業で扱った活用範囲に限定されている。その上での回答結果である。他の関連質問も同様である。

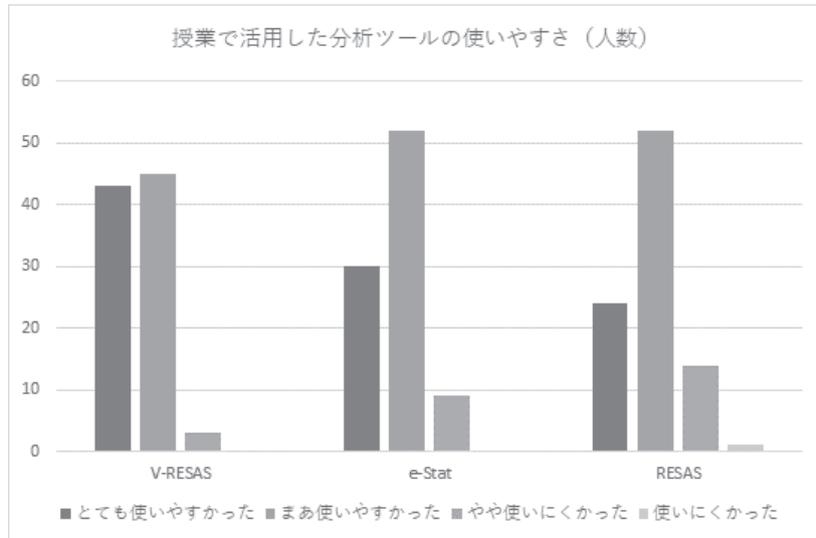


図 11. V-RESAS、e-Stat、RESAS の使いやすさ (人数)

5.3.3 RQ3-3. V-RESAS、e-Stat、RESAS の役立ち度

V-RESAS、e-Stat、RESAS の役立ち度に関して、V-RESAS では「とても役に立ちそう 43 人 (47.3%)」「まあ役に立ちそう 42 人 (46.2%)」「あまり役に立たない 6 人 (6.6%)」「役に立たない 0 人 (0.0%)」、e-Stat では「とても役に立ちそう 31 人 (34.1%)」「まあ役に立ちそう 51 人 (56.0%)」「あまり役に立たない 9 人 (9.9%)」「役に立たない 0 人 (0.0%)」、RESAS では「とても役に立ちそう 32 人 (35.2%)」「まあ役に立ちそう 49 人 (53.8%)」「あまり役に立たない 9 人 (9.9%)」「役に立たない 1 人 (1.1%)」であった。概ね役に立ちそうという評価であったが、e-Stat、RESAS に関して 1 割程度の受講生は役に立たないと感じている (図 12)。

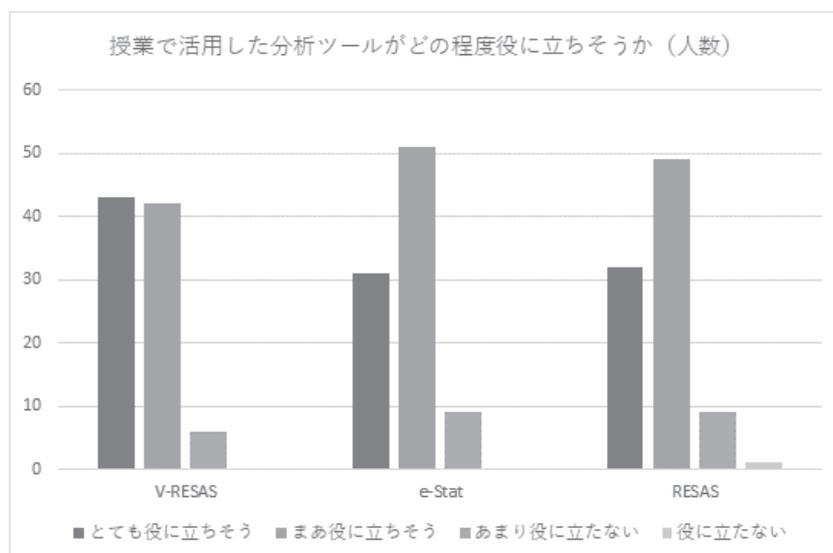


図 12. RQ3-3. V-RESAS、e-Stat、RESAS の役立ち度 (人数)

さらに、3つの分析ツールを使って良かったところや課題や改善点を把握するために、自由記述の内容をテキストマイニングの手法で分析を行った。分析には、テキスト（文章）データを統計的に分析するためのフリーソフトウェアであるKH Coder 3（樋口 2014）を活用した。3つの分析ツールを使ってみて良かったところの自由記述に関して、どのような語が多く出現し、それらの語が何回出現したか（出現回数：term frequency）について整理した。テキストデータの概要は、総抽出語数（使用数）は817(384)、異なり語数（使用数）は209(153)、文は71であった²²。分析した結果、上位から「データ（18回）」「見る（14回）」「グラフ（10回）」「知る（10回）」「使う（7回）」「情報（7回）」「分かる（7回）」であった。代表的な回答としては次の通りである。

- ・グラフやデータを見ると一目で数値がわかるところと人口だけでなく、世帯数などの詳細も書いてあり、わかりやすかった。
- ・産業、気候、食品など日常生活を送る上での欠かさないものをデータで見ることができる。
- ・一つの地域を調べるだけで様々な情報を見ることができる。

上記の回答例を見ても、様々な地域に関するデータや情報を図表化することで、理解につながっていることが、高評価の要因として考えられる。

反対に、3つの分析ツールを使ってみて困ったこと、課題や改善点についても分析した。テキストデータの概要は、総抽出語数（使用数）は492(252)、異なり語数（使用数）は181(122)、文は55であった。分析した結果、上位から「特に（13回）」「RESAS（6回）」「見る（6回）」「少し（6回）」「使う（5回）」「地域（5回）」「難しい（5回）」であった。「特に」に関しては、特にないや特にありませんという文章なので省くと、下記の回答例を見ても、RESASの使いにくさや見にくさを指摘する意見がやや目立ち、その他には分析の前提となる用語がわからない、より分析に役立つ機能が欲しいという意見が挙がっていた。

- ・RESASは一回事に調べないといけないので大変だった
- ・ある程度単語の意味を知っていないと何を表しているグラフなのかが、ぱっと見でわからないときがある
- ・他の地域と比較しにくいいため2つのデータを見比べられる機能があれば面白いなと思った

5.4 RQ4. 分析ツールを通じた学修成果（learning outcomes）

5.4.1 RQ4-1. 分析ツールを活用して調べた地域でわかったこと

分析ツールを活用して調べた地域でわかったことを把握するために、自由記述の内容をテキストマイニングの手法で分析を行った。テキストデータの概要は、総抽出語数（使用数）

²² 総抽出語数は分析対象に含まれている全ての語の延べ数、異なり語数は何種類の語が含まれていたかを示す数（語のカウント数）である。また、（使用数）は分析に使用する「語」の数である。

た」16人(17.6%)、「やや変化した」35人(38.5%)、「あまり変化しなかった」37人(40.7%)、「全く変化しなかった」3人(3.3%)であり、変化したという回答は半数を超えている一方で、半数弱は変化しなかったという回答であった(図14)。

さらに、変化したと回答した受講生に、地域に対する見方はどのように変化したかについて自由記述で回答させたところ、少子高齢化が想像以上に進行していたという意見が多数を占めており、その他には、自分が多いと思っていたものとは別のものが意外と生産されていたなどがあった。

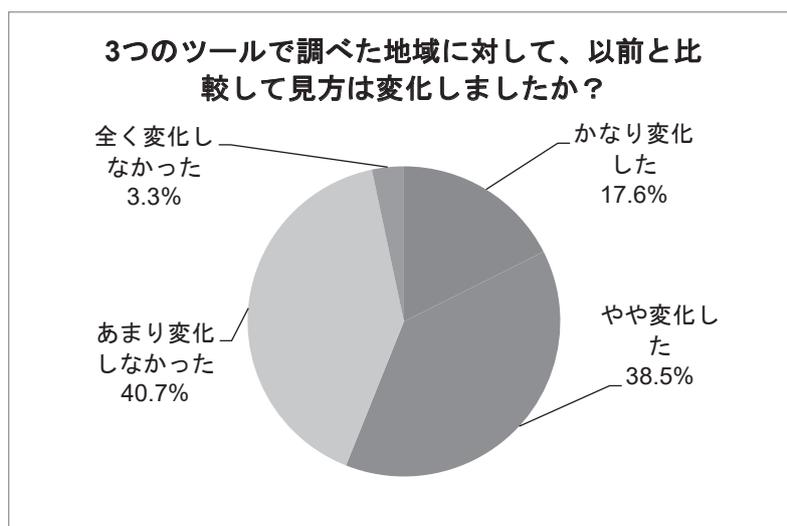


図14. 分析ツールで調べた結果、地域の見方が変化したか(割合)

5.4.3 RQ4-3. 分析ツールを活用して、身についた能力・スキル

分析ツールを活用して、身についた能力・スキルを把握するために、自由記述の内容をテキストマイニングの手法で分析を行った。テキストデータの概要は、総抽出語数(使用数)は760(417)、異なり語数(使用数)は208(155)、文は89であった。出現回数の上位の語は、「データ(26回)」「能力(25回)」「力(23回)」「分析(21回)」「グラフ(19回)」「情報(10回)」「比較(10回)」「読み取る(9回)」であった。さらに傾向を把握するために、共起ネットワーク分析で頻出語と語句の関係性を表出した(Nodes39, Edges61, Density. 082)(図15)。共起ネットワークから、データ分析やグラフを読み取る力、情報を理解する張力、地域に関する課題や見方というキーワードが想起可能である。具体的な回答例は次の通りである。

- ・複数のデータを比較し、変化や特色を読み取る能力
- ・グラフを見て何故そのような結果になったのかを考える考察力
- ・様々な地域を様々な分野で比較してみることでいろいろな視点から物事を見れるようになった。

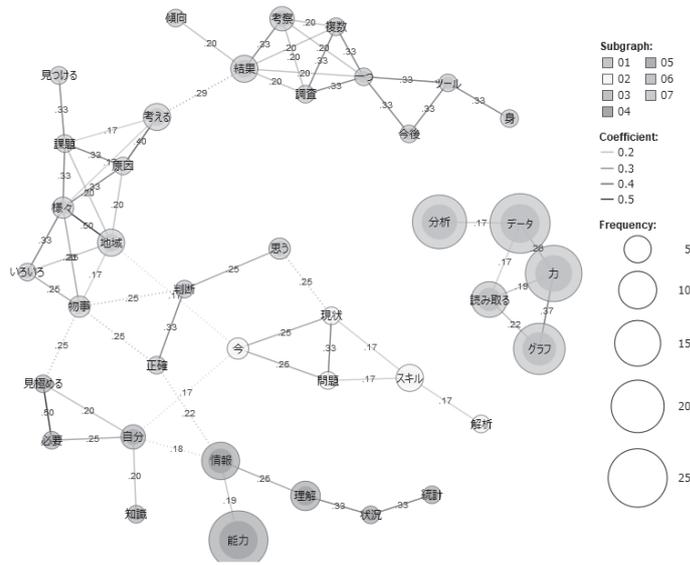


図 15. 分析ツールを活用して、身についた能力・スキル（共起ネットワーク）

5.5 RQ5. 授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるか

分析ツールを活用して、授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるかを把握するために、自由記述の内容をテキストマイニングの手法で分析を行った。テキストデータの概要は、総抽出語数（使用数）は 1503（648）、異なり語数（使用数）は 65(267)、文は 92 であった。出現回数の上位の語は、「思う（31 回）」「データ（27 回）」「自分（14 回）」「地域（14 回）」「分析（14 回）」「見る（13 回）」「活かす（9 回）」「就職（9 回）」であった。さらに傾向を把握するために、共起ネットワーク分析で頻出語と語句の関係性を表出した（Nodes41、Edges60、Density.073）（図 16）。出現回数上位語や共起ネットワークから、データ分析や地域というキーワードは想起されるが、詳細を把握するために主な回答を以下に例示する。回答例からは、地域貢献やマーケティング、起業など様々な目的で学習したことを活かせると考えていることが伺える。

- ・公務員系を志望しているので、地域の活性化につなげるためにデータを活用して、地域の活性化に貢献したい。
- ・ある地域で商品売りたいとなった時に、客層などをデータで見て分析して商品売ることができる。
- ・少子高齢化という言葉を実感するとともに今の日本における人口推移をデータとして理解して自分が起業する際の参考になる。
- ・自分は将来、観光業などに就きたいと思っているので外国からの観光客にとってどの地域が人気なのか知る際にデータを見ることは役に立つと思いました。
- ・自分の住む地域の求人のグラフを見て職業選択の参考にする。
- ・サッカーチームを作ることを将来的に考えているので、どの地域にどのくらいの学生がい

るのかを分析できるので、拠点選びに有効な手段であると思った。

・データの読み取る力や、自分の持っている情報を駆使して物事を考える力を様々な所に活かせることができたと思った。

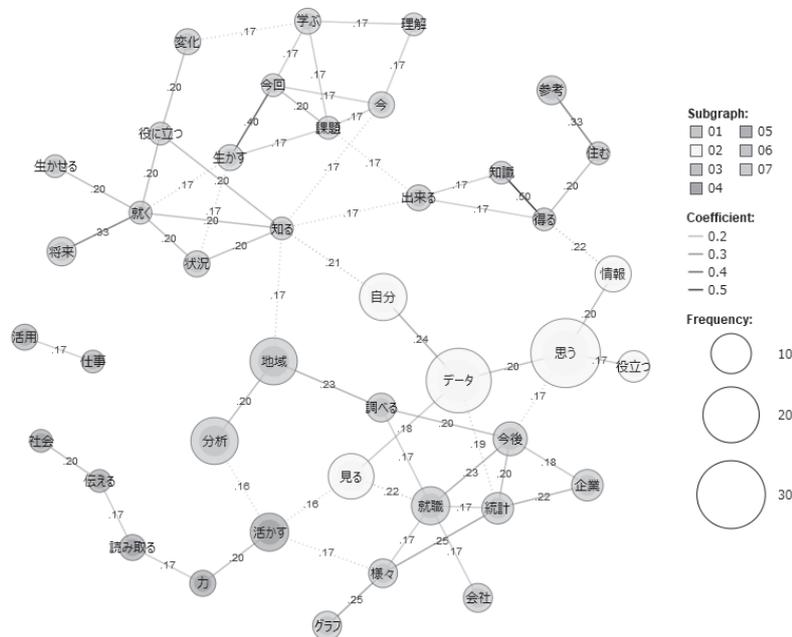


図 16. 授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるか (共起ネットワーク)

6. まとめ

本稿では、RESAS（地域経済分析システム）及びe-Stat（政府統計）を活用した大学生対象のオンデマンド型授業に関する実践と検証についてまとめた。先行研究や事例を踏まえても、RESAS や e-Stat を活用したオンデマンド型の大学生対象のデータサイエンス教育は新たな試みと言えよう。今回の授業実践は 1 回分であり、これらを十分に活用するには短く、制限された環境での取り組みとなった。

質問紙調査（WEB）の検証を整理すると、RQ1. 統計学やデータサイエンスの受講経験や興味関心、レベルの状況については、大半の受講生は受講経験がなく、半数弱が関心を抱いているものの、データ分析や数字に拒否反応を示している学生が一定数見受けられた。RQ2. V-RESAS、e-Stat、RESAS の使い方を解説したオンデマンド動画のわかりやすさについては、概ねわかりやすいという評価で、10 分程度の短い解説で、使いやすい機能に焦点化して、具体的な操作法を見せたことが一因と考えられる。RQ3. V-RESAS、e-Stat、RESAS のユーザビリティ (usability) についても、概ね使いやすく、役に立つという感想であったが、RESAS については、V-RESAS、e-Stat と比較して、使いにくい、見にくいなどネガティブな意見が散見された。RQ4. 分析ツールを通じた学修成果 (learning outcomes) については、これらのツールを活用したことで地域の見方が変化した受講生も半数以上存在し、特に少子高齢

化が進行していることがわかったという意見が多かった。また、授業を通じて、データ分析や情報を読み解く力、いわゆるデータリテラシーのスキルを習得できたという声が寄せられた。RQ5. 授業で学習したことを就職活動やキャリアデザインにどのように活かせるかについては、地域やデータ分析というキーワードを軸に、行政（公務員）やビジネス、起業などで活かそうという意見が挙がった。

RESAS や e-Stat は多数の機能があり、授業担当者としてはもっと詳細な機能も活用して、学生に地域の分析や提言を行わせたいと考えてしまうが、特に初学者向けの教育や教授法としては、テーマや目的を明確にしたうえで、授業で取り扱う機能を焦点化する必要があると実感した。あまり操作が複雑な機能を詰め込んで教えると消化不良になりやすいからだ。先に示した社会人対象の鼓山塾におけるオンライン講座でも、90 分の講義で RESAS を扱ったが、「人口データを触ること」の体験に限定し、後半の 40 分は岡山県や真庭市について、分析の実演をしたうえで、受講生との活発なディスカッションを実施している。これらのツールを活用し、更なる成果を得ようとするならば、複数回講義で、かつ受講生が授業外学習も含めて分析した成果をプレゼンテーションする機会も必要であろう。

今回のオンデマンド型の授業実践は萌芽的な取り組みであり、改善の余地は多いものの、検証結果からも一定の成果を得ることができたと考えられる。RESAS や e-Stat などのオープンデータを活用したデータサイエンス教育は発展途上であり、今後の教育実践や研究を通じて貢献していきたい。

参考文献

- 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム, 2020, 数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラム～データ思考の涵養～
- 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム, 2021, 数理・データサイエンス・AI (応用基礎レベル) モデルカリキュラム～AI×データ活用の実践～
- 杉原亨, 2022, RESAS (地域経済分析システム) 及び e-Stat (政府統計) を活用した社会人向けオンライン公開講座「データサイエンス」における実践, 関東学院大学 KGU 教職課程ジャーナル Vol. 19, pp. 28-35
- 伊達平和・清水昌平・竹村彰通, 2022, 滋賀大学データサイエンス学部及び研究科の育成人材像と育成実績, 工学教育 vol170, no. 1, pp. 7-12
- 統合イノベーション戦略推進会議, 2019, AI 戦略 2019～人・産業・地域・政府全てに AI～
- 統合イノベーション戦略推進会議, 2022, AI 戦略 2022
- 内閣府, 2015, 科学技術イノベーション総合戦略 2015
- 日本学術会議情報学委員会, 2014, ビッグデータ時代に対応する人材の育成
- 日本学術会議数理科学委員会数理統計分科会, 2015, ビッグデータ時代における統計科学教育・研究の推進について
- 樋口耕一, 2014, 社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して,

ナカニシヤ出版

AMSTATNEWS, 2020, Strong Growth for Statistics and Biostatistics DEGREES Continues
Through 2019

V-RESASの活用（新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響の可視化）

<https://v-resas.go.jp/>

V-RESASとは？

- 地方創生の様々な取組を情報面から支援するために、内閣府地方創生推進室と内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が提供。2020年6月から開始。
- 地方公共団体や金融機関、商工団体等の皆様が、新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響を適時適切に把握することで、観光関連施設や生活基盤等の地域資源を維持し、感染症拡大の収束後に地域経済を再活性化させていくための施策の立案、遂行及び改善に活用。

V-RESASのデータについて

データ	地域単位	時間単位	データ提供企業
人の流れ（人の動きの活発度）	都道府県/地点	週次	株式会社Agoop
飲食店（グルメサイトの閲覧状況）	都道府県/エリア	週次	Retty株式会社
決済データ（クレジットカード利用等の消費支出）	都道府県	半月次	株式会社ジーシー 株式会社ナウキャスト
POS（主にスーパーマーケットでの消費支出）	都道府県	週次	株式会社日本経済新聞社 株式会社ナウキャスト
宿泊施設（予約サイト・旅館の予約状況）	都道府県/エリア	月次/週次	観光予約プラットフォーム推進協議会
イベント（イベント開催やチケット予約状況）	都道府県	月次	びん株式会社
興味・関心（検索キーワード）	都道府県	週次	ヤフー株式会社
雇用（求人サイトの求人状況）	都道府県	週次	株式会社ゴースト
企業財務（会計ソフトで見た企業の財務状況）	全国	月次	freee株式会社

3 出典：内閣府「VRESAS 開発の背景・便利な使い方のご紹介」

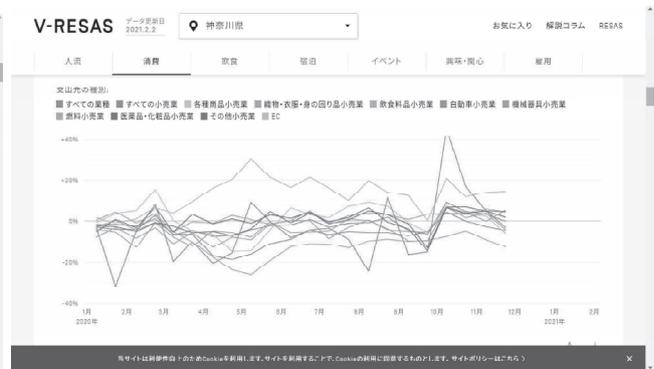
トップページでは全国傾向が確認できる。
都道府県で調査可能。



各項目で見てみましょう！<人流>
⇒気づいたことなど



<消費>



<飲食>



地域の特徴は？

- 宿泊
- イベント
- 興味・関心
- 雇用

はどうでしょう？

個人ワーク① (V-RESAS)

- V-RESASで関心がある都道府県のデータから考察する。

<手順>

- ① 関心がある都道府県を1つ選択する。
- ② 人流、消費、飲食、宿泊、イベント、雇用のデータを見て、特に気になったことをメモをする。
- ③ 今回の課題への回答としてまとめる。

9

e-Stat (政府統計) から見る地域の現状

国の統計調査 (オープンデータ)

- 人口、世帯、収入
- 雇用、企業
- 消費、物価
- 産業、経済
- 気象、地理
- 施設、観光
- 地図、道路 など

かなりの分野でオープン化されつつある。
※医療や納税、位置情報など個人に関わるものはクローズ

11

国の統計調査 (オープンデータ)

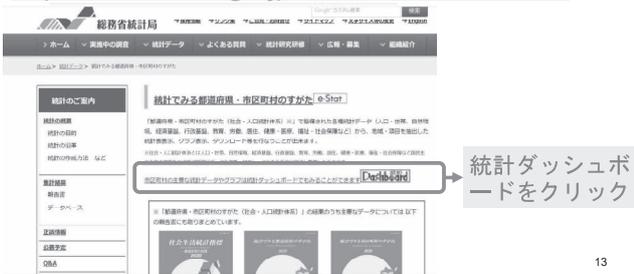
- オープン化されたデータを活用するための主なサイト

- ① e-Stat (政府統計) ⇒ 今回の一部分だけ活用してみます。
- ② 地域経済分析システム (RESAS: リーサス) ⇒ 別の動画で扱います。

12

まずは地域の全体像を把握してみる
(事例: 神奈川県横須賀市)

- 「統計でみる市区町村のすがた」
<https://www.stat.go.jp/data/ssds/index.html>



13

① グラフをみる、② 市区町村へをクリック



14

① 神奈川県をクリック

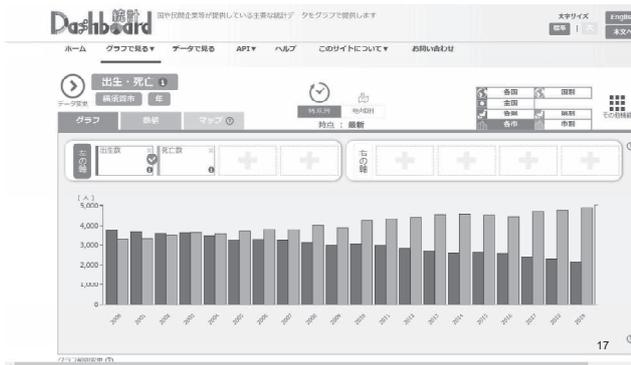


15

横須賀市の様々なデータを一覧できる



個別で詳細なデータを閲覧することが可能
(出生・死亡⇒年々死亡者数が上回っている)



個人ワーク② (e-Stat)

□ 「統計でみる市区町村のすがた」
<https://www.stat.go.jp/data/ssds/index.html>

- ① 先ほどのスライド (動画) を参考にしながら、関心がある市区町村を1つ選択。
- ② 選択した市区町村のダッシュボードを見て、特に気になったことをメモをする。
- ③ 今回の課題への回答としてまとめる。

地域経済分析システム (RESAS : リーサス) の活用法

RESAS トップページ
<https://resas.go.jp/#/14/14201>

19

地域経済分析システム (RESAS) について
~ egional conomy ociety analyzing system ~

- 地域経済に関する官民の様々なデータを、地図やグラフ等で分かりやすく見える化しているシステム
- 各地域が、自らの強み・弱みや課題を分析し、その解決策を検討することを後押しするツール
- 地方公共団体等における、データに基づく施策立案 (EBPM) をさらに促進
- 2015年4月よりサービス、8マップ81メニューを提供

RESASメニューの例

「産業構造」マップ：産業の構造
地域産業の業種・工場別から、雇用を発生させた産業や所産を生み出している産業を把握。重点的に支援すべき産業の検討が可能。

売上高 (企業単位) 中分類 2016年 静岡県浜松市

売上高の約3割が輸出用機械器具製造業、売上の増減、業種別に集約して、企業別全体像を一目で把握可能。

「観光」マップ：外国人観光客の比較 (観光客カード)
外国人観光客の地域別・業種別・性別・年齢別を分析し、新規企業や観光施設の立案に活用可能。

県-地域経済活動の推移 北蒲原 2017年10月~2019年9月

県-2019年観光客は年増、多国籍、性別・年齢・国籍・性別の観光客は、比較対照を可能にする。

「まちづくり」マップ：From-to分析 (滞在人口)
ある地域の人口が、どの程度増減、市区町村から移動してきたかを把握。自地域に人を呼び込む施策など、まちづくりの立案に活用可能。

滞在人口の推移 2019年 静岡県浜松市

平日14時~16時、平日16時~18時、平日18時~20時、平日20時~22時、平日22時~24時、平日24時~26時、平日26時~28時、平日28時~30時、平日30時~32時、平日32時~34時、平日34時~36時、平日36時~38時、平日38時~40時、平日40時~42時、平日42時~44時、平日44時~46時、平日46時~48時、平日48時~50時、平日50時~52時、平日52時~54時、平日54時~56時、平日56時~58時、平日58時~60時、平日60時~62時、平日62時~64時、平日64時~66時、平日66時~68時、平日68時~70時、平日70時~72時、平日72時~74時、平日74時~76時、平日76時~78時、平日78時~80時、平日80時~82時、平日82時~84時、平日84時~86時、平日86時~88時、平日88時~90時、平日90時~92時、平日92時~94時、平日94時~96時、平日96時~98時、平日98時~100時、平日100時~102時、平日102時~104時、平日104時~106時、平日106時~108時、平日108時~110時、平日110時~112時、平日112時~114時、平日114時~116時、平日116時~118時、平日118時~120時、平日120時~122時、平日122時~124時、平日124時~126時、平日126時~128時、平日128時~130時、平日130時~132時、平日132時~134時、平日134時~136時、平日136時~138時、平日138時~140時、平日140時~142時、平日142時~144時、平日144時~146時、平日146時~148時、平日148時~150時、平日150時~152時、平日152時~154時、平日154時~156時、平日156時~158時、平日158時~160時、平日160時~162時、平日162時~164時、平日164時~166時、平日166時~168時、平日168時~170時、平日170時~172時、平日172時~174時、平日174時~176時、平日176時~178時、平日178時~180時、平日180時~182時、平日182時~184時、平日184時~186時、平日186時~188時、平日188時~190時、平日190時~192時、平日192時~194時、平日194時~196時、平日196時~198時、平日198時~200時、平日200時~202時、平日202時~204時、平日204時~206時、平日206時~208時、平日208時~210時、平日210時~212時、平日212時~214時、平日214時~216時、平日216時~218時、平日218時~220時、平日220時~222時、平日222時~224時、平日224時~226時、平日226時~228時、平日228時~230時、平日230時~232時、平日232時~234時、平日234時~236時、平日236時~238時、平日238時~240時、平日240時~242時、平日242時~244時、平日244時~246時、平日246時~248時、平日248時~250時、平日250時~252時、平日252時~254時、平日254時~256時、平日256時~258時、平日258時~260時、平日260時~262時、平日262時~264時、平日264時~266時、平日266時~268時、平日268時~270時、平日270時~272時、平日272時~274時、平日274時~276時、平日276時~278時、平日278時~280時、平日280時~282時、平日282時~284時、平日284時~286時、平日286時~288時、平日288時~290時、平日290時~292時、平日292時~294時、平日294時~296時、平日296時~298時、平日298時~300時、平日300時~302時、平日302時~304時、平日304時~306時、平日306時~308時、平日308時~310時、平日310時~312時、平日312時~314時、平日314時~316時、平日316時~318時、平日318時~320時、平日320時~322時、平日322時~324時、平日324時~326時、平日326時~328時、平日328時~330時、平日330時~332時、平日332時~334時、平日334時~336時、平日336時~338時、平日338時~340時、平日340時~342時、平日342時~344時、平日344時~346時、平日346時~348時、平日348時~350時、平日350時~352時、平日352時~354時、平日354時~356時、平日356時~358時、平日358時~360時、平日360時~362時、平日362時~364時、平日364時~366時、平日366時~368時、平日368時~370時、平日370時~372時、平日372時~374時、平日374時~376時、平日376時~378時、平日378時~380時、平日380時~382時、平日382時~384時、平日384時~386時、平日386時~388時、平日388時~390時、平日390時~392時、平日392時~394時、平日394時~396時、平日396時~398時、平日398時~400時、平日400時~402時、平日402時~404時、平日404時~406時、平日406時~408時、平日408時~410時、平日410時~412時、平日412時~414時、平日414時~416時、平日416時~418時、平日418時~420時、平日420時~422時、平日422時~424時、平日424時~426時、平日426時~428時、平日428時~430時、平日430時~432時、平日432時~434時、平日434時~436時、平日436時~438時、平日438時~440時、平日440時~442時、平日442時~444時、平日444時~446時、平日446時~448時、平日448時~450時、平日450時~452時、平日452時~454時、平日454時~456時、平日456時~458時、平日458時~460時、平日460時~462時、平日462時~464時、平日464時~466時、平日466時~468時、平日468時~470時、平日470時~472時、平日472時~474時、平日474時~476時、平日476時~478時、平日478時~480時、平日480時~482時、平日482時~484時、平日484時~486時、平日486時~488時、平日488時~490時、平日490時~492時、平日492時~494時、平日494時~496時、平日496時~498時、平日498時~500時、平日500時~502時、平日502時~504時、平日504時~506時、平日506時~508時、平日508時~510時、平日510時~512時、平日512時~514時、平日514時~516時、平日516時~518時、平日518時~520時、平日520時~522時、平日522時~524時、平日524時~526時、平日526時~528時、平日528時~530時、平日530時~532時、平日532時~534時、平日534時~536時、平日536時~538時、平日538時~540時、平日540時~542時、平日542時~544時、平日544時~546時、平日546時~548時、平日548時~550時、平日550時~552時、平日552時~554時、平日554時~556時、平日556時~558時、平日558時~560時、平日560時~562時、平日562時~564時、平日564時~566時、平日566時~568時、平日568時~570時、平日570時~572時、平日572時~574時、平日574時~576時、平日576時~578時、平日578時~580時、平日580時~582時、平日582時~584時、平日584時~586時、平日586時~588時、平日588時~590時、平日590時~592時、平日592時~594時、平日594時~596時、平日596時~598時、平日598時~600時、平日600時~602時、平日602時~604時、平日604時~606時、平日606時~608時、平日608時~610時、平日610時~612時、平日612時~614時、平日614時~616時、平日616時~618時、平日618時~620時、平日620時~622時、平日622時~624時、平日624時~626時、平日626時~628時、平日628時~630時、平日630時~632時、平日632時~634時、平日634時~636時、平日636時~638時、平日638時~640時、平日640時~642時、平日642時~644時、平日644時~646時、平日646時~648時、平日648時~650時、平日650時~652時、平日652時~654時、平日654時~656時、平日656時~658時、平日658時~660時、平日660時~662時、平日662時~664時、平日664時~666時、平日666時~668時、平日668時~670時、平日670時~672時、平日672時~674時、平日674時~676時、平日676時~678時、平日678時~680時、平日680時~682時、平日682時~684時、平日684時~686時、平日686時~688時、平日688時~690時、平日690時~692時、平日692時~694時、平日694時~696時、平日696時~698時、平日698時~700時、平日700時~702時、平日702時~704時、平日704時~706時、平日706時~708時、平日708時~710時、平日710時~712時、平日712時~714時、平日714時~716時、平日716時~718時、平日718時~720時、平日720時~722時、平日722時~724時、平日724時~726時、平日726時~728時、平日728時~730時、平日730時~732時、平日732時~734時、平日734時~736時、平日736時~738時、平日738時~740時、平日740時~742時、平日742時~744時、平日744時~746時、平日746時~748時、平日748時~750時、平日750時~752時、平日752時~754時、平日754時~756時、平日756時~758時、平日758時~760時、平日760時~762時、平日762時~764時、平日764時~766時、平日766時~768時、平日768時~770時、平日770時~772時、平日772時~774時、平日774時~776時、平日776時~778時、平日778時~780時、平日780時~782時、平日782時~784時、平日784時~786時、平日786時~788時、平日788時~790時、平日790時~792時、平日792時~794時、平日794時~796時、平日796時~798時、平日798時~800時、平日800時~802時、平日802時~804時、平日804時~806時、平日806時~808時、平日808時~810時、平日810時~812時、平日812時~814時、平日814時~816時、平日816時~818時、平日818時~820時、平日820時~822時、平日822時~824時、平日824時~826時、平日826時~828時、平日828時~830時、平日830時~832時、平日832時~834時、平日834時~836時、平日836時~838時、平日838時~840時、平日840時~842時、平日842時~844時、平日844時~846時、平日846時~848時、平日848時~850時、平日850時~852時、平日852時~854時、平日854時~856時、平日856時~858時、平日858時~860時、平日860時~862時、平日862時~864時、平日864時~866時、平日866時~868時、平日868時~870時、平日870時~872時、平日872時~874時、平日874時~876時、平日876時~878時、平日878時~880時、平日880時~882時、平日882時~884時、平日884時~886時、平日886時~888時、平日888時~890時、平日890時~892時、平日892時~894時、平日894時~896時、平日896時~898時、平日898時~900時、平日900時~902時、平日902時~904時、平日904時~906時、平日906時~908時、平日908時~910時、平日910時~912時、平日912時~914時、平日914時~916時、平日916時~918時、平日918時~920時、平日920時~922時、平日922時~924時、平日924時~926時、平日926時~928時、平日928時~930時、平日930時~932時、平日932時~934時、平日934時~936時、平日936時~938時、平日938時~940時、平日940時~942時、平日942時~944時、平日944時~946時、平日946時~948時、平日948時~950時、平日950時~952時、平日952時~954時、平日954時~956時、平日956時~958時、平日958時~960時、平日960時~962時、平日962時~964時、平日964時~966時、平日966時~968時、平日968時~970時、平日970時~972時、平日972時~974時、平日974時~976時、平日976時~978時、平日978時~980時、平日980時~982時、平日982時~984時、平日984時~986時、平日986時~988時、平日988時~990時、平日990時~992時、平日992時~994時、平日994時~996時、平日996時~998時、平日998時~1000時、平日1000時~1002時、平日1002時~1004時、平日1004時~1006時、平日1006時~1008時、平日1008時~1010時、平日1010時~1012時、平日1012時~1014時、平日1014時~1016時、平日1016時~1018時、平日1018時~1020時、平日1020時~1022時、平日1022時~1024時、平日1024時~1026時、平日1026時~1028時、平日1028時~1030時、平日1030時~1032時、平日1032時~1034時、平日1034時~1036時、平日1036時~1038時、平日1038時~1040時、平日1040時~1042時、平日1042時~1044時、平日1044時~1046時、平日1046時~1048時、平日1048時~1050時、平日1050時~1052時、平日1052時~1054時、平日1054時~1056時、平日1056時~1058時、平日1058時~1060時、平日1060時~1062時、平日1062時~1064時、平日1064時~1066時、平日1066時~1068時、平日1068時~1070時、平日1070時~1072時、平日1072時~1074時、平日1074時~1076時、平日1076時~1078時、平日1078時~1080時、平日1080時~1082時、平日1082時~1084時、平日1084時~1086時、平日1086時~1088時、平日1088時~1090時、平日1090時~1092時、平日1092時~1094時、平日1094時~1096時、平日1096時~1098時、平日1098時~1100時、平日1100時~1102時、平日1102時~1104時、平日1104時~1106時、平日1106時~1108時、平日1108時~1110時、平日1110時~1112時、平日1112時~1114時、平日1114時~1116時、平日1116時~1118時、平日1118時~1120時、平日1120時~1122時、平日1122時~1124時、平日1124時~1126時、平日1126時~1128時、平日1128時~1130時、平日1130時~1132時、平日1132時~1134時、平日1134時~1136時、平日1136時~1138時、平日1138時~1140時、平日1140時~1142時、平日1142時~1144時、平日1144時~1146時、平日1146時~1148時、平日1148時~1150時、平日1150時~1152時、平日1152時~1154時、平日1154時~1156時、平日1156時~1158時、平日1158時~1160時、平日1160時~1162時、平日1162時~1164時、平日1164時~1166時、平日1166時~1168時、平日1168時~1170時、平日1170時~1172時、平日1172時~1174時、平日1174時~1176時、平日1176時~1178時、平日1178時~1180時、平日1180時~1182時、平日1182時~1184時、平日1184時~1186時、平日1186時~1188時、平日1188時~1190時、平日1190時~1192時、平日1192時~1194時、平日1194時~1196時、平日1196時~1198時、平日1198時~1200時、平日1200時~1202時、平日1202時~1204時、平日1204時~1206時、平日1206時~1208時、平日1208時~1210時、平日1210時~1212時、平日1212時~1214時、平日1214時~1216時、平日1216時~1218時、平日1218時~1220時、平日1220時~1222時、平日1222時~1224時、平日1224時~1226時、平日1226時~1228時、平日1228時~1230時、平日1230時~1232時、平日1232時~1234時、平日1234時~1236時、平日1236時~1238時、平日1238時~1240時、平日1240時~1242時、平日1242時~1244時、平日1244時~1246時、平日1246時~1248時、平日1248時~1250時、平日1250時~1252時、平日1252時~1254時、平日1254時~1256時、平日1256時~1258時、平日1258時~1260時、平日1260時~1262時、平日1262時~1264時、平日1264時~1266時、平日1266時~1268時、平日1268時~1270時、平日1270時~1272時、平日1272時~1274時、平日1274時~1276時、平日1276時~1278時、平日1278時~1280時、平日1280時~1282時、平日1282時~1284時、平日1284時~1286時、平日1286時~1288時、平日1288時~1290時、平日1290時~1292時、平日1292時~1294時、平日1294時~1296時、平日1296時~1298時、平日1298時~1300時、平日1300時~1302時、平日1302時~1304時、平日1304時~1306時、平日1306時~1308時、平日1308時~1310時、平日1310時~1312時、平日1312時~1314時、平日1314時~1316時、平日1316時~1318時、平日1318時~1320時、平日1320時~1322時、平日1322時~1324時、平日1324時~1326時、平日1326時~1328時、平日1328時~1330時、平日1330時~1332時、平日1332時~1334時、平日1334時~1336時、平日1336時~1338時、平日1338時~1340時、平日1340時~1342時、平日1342時~1344時、平日1344時~1346時、平日1346時~1348時、平日1348時~1350時、平日1350時~1352時、平日1352時~1354時、平日1354時~1356時、平日1356時~1358時、平日1358時~1360時、平日1360時~1362時、平日1362時~1364時、平日1364時~1366時、平日1366時~1368時、平日1368時~1370時、平日1370時~1372時、平日1372時~1374時、平日1374時~1376時、平日1376時~1378時、平日1378時~1380時、平日1380時~1382時、平日1382時~1384時、平日1384時~1386時、平日1386時~1388時、平日1388時~1390時、平日1390時~1392時、平日1392時~1394時、平日1394時~1396時、平日1396時~1398時、平日1398時~1400時、平日1400時~1402時、平日1402時~1404時、平日1404時~1406時、平日1406時~1408時、平日1408時~1410時、平日1410時~1412時、平日1412時~1414時、平日1414時~1416時、平日1416時~1418時、平日1418時~1420時、平日1420時~1422時、平日1422時~1424時、平日1424時~1426時、平日1426時~1428時、平日1428時~1430時、平日1430時~1432時、平日1432時~1434時、平日1434時~1436時、平日1436時~1438時、平日1438時~1440時、平日1440時~1442時、平日1442時~1444時、平日1444時~1446時、平日1446時~1448時、平日1448時~1450時、平日1450時~1452時、平日1452時~1454時、平日1454時~1456時、平日1456時~1458時、平日1458時~1460時、平日1460時~1462時、平日1462時~1464時、平日1464時~1466時、平日1466時~1468時、平日1468時~1470時、平日1470時~1472時、平日1472時~1474時、平日1474時~1476時、平日1476時~1478時、平日1478時~1480時、平日1480時~1482時、平日1482時~1484時、平日1484時~1486時、平日1486時~1488時、平日1488時~1490時、平日1490時~1492時、平日1492時~1494時、平日1494時~1496時、平日1496時~1498時、平日1498時~1500時、平日1500時~1502時、平日1502時~1504時、平日1504時~1506時、平日1506時~1508時、平日1508時~1510時、平日1510時~1512時、平日1512時~1514時、平日1514時~1516時、平日1516時~1518時、平日1518時~1520時、平日1520時~1522時、平日1522時~1524時、平日1524時~1526時、平日1526時~1528時、平日1528時~1530時、平日1530時~1532時、平日1532時~1534時、平日1534時~1536時、平日1536時~1538時、平日1538時~1540時、平日1540時~1542時、平日1542時~1544時、平日1544時~1546時、平日1546時~1548時、平日1548時~1550時、平日1550時~1552時、平日1552時~1554時、平日1554時~1556時、平日1556時~1558時、平日1558時~1560時、平日1560時~1562時、平日1562時~1564時、平日1564時~1566時、平日1566時~1568時、平日1568時~1570時、平日1570時~1572時、平日1572時~1574時、平日1574時~1576時、平日1576時~1578時、平日1578時~1580時、平日1580時~1582時、平日1582時~1584時、平日1584時~1586時、平日1586時~1588時、平日1588時~1590時、平日1590時~1592時、平日1592時~1594時、平日1594時~1596時、平日1596時~1598時、平日1598時~1600時、平日1600時~1602時、平日1602時~1604時、平日1604時~1606時、平日1606時~1608時、平日1608時~1610時、平日1610時~1612時、平日1612時~1614時、平日1614時~1616時、平日1616時~1618時、平日1618時~1620時、平日1620時~1622時、平日1622時~1624時、平日1624時~1626時、平日1626時~1628時、平日1628時~1630時、平日1630時~1632時、平日1632時~1634時、平日1634時~1636時、平日1636時~1638時、平日1638時~1640時、平日1640時~1642時、平日1642時~1644時、平日1644時~1646時、平日1646時~1648時、平日1648時~1650時、平日1650時~1652時、平日1652時~1654時、平日1654時~1656時、平日1656時~1658時、平日1658時~1660時、平日1660時~1662時、平日1662時~1664時、平日1664時~1666時、平日1666時~1668時、平日1668時~1670時、平日1670時~1672時、平日1672時~1674時、平日1674時~1676時、平日1676時~1678時、平日1678時~1680時、平日1680時~1682時、平日1682時~1684時、平日1684時~1686時、平日1686時~1688時、平日1688時~1690時、平日1690時~1692時、平日1692時~1694時、平日1694時~1696時、平日1696時~1698時、平日1698時~1700時、平日1700時~1702時、平日1702時~1704時、平日1704時~1706時、平日1706時~1708時、平日1708時~1710時、平日1710時~1712時、平日1712時~1714時、平日1714時~1716時、平日1716時~1718時、平日1718時~1720時、平日1720時~1722時、平日1722時~1724時、平日1724時~1726時、平日1726時~1728時、平日1728時~1730時、平日1730時~1732時、平日1732時~1734時、平日1734時~1736時、平日1736時~1738時、平日1738時~1740時、平日1740時~1742時、平日1742時~1744時、平日1744時~1746時、平日1746時~1748時、平日1748時~1750時、平日1750時~1752時、平日1752時~1754時、平日1754時~1756時、平日1756時~1758時、平日1758時~1760時、平日1760時~1762時、平日1762時~1764時、平日1764時~1766時、平日1766時~1768時、平日1768時~1770時、平日1770時~1772時、平日1772時~1774時、平日1774時~1776時、平日1776時~1778時、平日1778時~1780時、平日1780時~1782時、平日1782時~1784時、平日1784時~1786時、平日1786時~1788時、平日1788時~1790時、平日1790時~1792時、平日1792時~1794時、平日1794時~1796時、平日1796時~1798時、平日1798時~1800時、平日1800時~1802時、平日1802時~1804時、平日1804時~1806時、平日1806時~1808時、平日1808時~1810時、平日1810時~1812時、平日1812時~1814時、平日1814時~1816時、平日1816時~1818時、平日1818時~1820時、平日1820時~1822時、平日1822時~1824時、平日1824時~1826時、平日1826時~1828時、平日1828時~1830時、平日1830時~1832時、平日1832時~1834時、平日1834時~1836時、平日1836時~1838時、平日1838時~1840時、平日1840時~1842時、平日1842時~1844時、平日1844時~1846時、平日1846時~1848時、平日1848時~1850時、平日1850時~1852時、平日1852時~1854時、平日1854時~1856時、平日1856時~1858時、平日1858時~1860時、平日1860時~1862時、平日1862時~1864時、平日1864時~1866時、平日1866時~1868時、平日1868時~1870時、平日1870時~1872時、平日1872時~1874時、平日1874時~1876時、平日1876時~1878時、平日1878時~1880時、平日1880時~1882時、平日1882時~1884時、平日1884時~1886時、平日1886時~1888時、平日1888時~1890時、平日1890時~1892時、平日1892時~1894時、平日1894時~1896時、平日1896時~1898時、平日1898時~1900時、平日1900時~1902時、平日1902時~1904時、平日1904時~1906時、平日1906時~

RESAS（地域経済分析システム）及び e-Stat（政府統計）を活用した大学生対象のオンデマンド型授業に関する実践と検証 -データサイエンス教育の潮流を踏まえて-

杉原亨

Practice and Verification of On-demand class for University Students Using RESAS
(Regional Economy and Society Analyzing System) and e-Stat (Government Statistics)
-Based on the Trends in Data Science Education-

Toru Sugihara

アダムとエバの召命：スタート地点かゴールか

富田茂美

1. はじめに

今日、キリスト教会、特にプロテスタント教会は、ジェンダーロールに関わる神学を、アダムとエバの役割から決定する傾向がある。すなわち、アダムとエバが墮落前にどのような関係を持っていたか——平等な関係か、あるいはそうではないか——を調べ、それに基づいて現代の男女は役割を決定すべきだという考えである。これは、主にアウグスティヌスが提唱した「墮落前のアダムとエバの道徳的完璧」という理解を前提として成り立つ教義である。このアウグスティヌスのフレームワークは、人類は最初に完全なものとして創造され、その後墮落してしまった、と提唱する。従って、墮落前の人間が持っていた役割はゴールであって、そこでは神が人間に与えた目的 (God-assigned purpose) が最初に表されていたのである。この見解では、現在の男女はアダムとエバの互いの間の関係をモデルとして、それに従うべきだということになる。

一方、アウグスティヌス以前の時代を生きたイレナエウス等の神学者は、墮落前の状態を不完全な状態と考えていた。イレナエウスのフレームワークでは、人間は最初から完成されていたのではなく、時間をかけて成長するように造られたと理解されている。従って、墮落前の状態は、神が人間に与えた目的 (God-assigned purpose) に向かったスタート地点であって、ゴールではない。この見解によると、現在の男女は、最初のスタートより、ジェンダーロールをより優れた良いものとするべきであり、することができるのである。

この論文は、人間の役割の構成要素であるキリスト教における「召命」に焦点を当てて、創造物語の適切な理解を調べようとするものである。結果として、召命の観点から見ると、イレナエウスが提唱するように、アダムとエバの役割はスタート地点であり、必ずしも今日の男女の役割を決定するものではないことを述べる。まず、ジェンダーロールの論議における召命の種々の見解も含めて「召命」についての考え方、及び召命の神学的理解について概観する。次に、墮落前のアダムとエバの召命について検討する。最後に、アダムとエバが自らの召命にどう応答したかについて調べる。彼らの召命と応答は、彼らのすべての役割を構成するものではないが、神が従うようにと彼らに与えた役割のうちの不可欠な部分である。

ここでは、「召命 (calling)」、「仕事 (vocation, tasks)」、「支配 (dominion)」を同義語として扱い、「役割 (roles)」を召命や召命に対する応答を含む広い意味で用いることとする。また、今日のプロテスタント教会が、ジェンダーロールをアダムとエバの役割から決定しようとするとき、一般に、創造物語は歴史上の物語であり、アダムとエバは全人類の究極の祖先であって、墮落前の彼らの生活は理解され得るものと理解されている。従って、本論文でも、この条件に基づき、墮落前の状態における材料や出来事について自由に論ずる。

2. 召命

A. ジェンダーロール論議における召命

キリスト教会で用いられる召命という言葉は、ジェンダーロール論議の中でもしばしば用いられる。コンプレメンタリアン（男性は女性に対してリーダー的立場を有すると考える者）にとっては、時として性の違いがその人の召命を決定し、更に、アダムとエバの召命は、今日の男女の役割に指針を与え得るものとなっている。例えば、アダムのリーダー的立場は召命であり、従って、今日の男性が女性に対してリーダーシップを持つことは召命であると理解されている。対照的に、平等主義者たちは、キリスト者としての召命は男女で共有され、召命が性の違いによって異なることはないと考えている。

コンプレメンタリアンの学者たちは、時として、今日のクリスチャンが性の違いによって異なる召命をもつことを主張する。つまり、神は、男と女に、それぞれ特有な、そして交換不可な役割を持つよう召している、とする。とりわけ、夫はリーダーシップを有し、妻は夫のリーダーシップをサポートするよう召されているという。John Piper は、夫がリーダーシップをとり、妻はそれを助けるというそれぞれの役割は、常に神聖なものだと論ずる：

夫の聖書的なヘッドシップは、家庭で、主にキリストのようなサーバント・リーダーシップを持ち、保護や供給を与える責任を持つという神聖な召命である。妻の聖書的な服従 (submission) とは、夫のリーダーシップを尊び、肯定し、自分の賜物に応じて夫のリーダーシップ遂行を助ける、という神聖な召命である。¹

また、リーダーシップと服従とは、夫と妻に一樣な召命であるばかりでなく、男女に一樣にあてはまる召命でもあるとしている。つまり男性はリードし、女性は（教会の残りの者と共に）男性のリーダーシップに敬意を払い、それを肯定しつつ従うというものである：

私たちは、「権威」が、霊的で賜物のある男性の神聖な召命だということを示そうとしている。それは彼らが、長老として、キリストらしい品格とサーバント

¹ John Piper, “A Vision of Biblical Complementarity: Manhood and Womanhood,” in *Recovering Biblical Manhood and Womanhood: A Response to Evangelical Feminism*, ed. John Piper and Wayne A. Grudem (Wheaton: Crossway Books, 1991), 43. Piper は、ジェンダーロールは召命に基づいたものであると繰り返し述べている。例えば、「もし、女が夫に対してこの種のリーダーシップをとろうとするなら、彼女は男性の召命を請け負うことになるだろう」(p. 30)；「男らしさというのは、全ての被造物の善のために神が与えた信頼であり・・・特権というより召命である。」

また、Heath Lambert もまた、妻が夫に従うことは召命であり、それは夫が妻に対して罪を犯すとき妻が夫を非難する方法を決定すると述べている：「なぜなら妻は夫に従うように召されているので、彼女はいかに尊敬を持って夫に対応するか考える必要があるが、彼女は全く対応を避けるべきでもない。」Heath Lambert, “Breaking the Marital Impasse: How Authority and Submission Work When Spouses Disagree,” *The Journal for Biblical Manhood and Womanhood* 15, no. 2 (2010): 24.

リーダーシップをもって、教会での教育をするという主要な責任である。そして「服従」とは、教会の残りの男女が長老のリーダーシップと教えに敬意を払い、それらを肯定し、キリストの奉仕における男女に可能な種々たくさんの宣教活動のために、長老たちによって備えられる、という神聖な召命を表す。²

その主な理由は、これらの召命が、人間の墮落前に神によって定められたものだからである。John Piper は、なぜ「成熟した女性は、尊敬すべき男性の強さやリーダーシップを受け入れることを自然に感じ、喜びを覚えるのか」³についてこう述べている。

これは、男が最初に造られ、主にリーダーシップの責任を取るよう召され、女は「男にふさわしい助け手」として造られ、男がリーダーシップを遂行するのを助ける上で自分の賜物を用いるよう召された、その墮落前の創造の良さと、喜びとに（創世記2）に暗示されているのだ。⁴

墮落前、神はアダムをリーダーとして、エバを助け役として召した。そして墮落前というのは、罪の影響のない理想的な状態で、神が「良し」と言った状態である。従って、今日の男女が、アダムとエバが召された同じ召命、つまり男はリードし、女はそれに従うこと、を追い求め共有することは必須なのである。

しかし、彼女[エバ]は[アダムと]同等ではない。なぜなら彼女は彼の「助け手」だからだ。神は、男と女を、区別がないかのように創造しなかったのであって、単純に、男性であること、また女性であることが、それぞれの役割を定めている。男は男であるということによって神からリードするという召命を受けている。女性は、ただ女性であるということによって、神から助け手という召命を受けている。⁵

Robert Yarbrough もまた、妻が夫に従うという召命はアダムとエバの役割に関係すると理解している：「創世記の出来事は、リーダーの責任を家族の夫に任せている（コリントの信徒への手紙一 11:3、7-8 と合わせてエフェソの信徒への手紙 5:21-33 を参照）。」従って、Yarbrough は、聖書は明らかに妻が夫に「あらゆるかたちで服従」するよう召していると考

² Piper, “A Vision of Biblical Complementarity: Manhood and Womanhood,” 44.

³ Ibid., 40.

⁴ Ibid., 54.

⁵ Raymond C. Ortlund, “Male-Female Equality and Male Headship : Genesis 1-3,” in *Recovering Biblical Manhood and Womanhood*, ed. John Piper and Wayne Grudem (Wheaton: Crossway Books, 1991), 91.

える：「聖書に忠実な夫婦としての愛、またキリスト教の愛において、聖い夫の真摯な誓約を喜ぶ妻は、夫への如何なるかたちの服従からも解かれると宣言することは理性的ではない。それは、聖書が、明らかに、妻をそう召しているからである。」⁶

それとは対照的に、平等主義の学者らは「召命」という言葉を男女の違いに関わらず、全てのキリスト教徒に対して用いる。例えば、Gilbert Bilezikian は、神は、全ての信者が聖霊の働きによってキリストのようになるよう召している、と述べる。

[聖書は]私たち 一男女一 がキリストの心を持つように、そしてキリストの似た姿に変えられるよう召している。．．． 男も女も共に内なる自分、すなわち聖霊との共同作業による基本的な人格を磨くよう召されている。⁷

Rebecca Groothuis は、召命は個人の賜物によって与えられるものだと考えている。

神の賜物と召命についての聖書的な教えの背後にある基本的な考えは、個人の召命は、その人が与えられている賜物から自然に流れ出るものだという事である。従って、生涯の召命は、個人の最も顕著な賜物の経験を特別に否定すべきものではないし、個人が所持していない賜物を著しく用いることを要求するものでもない。⁸

Groothuis は、性による違いは必要に応じて認められるべきだが、その違いが個人の召命を決定すべきではないと述べる。

福音的な平等主義者は．．．ステータスの違いが、性の違いに内在するとは信じないし、性のアイデンティティーが個人の召命や仕事(vocation)を決定する主要なものだとも信じない。ジェンダーは、その人がある仕事をするときのスタイルに影響を与えるかもしれない、しかし、女性が実際にその仕事を行う能力を持つなら、ジェンダーは彼女がポジションに就くのを否定する理由と理解されるべきではない。⁹

創造物語に関して、平等主義者は、アダムとエバの「神のかたちに造られ」、「支配し」、

⁶ Robert W. Yarbrough, "Women and Ministry: Fidelity to Scripture in the Unity of Faith," *Presbyterion* 35, no. 2 (2009): 75-76.

⁷ Gilbert G. Bilezikian, *Beyond Sex Roles: What the Bible Says about a Woman's Place in Church and Family*, 3rd ed. (Grand Rapids: Baker, 2006), 160.

⁸ Rebecca M. Groothuis, *Good News for Women: A Biblical Picture of Gender Equality* (Grand Rapids: Baker, 1997), 74.

⁹ *Ibid.*, 71.

「助ける」という召命あるいは役割は、両者間の平等性を表していると述べる傾向がある。例えば Groothuis は、「男と女は同様に人間であり、平等に神のかたちに造られている」と語る。更に、アダムとエバは同様な責任と権威を与えられていると考える：「創世記 1:28 は、異なる程度の責任や権威などには全く言及することなく、男女両方に、同時に、責任と権威を与えている。」¹⁰ Groothuis によれば、エバがアダムを助ける行為は平等性を示しているという：

助ける者と、彼女が助ける者とはステイタスが平等で、助けは、二者の間で相互に与えたり、受けたりするものである。最初の女と男の場合、女は——男のアシスタントあるいは男の上位者としてではなく、同じランクの者として——男のそばに行って男の仕事に加わったという意味で、彼を助けることになったのだろう。¹¹

もし、「助けること」が、アダムのエバに対する権威を示すなら、その権威はエバが与えた任務に限られるべきである：「彼女（エバ）の助ける任務は、アダムが一人圍で働いていた時に責任を持っていたであろう種類の任務にのみ関係するべきである。」助けを受けることは、「夫が妻と家族に対して持つと言われる個人的な権威につながることはない。」¹² このようにして、Groothuis は、アダムとエバの間にある人間としての平等性、というような召命は今日の人々にも当てはまるが、全ての召命が当てはまるわけではないと示唆する。

コンプレメンタリアンと平等主義者は、両者とも、召命あるいは任務(task)をキリスト教の信条と行動の重要な要素だと考えている。つまり神は、キリスト者をユニークな任務(task)に召しているということである。しかし、前者は、時として、現代の男女が互いに異なった召命を受けており、墮落前にあったアダムとエバの召命を共有すると主張する。後者は、神はキリスト者全員を特別な任務(task)に召しているかもしれないが、その任務(task)に性別による違いはないと主張する。

B. 召命とは

今日、キリスト教徒は頻繁にキリスト教徒の役割(role)、任務(task)、仕事(vocation)¹³あるいは召命(calling)に言及し、それを彼らと神との関係において重要なものと考えて

¹⁰ Ibid., 130-132.

¹¹ Ibid., 131.

¹² Ibid., 131; 強調は原文。

¹³ Dykstra によれば、「今日、『vocation』は、一般的にその人の仕事 work と関係づけられているが、ラテン語の語源は *vocatio* であり、これは job でも career でも occupation と異なる。それは『voice』あるいは『a voice calling』である。宗教的に言えば、『a calling from God』である。」 Craig R. Dykstra, “Called to Life, Called to Love,” *Congregations* 32, no. 2 (2006): 11.

いる。¹⁴召命という概念は、旧約聖書におけるイスラエル人にとっても、新約聖書の信者のにとっても大切なものであった。新約聖書の時代の召命の理解は、宗教改革者らによって特に強調された。彼らは、すべてのキリスト者が、それぞれ神との関係において重要な役割を持っている、と主張したのである。

ある学者らは、「一般召命(general calling)」と「特別召命(special calling)」とに区別することによって「召命」を神学的に定義している。Erickson によれば、一般召命とは神の普遍的な招きである。神はすべての人間に対して、悔い改めて神に立ち帰るよう呼びかけている。その呼びかけは、旧約聖書にも新約聖書にも表現されている。例えば「地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神である。ほかにはいない」¹⁵そして、「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたを休ませてあげます」¹⁶である。それとは対照的に、それぞれの信者の内面にある「強い有効な聖霊の働き」が、特別召命あるいは有効召命(effectual calling)であると、Erickson は説明する。¹⁷

Wayne Grudem も同様に、一般召命と有効召命とに区別し、後者を「父なる神の行為であり、人間の福音の宣言を通して語りつつ、人々が救いの信仰の中で応答するよう、神が人々を召喚するものである」と定義している。¹⁸そこでは、聖霊の働きより、父なる神や福音が強調されているかもしれない。しかしながら、Grudem にとって、有効召命とは「内面の」召命でもある。従って、一般召命と有効召命とを識別する学者らは、後者を、信者が聖霊の語りかけによって経験する内面的・個人的な召喚、として特徴づけている。

新約聖書における召命は、「神の救いの計画における、神から個人への特別な役割(functions)や任務(offices)への召喚であり任命」¹⁹であった。キリストは、個々の人間を、悔い改めと信仰、救い、奉仕に召喚する(マルコ 2:17 = ルカ 5:32; マルコ 1:20、使徒言行録 2:39)。「召命は、神が「個人に近づく」中での言葉による召喚であった。それは、救いの恩恵として与えられる、天に向かい、天に属する、自由と至福への召命であった(フィリピ 3:14; ヘブル 3:1; ガラテヤ 5:13; 1 コリント 7:22; 1 テサロニケ 2:12; 1 ペトロ 5:10)。²⁰このようにして、新約聖書での召命は、通常、宗教的な意味に限られた霊的な呼び

¹⁴ 例えば Donald Isaac は、「召命」はキリスト教の宣教に従事する者のみに留保されたものではなく、全ての人の仕事は神によって任命された vocation だと主張する。Donald J. Isaac, "Work and Christian Calling," 186.

¹⁵ Isa. 45:22.

¹⁶ Matt. 11:28.

¹⁷ Millard J. Erickson, *Christian Theology*, 2nd ed. (Grand Rapids: Baker, 1998), 942-45.

¹⁸ Wayne A. Grudem, *Systematic Theology: An Introduction to Biblical Doctrine* (Downers Grove: InterVarsity Press, 1994), 693. Grudem はこの有効召命(effectual calling)を、effective calling あるいは internal calling と呼んでいる。

¹⁹ J. I. Packer, "Call, Calling," in *Evangelical Dictionary of Theology*, ed. Walter A. Elwell (Grand Rapids: Baker, 2001), 184.

²⁰ Rom. 9:23-26. Ibid., 199-200.

かけを意味し、永遠の救いのための神聖な呼びかけを指していた。²¹コリントの信徒への手紙一 7:20 は、この霊的な使い方に対する唯一の例外で、「個人の地上での召命あるいは人生での身分」を意味した。しかし、これはパウロの時代、教会において重要ではなかった。初代の教会で広く受け入れられていた召命の意味は、救いや仕事 (vocation) への神聖な召喚であり、霊的な経験に基づいていた。それは、キリスト教徒の経験としての実際的な内的呼びかけであった。²²

しかし、教会の規模が大きくなり、幼児洗礼が不通に行われるようになるにつれて、この内的な召命の重要さが衰えていった。人が教会の一員として生まれる中で、この神聖な召命とそれに対する個人の応答の重要性は失われ始めた。しかし、永遠の救いとしての召命の考えは、教会の伝統と信仰の中に深く埋め込まれていたもので、修道院において維持され、発展した。²³ Knudson が言うには、

修道士は、神聖な召命、つまり完全への召命、キリストの命令、そして特に、神を愛するという命令を完全に守る召命を持っていた。・・・それはアブラハムの召命に匹敵する召命だった；²⁴それは、「改宗 (conversion)」、「第二の」、あるいは「新しいバプティズム」であり、とりわけ特別なモードの生き方への召喚であった。ここから「召命 (calling)」あるいは「職業 (vocation)」として、特有な意味で知られるようになった。²⁵

中世では、「召命」という言葉は人間同士の関係の見地から、受動的な意味で適用された。召命は、道徳上、取得することが強く奨励されるべき能動的な美德としては見られなかった。また、中世では、世俗的な仕事は、正式な意味における召命あるいは職業 (vocation) ではなかった。しかし、Eckhart や Tauler のような神秘主義者は別だった。彼らは、修道会との関係とは全く無関係に、人は神聖な召命を得るのだと主張した。「世俗的な召命」という考えとは対照的に、彼らは、「通常の日常的な仕事の宗教的な価値」を強調し、こうして、修道会においてのみ認められていた召命の概念を著しく進歩させた。²⁶

それにも関わらず、「召命 (calling)」や「職業 (vocation)」という言葉の意味と用い方を決定的に変えたのは、Luther や Calvin などの宗教改革者たちであった。全ての信徒が祭司であるという教義と「日常生活の神聖な義務の教義」に基づいて、Luther は真の神の召命は修道院生活においてのみならず、普通の人々が生活するその仕事場において見出され

²¹ Albert Cornelius Knudson, *The Principles of Christian Ethics* (New York: Abingdon-Cokesbury Press, 1943), 181-83.

²² Ibid., 132.

²³ Ibid., 132.

²⁴ Gen. 12:1 ff.

²⁵ Knudson, *The Principles of Christian Ethics*, 132.

²⁶ Ibid., 183.

るものであると主張した。²⁷ Lutherによれば、

それで我々は、我々が霊的な者、あるいは祭司と呼ぶ人々のように、司祭あるいは教皇はその他のキリスト者とどんな程度においても変わらない、ということがわかる。なぜなら、彼らはただ、臨時の権威者がその手で悪を罰し善を守るために刀と棒を手にするのと同様に、神の言葉や礼典——それが彼らの働きであり仕事であるので——に携わることになっているからである。靴の修理屋、鍛冶屋、小作人など全ての人が自分の召命である仕事と役割を持っている。そして、全ての人と同様に聖別された祭司であり司祭であって、多くの種類の仕事の一つの共同体の中で全て統合されるように、全て人は自分の仕事において他の人々にとって有用かつ有益でなければならない：体の構成部分が、全て互いに仕え合うように、である。²⁸

今日、福音派のキリスト教徒は16世紀の宗教改革者によって明確化された召命の見解を維持していることが一般的である。神は、その意思を成就するためにその民をユニークな役割へと召すのである。²⁹神は、聖霊を通して個人に語りかけ、聖霊はその人を導き賜物を授ける。³⁰ Gordon MacDonaldは、「聖書の召命はそれぞれユニークである。同じものは一つもない。環境、生まれ、召命で期待されることなど、全ては特別あつらえのものである。言葉を語って欲しかったり、あるいは人々を導いて欲しかった時、神は、それをかつてないような方法で行うよう、人に命じた」と指摘する。³¹神は全ての人間が神に立ち返り、神の聖なる名と属性を担うよう召しているが、それぞれの個人がユニークな方法でその召命を実現するよう、聖霊を通して召している。

新約聖書の時代の教会は、召命は聖霊の働きの現れであり、個々の信徒に独自に与えられるもの、と理解していた。従って、現在の男性はアダムのこの仕事に、女性はエバのこの仕事に、というように — どのようにその仕事が分担されていたかに興味を持って — 集団として召命を受ける、とは言い難いのではないだろうか。それとも、アダムとエバにはそれぞれの性に応じて与えられた仕事があり、彼らのすべての仕事は今日の男女によって共有されるべきものなのだろうか。

²⁷ Max Weber, *The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism* (New York: Scribner, 1958), 79-92.

²⁸ Martin Luther, "Address to the Christian Nobility of the German Nation," in *First Principles of the Reformation or the Ninety-Five Theses and the Three Primary Works of Dr. Martin Luther*, ed. Henry Wace (London: John Murray, 1883), 23.

²⁹ Col. 3:17; 1 Cor. 12:4-6.

³⁰ Kristina LaCelle-Peterson, *Liberating Tradition: Women's Identity and Vocation in Christian Perspective* (Grand Rapids: Baker, 2008), 111-12.

³¹ Gordon MacDonald, "God's Calling Plan: So What Exactly Is 'a Call to Ministry'?", *Leadership* 24, no. 4 (2003): 36.

3. アダムとエバの召命

神がアダムとエバに召喚した仕事があった。神は「どのように」かは明瞭ではないが、二人で仕事を分け合うことを期待していたようである。しかしながら、その仕事の多くは、人類の最初の世代としての彼らにのみ与えられたものであったようだ。

A. アダムとエバの召命の特徴

神との断絶がない状態にあって、アダムとエバは自由に神の声を聞いていた。彼らには神による仕事への召しがあったが、それらほとんどのものは二人の間で共有するようにと召されていた。「一般召命」は墮落後の男女には重要なものだが、アダムとエバにはそのような召命は不要であった。彼らは完全にとわずとも神のことがよくわかり、神と直接語り合う親しい関係をもっていた。エバは神が言ったことを明確に理解していた：「しかし、神は言った。『でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない。』」³²アダムとエバには神の声がはっきりとわかった：「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。」³³アダムとエバは神と自由に会話をしていた。しかし、墮落後そのような神との親しい関係は絶え、失われた。そして神は人間が神自身と和解するよう呼びかける必要があった。

そのような和解の必要もなく、墮落前のアダムとエバには仕事があった。それらの仕事は、アダムとエバがどういう存在として、何をを行い、どんな命令に従うべきか、を含んでいた。神が生物を創造した時、アダムとエバのみ、自身にかたどって造ることが神の意志であった。：「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。」³⁴また、神は彼らを男と女に造った。³⁵エバは、他のどの動物とも異なり、人間として同じ要素をアダムと共有するべく、そのわきから造られた。彼らは共に神のかたちに創造され、人としての共通した属性を有していた。ちょうど鏡で反映するように、アダムとエバが同じ神を反映し、神がどんな存在であるかを、その人生で表すことが神の意図であった。³⁶神はアダムとエバに同じ指示と命令を与えた：「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」³⁷アダムとエバが共に神の声を聴き、神の言葉に従うことは神の意志であった。

神は、アダムとエバが共同体の中で生き、互に助け合いつつ愛を示すよう創造した。神がエバを造った時、神は言った：「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」

³² 創世記 3:3。

³³ 創世記 3:8。

³⁴ 創世記 1:26。及び創世記 1:27。

³⁵ 創世記 1:27。

³⁶ Paul Ramsey, *Basic Christian Ethics* (Louisville: Westminster John Knox Press, 1993), 105.

³⁷ 創世記 2:16-17。

³⁸二番目の人間はサポートとしてそこにいたが、エバにとっても、アダムは彼女のサポートとして第二の人間であった。神は、キリストが示したように、エバが奉仕の態度をもってアダムに寄り添うこと、また、アダムもエバに対して同様の態度を持つことを望んでいた。神はアダムがエデンの園で独り暮らすことを望んでいなかった。神は、コミュニティーの中で互いに仕え、またすべての創造物に仕えるという、そのような共同体が全地球に広がるようにと、アダムにエバを与えた。

アダムが初めてエバに出会った時、彼は彼女のことを「男（イシュ）」から取られた「女（イシャー）」と呼んだ。³⁹時として、アダムがエバを名付けたことが、彼の彼女への支配あるいはリーダーシップの証であると推測されることがある。しかしながら、名付ける対象が何であれ、アダムは名前をつけるということが出来る唯一の人間であった。神が、アダムに、エバに対する権威やリーダーシップを召命として告げない限り、アダムにはそのような召命をもつ理由はなかったであろう。神がアダムにリーダーシップを持つよう告げたのは、魚、鳥、動物など人間以外のものだったのであり、それはエバと分かち合う役割でもあった。⁴⁰アダムがエバの名前を呼んだことは、George Ramsey が述べているように「支配の行為というより識別」であったと考えられる。⁴¹即ち、それはアダムがエバを、発見し、認識した時の叫びであり、祝いの表現であった。⁴²アダムは、彼女が自分によく似た、対の一方だということがわかり、喜びを表したのだ。⁴³アダムとエバは、三位の神の間に働くすばらしい関係表現することになっていた。神がエバを創造したその目的と意図は、人間の間には上下関係を作ることではなく、相互愛に基づくコミュニティーを作ることだったのである。

神がアダムとエバに対して持っていた目的は、彼らが神はどんな存在かを表すだけでなく、彼らが何をするのか、を示すことでもあった。⁴⁴神は、彼らに神聖な召命としての仕事を与えた。アダムとエバはその子孫を増やし、地を満たすことになっていた：「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」⁴⁵神のコミュニティーを地球上に拡張するために、アダムとエバが生殖という神の創造の業に共に参加することは、神の意志であった。アダムとエバはその他の被造物を支配し従えて、それらの良き管理者となることになっていた：「海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這う

³⁸ 創世記 2:18。

³⁹ 創世記 2:23。

⁴⁰ 創世記 1:28。

⁴¹ George W. Ramsey, "Is Name-Giving an Act of Domination in Genesis 2:23 and Elsewhere," *Catholic Biblical Quarterly* 50, no. 1 (1988): 35.

⁴² Ramsey, "Is Name-Giving an Act of Domination in Genesis 2:23 and Elsewhere," 35.

⁴³ Stanley J. Grenz and Denise Muir Kjesbo, *Women in the Church: A Biblical Theology of Women in Ministry* (Downers Grove: InterVarsity Press, 1995), 163.

⁴⁴ LaCelle-Peterson, *Liberating Tradition: Women's Identity and Vocation in Christian Perspective*, 99."

⁴⁵ 創世記 1:28。

ものすべてを支配させよう。」⁴⁶エデンの園の地で共に働くこともアダムとエバの仕事であった：「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。」⁴⁷

エバが創造される以前、アダムは、園を耕したり守ったり神の創造物を名づけたりする、という仕事を自分でしなければならなかった。しかし、神がアダムにエバを与えた後、彼らは互いの親交を楽しみ、エデンの園の仕事を共有し始めた。同じ神のかたちに造られ、同じように神からの命令を守るよう求められて、彼らは自分たちの召命を共に分かち合うことになっていた。彼らは互いに助け合い、共に与えられた仕事を成し遂げ、神に仕えるのだ。神はこれらの仕事をアダムかエバに特化したり、どちらかに制限を与えたりせず、二人が仕事をどう分担するか（上下関係をつくるのか、あるいは平等にか）についても支持していないようである。⁴⁸

B. アダムとエバへの召命の特殊性

エデンの園のアダムとエバは、神から自分たちに与えられた目的 (God-assigned purposes) を持っていた。それらの内、あるものは、すべての人間に歴史を通して共通のものであったようである。即ち、全人類は神のかたちにかたどって創造され、神との正しい関係を持って、神の教えに従って生きるということである。彼らは神を愛し、その愛を他の人類の間にまで拡散することであった。これらの召命は、アダム、エバ、またすべての人間によって、新旧両方の契約を通して共有されるべきものであった。

しかし、神がアダムとエバに与えたその他の役割は、最初の世代の者として彼らに特別な性質のものであった。例えば、創世記 1:28 で、「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ」⁴⁹とあって、神は女性と男性による生殖活動を意図しているようである。これは彼らの結婚も前提としている。実際、創世記 2:24 では、アダムとエバに望む婚姻関係のことを言っている：「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」それで、アダムとエバが婚姻関係を持ち子孫を残すことは、神の愛と栄光を全人類の間に広げるための彼らの重要な役割だった。結婚と生殖は、人口を増加させるための役割を果たすということを意味していた。

旧約聖書の時代には、イスラエルの民にとっても子孫を残すことは重要なことであった。例えば、詩編の作者は「いかに幸いなことか 矢筒をこの矢で満たす人は。」⁵⁰と語る。イスラエル人は、その文化において、もし多くの息子を持つなら裁きの場で多くの弁護者を得ることができ、老齢においては手厚い世話を受けることができ、そして何より、神の好意を得ることと考えていた。当時は、女性の子供の出産は祝福されていることの証だった。しかし、

⁴⁶ 創世記 1:26b。同様に創世記 1:28。

⁴⁷ 創世記 2:15。

⁴⁸ Groothuis, *Good News for Women: A Biblical Picture of Gender Equality*, 130.

⁴⁹ 創世記 1:28。

⁵⁰ 詩編 127:5。

新約聖書においては、結婚や生殖の役割は墮落前や旧約聖書の時代ほど重要ではなくなった。コリントの信徒への手紙一 7:28-40 で、パウロは結婚することと独身でいることの両方の生き方を肯定している。⁵¹現代の西欧社会の信徒は結婚し子孫を増やし地を満たすよう召されているかもしれないが、いないかもしれない。従って、墮落前のアダムとエバには彼らに特化した役割があったようであり、それらの役割は必ずしも今日の全人類に適応されるものではない。生殖は今日も大切であり必要であるが、人間として誰でも常に有する役割ではないだろう。

Webb は、現代の読者は「最初の創造を用いて、今日における父権制度を即座に肯定すべきではない」と語る。その一つの理由は、父権制度の要素や習慣は「(物語の静かな背景に取り入れられ)せいぜい隠喩されている」のであり、墮落前の状態に特有なものであるから、と述べる：⁵²

もし、家長制度の要素が最初の出来事として、最初の世代の人間に有益であるよう意図されていたとしても、今日、私たちが必ずしもそれに従うべきだということにはならない。最初の物語は、(ぼんやりしていないレベルで)キリスト教社会がもはや実践しない多くの要素を持っているのであり、それらが文化的な要素を含んでいるからである。従って、創造物語に何かが含まれているからと言って、ある人々が言うように、それが自動的に全ての文化に共通なものということにはならない。⁵³

言い換えれば、アダムとエバに与えられた多くの役割は、歴史の始めの出来事に特徴的な、文化的な構成要素だったのである。このように、アダムとエバの召命のあるものは全ての男女に当てはまるものであるが、あるものはアダムとエバにのみ当てはまるものである。Packer は、この召命は、道徳的な意味を有すると述べる。即ち、彼によれば、召命とは「聖さ、忍耐、平和⁵⁴、及び持続的な道徳的努力における立派な歩み⁵⁵」を要求するものだという。⁵⁶従って、召命の特性について、キリスト教倫理の点から考えると良く理解できるかもしれない。

Stanssen と Gushee によれば、キリスト教倫理とは、その信仰を持つ人々の『「生き方」

⁵¹ 聖書は、パウロの婚姻状態について明確にしていないが、彼がコリントの教会に手紙を書いた時点では独身であり同教会にも彼の例に倣うことを奨励している。(1 コリント 7:8-9).

⁵² William J. Webb, *Slaves, Women and Homosexuals: Exploring the Hermeneutics of Cultural Analysis* (Downers Grove: InterVarsity, 2001), 249.

⁵³ *Ibid.*, 249.

⁵⁴ 1 Thess. 4:7; 1 Pet. 1:15; 2:21; 1 Cor. 7:15; Col. 3:15.

⁵⁵ Eph. 4:1.

⁵⁶ J. I. Packer, "Call, Calling," in *Evangelical Dictionary of Theology*, ed. Walter A. Elwell (Grand Rapids: Baker, 2001), 184.

全てについて（エフェソ 2:10；申命記 30:19-20 も参照）』である。⁵⁷ そして、Stassen と Gushee は、始めに Henry David Aiken と James Gustafson が提唱した 4 段階の道德の基準を紹介している。⁵⁸ 第一の段階は实际的／直接的な判断であり、一つの特有なケースについての道德的な宣言である。例えば、イエスが「あの狐に言え」（ルカ 13:32）と述べた時、イエスは、特定の時間と空間（一世紀のエルサレム）に存在したヘロデという特定の人物に関する道德的判断を下した。次の段階は、キリスト者に「直接、具体的に何をすべきで、何をすべきでないか」を教えている規則（rule）である。この規則は、一つの特の場合のみならず、全ての同様な場合に当てはまるものである。例えば、「2 マイル行きなさい」や「殺してはならない」という命令は、キリスト者に直接的、具体的なレベルで何をすべきか、すべきでないかを教える規則である。第三のレベルは「あなたの敵を愛しなさい」（マタイ 7:12）や「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」（マタイ 22:39）のような原則（principle）である。原則は「規則より一般的」であり、抽象的である。第四のレベルは基本的な信条である。これはキリスト教徒の献身の全ての基礎となるキリストへの信仰であり、上記の全レベルを含むものである。これら 4 段階のレベルが、「特定の判断は規則に依存し、規則は原則に依存し、原則は、究極の基盤としての基本的確信である神学的信条に依存する」という関係でつながっている。⁵⁹

キリスト教の召命を道德の点から理解するとき、キリスト教徒の召命をも、キリスト教倫理のこれら四つのレベルの中で定義することができる。即ち、ある召命は「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」のような倫理的原則と同等なものである。また更に具体的な召命は「殺してはならない」のような倫理的規則である。それは、状況に関係ない、普遍的なものである。そして、特定な場合についての实际的／直接的な召命もある。同じ人間として、神の民は最初の二つ、例えば「あなたの隣人を愛しなさい」のような原則と、「殺してはならない」のような規則を共有する。それらはアダムとエバ、そしてイスラエル人や現代のキリスト者たちにも同様に例外なく適用される。他方で、一人一人の信徒は、それぞれ、特定の時間と空間の中で複数の实际的・直接的召命を受けている。アダムとエバの場合は、「動物に名をつける」や「園を耕す」、「地を満たす」が彼らの召命であり、それらは初世代としての二人に特化して与えられたものであろう。

一般に、アダムとエバが神から与えられた仕事のうち、あるものはエデンの園の境界を越えて全ての人々に与えられたものと理解される。例えば、全人類は神にかたどって造られており⁶⁰、神の命令に従い、神の他の創造物の忠実な世話役であり地球の責任ある管理者であ

⁵⁷ Glen Harold Stassen and David P. Gushee, *Kingdom Ethics: Following Jesus in Contemporary Context* (Downers Grove: InterVarsity Press, 2003), 121-22..

⁵⁸ Aiken, “Reason and Conduct” ; Gustafson, “Context vs. Principle,” quoted in Stassen and Gushee, *Kingdom Ethics*, 99-124.

⁵⁹ Stassen and Gushee, *Kingdom Ethics: Following Jesus in Contemporary Context*, 99-124.

⁶⁰ Gen. 9:6; 1 Cor. 11:7; 2 Cor. 4:4; Col. 1:15, 3:10.

るといことである。⁶¹しかし、他のものは、初代のアダムとエバにのみ与えられた仕事と理解できるようである。今日、全ての者が被造物を名付けたり、文字どおりに土地を耕したり、生物を直接支配するよう召されているわけではない。すべての人々は神の命令に従うべきであるが、命令の内容は場合によって異なり得る：善悪の知識の木に関する禁止は現代の人々には関係のないことである。人間は「文化を形成し、歴史を担う」存在である。⁶²全く新しい文化の中で、現代の男女に与えられた召命はアダムとエバに与えられたものとは異なるかもしれない。アダムとエバの全ての召命が、後に続く全世界の人々によって共有されるというものではない。彼らの召命の多くは、人々が、それぞれの文化における経験を積み重ねる中で時間と共に発展するものであった。従って、アダムとエバの召命は、人類の召命のスタート地点として位置づけられると考えられる。

4. アダムとエバによる召命への応答

アダムとエバの召命の特質のみならず、彼らがどのように自らの召命に応答したかは、彼らの役割が今日の基準とならないことを示している。聖書は、彼らの召命への応答が、理想以下のものであったことを伝えている。今日の男女の究極のロールモデルは、アダムとエバではなく、キリストである。キリストこそを模範とすべきである。

ローマの信徒への手紙 5:12-21 で、パウロはアダムを「最初のアダム」と呼び、アダムが人類にもたらしたものと、キリストが人類になしたことを比較している。⁶³パウロは、世界に罪をもたらした責任がアダムにあると述べている：このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。⁶⁴アダムの行いは人間に死をもたらしたが、キリストの行いは人間に死への勝利をもたらした。更に、パウロはローマの信徒たちに、アダムの罪は死をもたらすだけでなく、自分とその子孫に影響を及ぼし、また、その影響は子孫と神との関係にまで及んだことを述べている。アダムの行いは有罪とされ、キリストは義認をもたらした。⁶⁵更にアダムの行為は「人間の、罪に傾き易い部分」を作った。人間はアダムの行為のために罪人となるわけではないが、人間はアダムの「状態を受け継ぎ」、罪への傾向を受け継いだ。⁶⁶アダムとキリストは両者とも人類の代表として頭にあたる者である：アダムは人間に死をもたらしたが、キリストは人間

⁶¹ Robert R. Ellis, "Creation, Vocation, Crisis and Rest: A Creational Model for Spirituality," *Review & Expositor* 103, no. 2 (2006): 313.

⁶² Ramsey, *Basic Christian Ethics*, 105.

⁶³ Charles E. B. Cranfield, *A Critical and Exegetical Commentary on the Epistle to the Romans* (London: T & T Clark, 2004), 295.

⁶⁴ Rom. 5:12.

⁶⁵ Douglas J. Moo, *The Epistle to the Romans*, New International Commentary on the New Testament (Grand Rapids: Eerdmans, 1996), 337.

⁶⁶ Joseph A. Fitzmyer, *Spiritual Exercises Based on Paul's Epistle to the Romans*, 2nd ed. (Grand Rapids: Eerdmans, 2004), 88.

に命をもたらした。⁶⁷

エデンの園で、アダムは王の地位を与えられた。神にかたどって造られた彼は自然界の王であった。⁶⁸彼は、「神に代わって世界を従え支配することを任せられた。⁶⁹アダムは、自然界、社会、文化の全ての分野で神の国を広げるようにと、地上での神の権威を代表し、神の意志を反映することになっていた。」⁷⁰

しかしながら、アダムは王としての役割を果たすことができず、それどころか、エデンから追放されてしまった。アダムはキリスト教徒のロールモデルになることはできなかったのである。

Gregory Bealeによれば、エデンの園は、例えば、エゼキエル書 37:27、40-48 そしてイザヤ書 54:11-12 に出てくる神の聖所であり、アダムはそこで祭司の役割を与えられていた。創世記の2:15にある「耕し、守る」は、「仕え、護衛する」とも翻訳でき、イスラエル人が神の言葉に仕え、守る、あるいは祭司が「神殿で神に支え、神殿に汚れたものが侵入することから護衛する」という意味になる。（申命記 3:7-8; 8:25-26; 18:5-6; 1 歴代誌上 23:32; エゼキエル書 44:14）。即ち、アダムは神の神殿で仕えることになっていた。アダムは、神に従うことにより、また、聖所を護衛することによって神殿で神に仕え、礼拝する祭司の役割を持つ神の僕であった。地球を支配し従わせることにより、アダムは「園の境を広げる」ことになっていた。神はアダムに園を全地に広げる役割を与えたが、それは神の素晴らしい存在が、世界中に満ちるためだった。アダムの子孫もまた神にかたどって造られ、神の言葉に従い、地球を覆うまでエデンの聖所を拡大することになっていた。アダムとその子孫は、ヨハネの黙示録 21:1-22:5 に示された新しい宇宙を具体化することになっていた。

⁷¹しかし、アダムはその祭司としての役割を果たすことに失敗したと Beale は語る。：

アダムは、地球を従え、園の聖所を拡大することについて忠実でなく従うことがなかった。それで、全地球に園そして神殿が拡張されなかったばかりか、アダム自身が園を追放されてしまい、もはや神の存在を楽しむこともできず、神殿での神の祭司としての役割も失ってしまった⁷²。

⁶⁷ A. T. Robertson, *A Critical and Exegetical Commentary on the First Epistle of St Paul to the Corinthians* (New York: Charles Scribner's Sons, 1911), 352-53.

⁶⁸ Gordon J. Wenham, *Genesis 1-15* (Waco: Word Books, 1987), 33.

⁶⁹ Gen. 1:28.

⁷⁰ Richard S. Hess, "Adam," in *The Dictionary of the Old Testament: Pentateuch*, ed. T. Desmond Alexander and David W. Baker (Downers Grove: InterVarsity Press, 2003), 18.

⁷¹ Gregory K. Beale, "Eden, the Temple, and the Church's Mission in the New Creation," *Journal of the Evangelical Theological Society* 48, no. 1 (2005): 7-8; 10-11.

⁷² *Ibid.*, 11.

アダムは、神の神殿と神の栄光の存在とを地上に拡大するに足る、忠実さと従順さを有していなかった。アダムは祭司として理想の代弁者ではなかった。

対照的に、パウロは信徒にキリストらしさを反映するよう励ましている。⁷³イエスは神の命令に完全に従順であった。キリストの存在は、神の言葉に従うことのできなかったアダムの存在と大きな対比をなしている。自ら十字架で苦しみ、そして死ぬことによって、キリストは父の意思に従順であることを示した。イエスにおいて「人間の従順さを通して世界を支配する、という神の計画が実現された」のである。⁷⁴パウロが信徒に期待するものは新しい創造である。神の国で、新しくされた者は、キリストと結ばれることによって、汚点のないこと、公正、従順、といったキリストの完全な属性を反映していくことになった。アダムとエバは被造物の前で神を代表する筈だったが、失敗してしまった。キリストは神を代表したばかりか、「人類が、墮落によって奪われた神への志向を取り戻し始める」⁷⁵ことを可能にした。アダムは神によって「非常に良い」世界の大変な部分として造られたが、パウロは、キリストの贖いの業を要求した肉なる者の代表として、アダムを描いている。ローマの信徒への手紙 5:12-21 で、パウロは、アダムの証人となるのではなく、全人類にいのちと神の栄光をもたらしたキリストの良い証人となるよう信徒に勧めている。⁷⁶

アダムとエバの召命は人類最初の世代のものであったのみならず、彼らの召命への応答が理想的なものではなかったという点でも、彼らの役割は人間の役割のスタート地点であったと言えるだろう。アダムとエバは良いものとして創造されたが、与えられた召命に忠実に応答することができなかった。その人が自分の召命をどう生きるかについてのロールモデルは、アダムとエバではなく、キリストである。召命の観点から、創造物語はゴールではなく、スタート地点であると考えられる。

5. 結 論

召命に焦点を置いてアダムとエバの役割を検証したところによると、彼らの役割は、今日わたしたちがゴールと捉えるべきものではないことがわかる。それは、第一に、召命というものはそれぞれのキリスト者に個々に与えられるものであるからである。新約聖書における教会の一般的な理解は、召命は、聖霊の働きの現れとして、それぞれの信者特有のものとして与えられているということである。

実際、男女は一樣にアダムとエバの召命を与えられていると考え、ジェンダーロールは平等である、あるいは平等ではない、と決定することは難しい。なぜなら、アダムとエバは主に同じ召命を共に分かち合っていたからである。アダムかエバのどちらかに区別して専門

⁷³ コリントの信徒への手紙一 11: 1; フィリピの信徒への手紙 3:17。

⁷⁴ N. T. Wright, *The Climax of the Covenant: Christ and the Law in Pauline Theology* (Edinburgh: T & T Clark, 1991), 29.

⁷⁵ Colin E. Gunton, *Christ and Creation* (Grand Rapids: Eerdmans, 1992), 100.

⁷⁶ Cranfield, *A Critical and Exegetical Commentary on the Epistle to the Romans*, 295.

的に割りあてられた仕事はあまりなかったようである。また、神は彼らにどのように仕事を分かち合うべきか（平等に、あるいは不平等にか）なども告げていなかったようである。更に、アダムとエバのほとんどの召命は、今日の男女に適用できないものであった。即ち、彼らの召命は、人類の初期の時代において、彼ら自身のものとして、彼らに特別なものであった。

むしろ、アダムとエバの召命についての検証が示すことは、彼らの召命は、男女両方にとってスタート地点のようなものだ、ということである。なぜなら、彼らの召命は、後に続く世代において発展を見るものだったからである。更に、アダムとエバが示した召命への応答の仕方を見ると、今日の私たちは、自らの召命に対して、彼らの応答より遥かに良い、優れた応答をすべきであることがわかる。ロール・モデルは、アダムとエバではなく、キリストなのである。イエスは自らの役割に忠実であり続けたが、アダムとエバはそうあることができなかった。普遍的な召命があるとしたら、それはイエスが実例を示したものであり、明確に表現したものである。私たちはアダムとエバに教えを求める必要はないのである。

召命についての検証から言えることは、創造物語がゴールではなく、むしろスタート地点であるということである。創造物語はスタート地点であるという Irenaeus の墮落前の状態の理解は、オーガスティンの理解より、妥当であると考えられる。墮落前の人間の役割がどのようなものであったにせよ、それは普遍的な理想（ゴール）というよりスタート地点であっただろう。今日の男女は、必ずしも墮落前のジェンダーロールを参照する必要はないと言える。

参考文献

- Aiken, Henry David. *Reason and Conduct: New Bearings in Moral Philosophy*. New York: Knopf, 1962.
- Beale, Gregory K. "Eden, the Temple, and the Church's Mission in the New Creation." *Journal of the Evangelical Theological Society* 48, no. 1 (2005): 5-31.
- Bilezikian, Gilbert G. *Beyond Sex Roles: What the Bible Says About a Woman's Place in Church and Family*. 3rd ed. Grand Rapids: Baker, 2006.
- Cranfield, Charles E. B. *A Critical and Exegetical Commentary on the Epistle to the Romans*. London: T & T Clark, 2004.
- Dykstra, Craig R. "Called to Life, Called to Love." *Congregations* 32, no. 2 (2006): 11-13.
- Ellis, Robert R. "Creation, Vocation, Crisis and Rest: A Creational Model for Spirituality." *Review & Expositor* 103, no. 2 (2006): 307-24.
- Erickson, Millard J. *Christian Theology*. 2nd ed. Grand Rapids: Baker, 1998.
- Fitzmyer, Joseph A. *Spiritual Exercises Based on Paul's Epistle to the Romans*.

- 2nd ed. Grand Rapids: Eerdmans, 2004.
- Grenz, Stanley J., and Denise Muir Kjesbo. *Women in the Church: A Biblical Theology of Women in Ministry*. Downers Grove: InterVarsity Press, 1995.
- Groothuis, Rebecca M. *Good News for Women: A Biblical Picture of Gender Equality*. Grand Rapids: Baker, 1997.
- Grudem, Wayne A. *Systematic Theology: An Introduction to Biblical Doctrine*. Downers Grove: InterVarsity Press, 1994.
- Gunton, Colin E. *Christ and Creation*. Grand Rapids: Eerdmans, 1992.
- Hess, Richard S. "Adam." In *The Dictionary of the Old Testament: Pentateuch*, edited by T. Desmond Alexander and David W. Baker, 18-21. Downers Grove: InterVarsity Press, 2003.
- Isaac, Donald J. "Work and Christian Calling." *Direction* 32, no. 2 (2003): 184-92.
- Knudson, Albert Cornelius. *The Principles of Christian Ethics*. New York: Abingdon-Cokesbury Press, 1943.
- LaCelle-Peterson, Kristina. *Liberating Tradition: Women's Identity and Vocation in Christian Perspective*. Grand Rapids: Baker, 2008.
- Luther, Martin. "Address to the Christian Nobility of the German Nation." In *First Principles of the Reformation or the Ninety-Five Theses and the Three Primary Works of Dr. Martin Luther*, edited by Henry Wace. London: John Murray, 1883.
- MacDonald, Gordon. "God's Calling Plan: So What Exactly Is 'a Call to Ministry'?" *Leadership* 24, no. 4 (2003): 35-43.
- Moo, Douglas J. *The Epistle to the Romans*, New International Commentary on the New Testament. Grand Rapids: Eerdmans, 1996.
- Ortlund, Raymond C. "Male-Female Equality and Male Headship : Genesis 1-3." In *Recovering Biblical Manhood and Womanhood*, edited by John Piper and Wayne Grudem, 86-104. Wheaton: Crossway Books, 1991.
- Packer, J. I. "Call, Calling." In *Evangelical Dictionary of Theology*, edited by Walter A. Elwell. Grand Rapids: Baker, 2001.
- Piper, John. "A Vision of Biblical Complementarity: Manhood and Womanhood." In *Recovering Biblical Manhood and Womanhood: A Response to Evangelical Feminism*, edited by John Piper and Wayne A. Grudem, 25-55. Wheaton: Crossway Books, 1991.
- Ramsey, George W. "Is Name-Giving an Act of Domination in Genesis 2:23 and Elsewhere." *Catholic Biblical Quarterly* 50, no. 1 (1988): 24-35.

- Ramsey, Paul. *Basic Christian Ethics*. Library of Theological Ethics. Louisville: Westminster John Knox Press, 1993.
- Robertson, A. T. *A Critical and Exegetical Commentary on the First Epistle of St Paul to the Corinthians*. New York: Charles Scribner's Sons, 1911.
- Stassen, Glen Harold, and David P. Gushee. *Kingdom Ethics: Following Jesus in Contemporary Context*. Downers Grove: InterVarsity Press, 2003.
- Webb, William J. *Slaves, Women and Homosexuals: Exploring the Hermeneutics of Cultural Analysis*. Downers Grove: InterVarsity Press, 2001.
- Weber, Max. *The Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism*. New York: Scribner, 1958.
- Wenham, Gordon J. *Genesis 1-15*. Waco: Word Books, 1987.
- Wright, N. T. *The Climax of the Covenant: Christ and the Law in Pauline Theology*. Edinburgh: T & T Clark, 1991.
- Yarbrough, Robert W. "Women and Ministry: Fidelity to Scripture in the Unity of Faith." *Presbyterion* 35, no. 2 (2009): 65-81.

アダムとエバの召命：スタート地点かゴールか

富田茂美

Callings of Adam and Eve: A Starting-Point or a Goal?

Shigemi Tomita

『少年倶楽部』『少女倶楽部』における運動小説をめぐる人々——小泉葵南の仕事

山田 昭子

1. はじめに

『少年倶楽部』は1914〔大正3〕年、大日本雄弁会(後に大日本雄弁会講談社)より創刊された。1923〔大正12〕年には『少女倶楽部』が創刊されている。拙論「『少女倶楽部』における運動小説について」(『芸術至上主義文芸』2007年11月)では、『少女倶楽部』が創刊されて間もなく出現した「運動小説」と呼ばれる作品群を調査しまとめた。『少女倶楽部』の書き手は、『少年倶楽部』と兼任している場合があり、小泉葵南もその一人である。本論では、運動小説をめぐる人々の中から小泉葵南を取り上げ、著作物から人物とその仕事について探っていく。

2. 著作および先行論から見る経歴

小泉葵南(本名小泉三郎)(1)の経歴についてまとめたものとしては、『野球界』3巻2号(1913〔大正2〕年2月)の「運動記者評論」がある。これはシリーズもので、春秋生による運動記者の紹介記事である。それによると、小泉葵南は「明治廿一年水戸城下市」生まれ、「初めて新聞記者になつたのが十九歳の時、前の東京日日新聞に入社した折」だとされる。ここで補足として、1919〔大正8〕年実業之日本社より刊行された『野球ローマンス』の前書きには「處で扱へと改まる程の事ぢやないが、僕が運動記者として球界へ出入し始めてから丁度今年で十三年ばかりになる。その最初は東京日々新聞(大阪毎日に買収されない前の)記者として、又次ぎは読売新聞記者、そして最後が雑誌野球界の主幹といふ恐ろしい肩書の下にである」と自身によって説明されていることを挙げておく。春秋生によれば葵南は「野球以外に嘗つて国華座(今の蓬萊座)の立役者として脚本家たらんとした事もあつたが今はもう劇界と絶縁した」という。筆名である「葵南の葵は、徳川家の葵で、水戸城の南で生まれた」ことに由来する。容姿に関しては、「背が高いのとLange Gesicht(葵南氏に氣のつかないやうに、これは独逸語で御座る)なるが故に、飛田君などはロング氏と呼んで居る」とあり、「運動界には可成りの古顔で、通人で、然かも運動記者倶楽部チームのキャプテンまで務めて居る人」、「もう一つは茨城倶楽部のマネージャー」である。「然し一面に於ては、少々の欠点も」あり、「直きに興奮し易い、怒りつばいと云ふ性質」を併せ持つ。

「何かあると直きに爆発する事正に浅間山以上であると云ふ事は即ち君が活火山式の人物であると云ふ事を語つて居る」とある通り、気性が激しい人物として知られているようだ。

交友関係については、横田順彌が「小泉葵南は押川春浪や春浪の弟で、野球殿堂入りもしている押川清たちと親しい、早稲田大学卒業の大学の野球ファン。明治後期から大正にかけて、野球始めスポーツ界の裏話などを披露した本を多数書いている」と述べているほか(2)、1914〔大正3〕年2月、葵南自ら、自著である『野球茶咄』の前書きにおいて「然して急し

い米国行の準備中をも厭はず、こんな下らないものゝために美しい装丁をして呉れた、知友竹久夢二君の御好意を深く感謝する」と、野球好きで知られる挿絵画家竹久夢二に謝辞をささげている。葵南の交友関係はその著書からも広範囲にわたっていることがうかがえ、酒はたしなまず(3)、大のスポーツ好きであることを自認している。

僕は昔から運動が大好きだ、学生時代などには勉強をほつたらかして運動ばかりを盛んに遣つたものだ。だから我国固有の撃剣もやつたし柔道も少しは習つた。弓も引いたし相撲も取つた事がある、と同時にラケットを握つた事もあるボートを漕いた(※ママ)事も、ランニングを遣つたことも又バットを振り廻したこともある。が其の中で最も痛快で面白いと思つたのは此の野球である、

『通俗 野球新教範』(岡本盛花堂 1920〔大正9〕年4月)

「本年とつて三歳になる娘の父と呼ばれるやうになつた現在でも」とあることから、少なくとも娘が一人はいたと思われるが、その五年前にあたる『野球界』1915〔大正4〕年6号では、「死の悲哀」と題して「あゝ可憐なる女兒は去る廿三日の午前に時を以て、漸く母の胎内は出たのでしたが哀れにも、あの冷ややかな死と云ふ恐ろしい手にとらはれて居たのでありました」と、娘の死を伝えているため、その二年後に再び女兒を授かつたと思われる。

葵南が野球に加えて好んだのは相撲である。「自分の家には昔から角狂の血が流れて居らしい。父の話に依ると、曾祖父も好きだつたし祖父も亦それに負けない位の相撲氣違ひであつたさうだ、が殊に父の相撲熱と来たら大したもの、常にこれを談じ、暇さへあれば見物に出掛けたものであつた」、「恐らく自分の道楽の中からこれと野球といふものを除いたら殆んどナッシングに近いであらう」(4)という発言通り、野球に次いで多い著作は相撲に関するものだ。

葵南がおよそ八年にわたり関わり続けた『野球界』は、1908年に「野球研究会」という同人によって創刊された『月刊ベースボール』に端を発する雑誌である。その後、1911年に発行元を博文館(博文館の内部に設立された「野球界社」)へ移したことに伴い、誌名も『野球界』に改題。その規模を拡大し、1930年代までには『朝日スポーツ』とともにスポーツ雑誌の代表的な存在となったという(5)。葵南は、自身の来し方を振り返りながら、『野球界』を去るにあたって「歳月はげに流水の如しとか、不肖自分が故河岡潮風氏の後任として本誌の編輯に携はることになつてから、早くもこゝに七ヶ年の星霜を経るに至つたのである」、「然るに今回計らずも一身上の都合に依つて本誌との関係を断ち、他の方面へ向つて活躍を試みなければならぬ事になつたのである」と述べている(6)。後任となった横井春野は、小泉葵南の労をねぎらいつつ、「但し僕が一言したいのは、小泉君は、一身上の都合で退社せられたのであつて、小泉君対野球界社、小泉君対僕の間には、何のわだかまりもなく其関係は頗る円満であると云ふことである、この点は、最も明瞭にしておき度い」と説明している。横井春野は1891〔明治24〕年に生まれ能や謡曲、登山に親しみ、女子野球の普及にも

努めた人物である(7)。だが、この横井の発言は、若干含みがあると取れなくもない。今回調べた資料の中に、葵南がトラブルに巻き込まれた過去や経緯に関するものがいくつかあるからだ。1918〔大正7〕年1月泰山房刊『お相撲さん物語』では常陸山にまつわる出来事が次のように書かれている。

最初は同郷の関係から先の常陸山、今の出羽の海の部屋へよく遊びに行つたので、その時分は常陸山でなければ夜も日も明けないと云ふ位であつたが、十年ばかり以前に同郷学生に依つて組織されて居る茨城県倶楽部の事に就いて、端しなくも出羽の海と意見の衝突を来たしたので、それ以来同部屋へは足踏みもせぬ事に決心し、為めに暫く角界との関係を断つて居たが、七八年以前に計らずも角道革新の唱道者たる、彼の力士綾川五郎次と相識るに至つて再び角界に出入し、彼の為に綾川会組織の計画を立て、これを実現せしめるなど、自分と綾川との関係は日に日に濃厚となり、親密の度は年一年と増すばかりであつた。

常陸山は「力士としては横綱中の大横綱、土俵を退いては筆頭取締として協会運営に才腕をふるい、出羽海親方としては多数の大力士、名力士を育成した不世出の英傑」(8)と言われた常陸山谷衛門(1874~1922)であり、葵南と同じ水戸市出身である。綾川五郎次(1883~1919)は「容姿端麗、均整の取れた体格、キビキビとした取り口で人気を集め」、「現役時代より明治大学相撲部師範となって学生相撲の指導に専念」した力士だ(9)。綾川五郎次のおかげで角界との縁を再び結んだ小泉葵南であったが、またしてもトラブルに見舞われる。

然るに今春雑誌文芸倶楽部誌上に「一勝負一万円」なる題に下に偶々新横綱大錦の八百長説現はるゝに及んで、彼出羽の海は早計にもその執筆者を自分なりと曲解し、綾川を通じて誹譏の告訴を提起する由を通じて来た。こゝに於て自分は墨を我が熱愛する綾川に及ぼさんことを恐れ、綾川会の幹事なるものを辞すると同時に角界との関係を再び断ち、華々しく角界の巨人出羽の海を向に廻して法廷に白黒を争はうと決心した。

とうとう、法廷での争いにまで発展した二人の仲は、葵南を「以来如何なることがあらうとも角力を語らず、国技館へは足踏みもしない積りである」と決心させるまでに至った。本書は「その記念として」、「角界の事情に通じない人の為めに、角力社会といふものはこんなものであるといふことを説明しやうと」書かれたものであるという。この前書きは「国技館焼失の翌日 諏訪の森の寓居にて」と最後に結ばれているが、自著の前書きには穏やかではない書きぶりだ。

別の事件として1925〔大正14〕年12月の『野球界』では、早大競争部選手である山田要が「縄田選手の名を騙つた小泉三郎氏に問ふ」と題し、小泉葵南に抗議文を寄せている。少

年運動叢書4『ランニングのやり方』に関し、縄田自身に身に覚えのないところで自身の名義の本が出され、その本が小泉葵南の手によって書かれたものであることを明らかにする内容だ。山田は「法律的にだつてこんな事は立派な詐欺行為だと思ふ。小泉氏だつて我が運動界には古くから殊に野球方面に相当知名の人である様に筆者は記憶してゐる。それなのに事は単なる一小冊子紙にもせよ、私欲の為にかうした不徳行為を敢てされたと云ふ事は小泉氏にとつても非常に遺憾な事であると思ふ」と強く非難している。これに対する葵南の返答は管見の限り見当たらず、残念ながら少年運動叢書4『ランニングのやり方』の存在も確認できていない。

その数年後の1932〔昭和7〕年、今度は別の事件で葵南が誠文堂の小川菊松に対する抗議文を載せている。抗議文が掲載された『実業之世界』では、数号にわたって小川菊松の「インチキ行為」を暴露しているが、葵南の抗議文は、小川から「従来あつた野球手ほどの書籍は殆ど間違ひだらけの有害無益だ」と言われた挙句に、自著『野球手ほどき』と大同小異の本を出されたことに端を発している。葵南は誠文堂文庫について、「大に儲けようとした『スポーツ』が欠損に次ぐ欠損、遂に二万数千円の大穴をあけて没落したかと思へば、これ又僕の献策を基礎として出版された、『野球百貨全集』が売行思はしからず、加ふるにこの殺人的不景気のためにその他の売行もよくないといふ訳で、止むなく計画したのが十銭文庫を改訂増補、若しくは合本にして僅に装幀のみを変へた『誠文堂文庫』なのであるが、それにしても中には著者の多くが名義だけで真実の執筆者がいつれも蔭に隠れてゐるのを幸ひ、無断で改訂したり増補したりしたものが、かなりにある」と、その実情を暴露している。

ここで言う『スポーツ』というのは、当時小川が持て余していた『ゲーム』という雑誌がうまくゆかず、葵南が「それをスポーツの雑誌に改革することを勧め」た雑誌である。すると「彼は忽ちそれに共鳴して寧ろ改革するよりも、廃刊した方がよいと主張し、それと共に宣伝用の催し物もして見たいから、そのプランをも建てゝくれとの依頼があつたので、もちろんお礼はいたしますからとの言質をとつて誌名を『スポーツ』と称する月刊雑誌のプラン＝表紙体裁から口絵写真版及びグラヴィアの頁数、記事の配列、附録事業たるスポーツ写真通信、代理部に至るまでの＝と、創刊記念の催し物たる東日本選抜中等学校野球大会、及び全国中等学校選抜野球大会の計画表都合三個のプランを提供した」のだという。葵南の骨折りにもかかわらず、「スポーツ雑誌の創刊を思ひ止まつて『ゲーム』の改革を明春から実行することにした」小川は、葵南に編集者の選考を頼むが、またしても小川の心変わりによって無駄骨に終わる。ここで一つ収穫であつたのは、「現に僕が執筆して大の里の名義になつてゐる『相撲の話』の如きは、一言の挨拶もなく増補されてゐる——らしいから」という発言から、葵南が「大の里」という筆名も使っていたことが判明したことだ。

葵南の人物評について、小川勝は「あまり芳しい風評は残っていない」とし、「敗戦後、東京タイムスの編集局長として東西対抗にかかわるなど、プロ野球界の内部事情をよく知っていた東田一朔」の著作『プロ野球誕生前夜』（東海大学出版会）と、生前の葵南を知る関三穂（ベースボールマガジン社顧問）の言葉を引用し、「野球界の人々に広く知られてはいた

が、どう見ても、あまり好まれてはいなかったようだ」とまとめている。一方で、文章の巧みさは評価しており、「大正時代のモダニズムをたっぷりと感じさせる、歯切れのよい文章を書いている」としているように、葵南の仕事の多くは著述にある。今回の調査で収集したものは表1の通りである。以下、概観していく。

表1.

※「小泉葵南」名義以外の記事、連名記事には筆名を記した。

発表年	月	タイトル (出版社、雑誌名)
明治42年	3月	小泉三郎「此に茨城野球団在り」(『運動世界』12巻3号)
明治43年	10月6日	「本社の内部(其四) 第一編輯室(政治経済外交教育社会部)」(『読売新聞』) ※写真の横に書いてあるメンバー名の中に小泉葵南の名前があり。
明治44年	10月	葵南子「洛陽美少年軍の武者振り」(『野球界』第1巻2号)
明治45年	3月	葵南子「痛快戦」(『野球界』第2巻4号)
	4月	葵南子「試合の朝」(『野球界』第2巻5号)
	5月	葵南子「一高対三高の大会戦」/小泉葵南子「野球小説 勝報」(『野球界』第2巻6号)
	6月	葵南子「対麻軍観戦記」(『野球界』第2巻7号)
	7月	葵南子「羽田に於ける早麻戦」(『野球界』第2巻8号)
大正2年	5月	『野球技の研究』(博文館)
	7月	『全比律賓野球団の印象』(『学生』4巻7号) 『術語詳解 野球手引』(博文館)
大正3年	2月	『野球茶咄』(博文館)
	3月	葵南子「球界無駄話」(『野球界』4巻3号)
	4月	「小澤君に答ふ」/葵南子「球界無駄話」(『野球界』4巻4号)
	5月	葵南子「日本倶楽部の実力」/葵南子「戸塚に於ける中学争覇戦」(『野球界』4巻5号)
	6月	「沙港日本軍の為に弁ず」/葵南子「球界無駄話」/葵南子「早大対明大野球交戦記」/葵南生「天狗様の関西遠征」(『野球界』4巻6号)
	7月	葵南子「球界無駄話」(『野球界』4巻7号)
	8月	葵南子「球界無駄話」/葵南子「上野より大洗迄の記」(『野球界』4巻8号)
	9月	葵南子「球界無駄話」(『野球界』4巻9号)
	10月	杉本生・葵南子・耶摩生「対沙市日本観戦記」(『野球界』4巻10号)
	11月	葵南子「球界無駄話」/耶摩生・葵南子・激浪生「対沙市日本観戦記」(『野球界』4巻11号)
	12月	小泉葵南「押川春浪氏を悼む」/葵南子「球界無駄話」/鉄骨生・葵南子・激浪生「明大野球団奮戦記」(『野球界』4巻12号)
	大正4年	1月
3月		葵南子「続三大学選手相撲評」/葵南子「雪の諏訪」/葵生「世話の焼ける横綱の稽古」(『野球界』5巻3号)
4月		葵南子「運動当座帳」/葵南子・激浪生「向陵の序開戦」(『野球界』5巻4号)
5月		葵南子・紅鳥生「中学争覇戦観戦記」/葵南子「向陵の白熱戦」(『野球界』5巻5号)
6月		「運動当座帳」/「高師の長距離走」/「痛快なる学生相撲大会」/激浪生・葵南子・泗北生「駿台健児の活躍」の中の「早明第一回戦」「早明決勝戦見た儘」/「発行遅延に就て」/「死の悲哀」(『野球界』5巻6号)
7月		小泉葵南・佐々木激浪「総論 春の球界」(『野球界』5巻7号)
8月		「運動当座帳」(『野球界』5巻8号)/『野球百物語』(菊屋出版部) ※奥付著者の欄に「小泉三郎」とある。
9月		「運動当座帳」(『野球界』5巻9号)
10月		葵南子「対市俄古戦前記」/山本生・葵南子「練習見ある記」(『野球界』5巻10号)
11月		小泉葵南・佐々木激浪「市大学野球団の回顧」/小泉葵南・廣瀬秋男「市俄古軍合戦記」/「一寸御礼を・・・。」(『野球界』5巻11号)/「秋季野球観戦記」(『学生』6巻12号)
12月		「運動当座帳」(『野球界』5巻12号)/「早慶両野球団の優劣」(『学生』6巻13号)

発表年	月	タイトル (出版社、雑誌名)
大正5年	1月	「駿台の俠骨児 中村俊二論：中村君の印象」／「運動当座帳」(『野球界』6巻1号)
	2月	「簡易氷滑法」(『学生』7巻2号)
		「東京相撲が地方を巡業する時 彼等の宿と食事と土俵」(『生活』4巻3号)
	3月	「稲門の麒麟児 加藤吉兵衛論：三、加藤君余談」／「運動当座帳」(『野球界』6巻3号)
	4月	「三田の怪投手 石川眞良論：一、僕の眼に映じた石川君」(『野球界』6巻4号)／「春の野球界」(『学生』7巻4号)
	5月	「お相撲さん物語」／「駿台の名捕手 海老塚進一論：一、僕の観たる海老塚君」／小泉葵南・佐々木激浪・山本生・廣瀬秋男「早明野球観戦記：明大堂々として勝つ」／「向陵の痛烈戦＝三高四年振に勝つ＝」(『野球界』6巻5号)
	6月	「稲門の名野手 横山方吉論：一、頗る熱心な人だ」／「向陵の白熱戦」(『野球界』6巻6号)
	7月	「春季球界総評：一、総観」／「三田の名遊撃 森茂樹論：四、森さん余談」／「五月場所見物の記」(『野球界』6巻7号)
	8月	「駿台の怪投手 大澤逸朗論：一、大澤君の印象」／「大正膝栗毛 コーチの巻」(『野球界』6巻8号)
	9月	「稲門の名主将 浅沼誉夫論：一、君は即ち頭の人だ」／「大正膝栗毛 香取鹿島廻りの巻」(『野球界』6巻9号)
	10月	「三田の快捕手 平井卯之助論：三、平井君余談」／小泉葵南・廣瀬秋男「全国の精鋭豊中に集る」／「今秋の球界」(『野球界』6巻10号)
	11月	「聖路易野球団奮戦記：対慶応二回戦」／「五強野球団 球戦漫評」／永井繡眼児・佐々木激浪・小泉葵南・若木翠葉「秋季野球観戦記」(『野球界』6巻11号)
12月	「稲門の快投手 川島民蔵論：四、川島君余談」／「聖路易軍奮戦続記：対明大第二回戦／対早大二回戦」／「秋季野球観戦続記：同試合経過」／「早明二回戦の夜に」(『野球界』6巻12号)	
大正6年	月不明	『野球界主幹 小泉葵南著 初学野球手ほどき 附術語早わかり』(野球界社)
	1月	「三田の名手 腰本壽論：四、腰本君余談」(『野球界』7巻1号)／「土俵の話」(『野球界』7巻2号「運動全般雑誌野球界臨時増刊 春場所相撲号」)
	2月	「総観」(『野球界』7巻3号「野球界大正五年運動写真年鑑」)
	3月	「駿台の名一塁 大原末吉論：四、大原君余談」／小泉葵南・清水秋三郎「春場所見物記」(『野球界』7巻4号)
	4月	小泉葵南「活躍すべき今春の運動界：賑かなる野球界」／「稲門の名三塁 佐伯達夫論：三、佐伯君余談」／「名野球団の陣容」(『野球界』7巻5号)／「昔の野球と今の野球」(『柔道』3巻4号)
	5月	「痛快を極めたる極東大会予選野球戦：早大対明大第一回戦」／「歎声湧く神楽ヶ岡」(『野球界』7巻6号)／「大錦出世物語」(『野球界臨時増刊 夏場所相撲号」)
	6月	「日、比国際野球戦：日本軍先づ劈頭戦に勝つ」／「早大対全比軍第三回戦」／「三田の名外野 鍛冶仁吉論：一、鍛冶君の印象」／「痛快を極めたる極東大会予選試合続記：早大対明大第二回戦／同経過」(『野球界』7巻8号)
	7月	小泉葵南・弘田親輔「賑やかなりし 今春の球界」／「慶軍の雪辱遂に成る」(『野球界』7巻9号)
	8月	「駿台軍の名手 安藤忍論：一、僕の観た安藤君」／小泉葵南・弘田親輔「賑やかなりし 今春の球界 (終結)」(『野球界』7巻10号)
	9月	「稲門の名捕手 市岡忠男論：一、市岡君の印象」／「関東大会の印象」(『野球界』7巻11号)
	10月	小泉葵南・廣瀬秋男・宮本洛陽「壮快を極めたる 全国優勝野球大会」／「浅間登山 屍古垂の記」(『野球界』7巻12号)
	11月	「城南の名二塁 三宅大輔論：一、吾人の三宅観」(『野球界』7巻13号)
12月	「秋季野球観戦記：慶応対明大第一回戦／同試合経過／早大対法政第一回戦／同試合経過／早大対横浜商業戦」(『野球界』7巻14号)／「茶目さんの旅日記」(泰山房)	
大正7年	1月	「戸塚の大投手 岸一郎論：五、岸君余談」／「秋季野球観戦続記：慶応対明大第三回戦／早大対明大第四回戦／明大対法政第一回戦」／葵南球史「鼻息の荒い力士野球団」(『野球界』8巻1号)／小泉佐武郎「印象深い好取組」／「巡業奇談」(『野球界臨時増刊 春場所相撲号」)／『お相撲さん物語』(泰山房)
	2月	小泉葵南・若木翠葉・大原夏海・大川潮風「野球界」／「スケート界／スキー界／ゴルフ界」(『野球界』8巻3号 大正六年運動競技年鑑)
	3月	「駿台の名外野 大門勝論：僕の大門観」／「陽春の野球界」(『野球界』8巻4号)
	4月	「三田の名一塁 松田恒政論：二、松田君の印象」／「今春の各野球団」／「越路の旅」(『野球界』8巻5号)

発表年	月	タイトル (出版社、雑誌名)
大正7年	5月	「稲門の名外野 飯田五郎作論：三、飯田君余談」/「向陵軍の雪辱成る」(『野球界』8巻6号)/「賑かな力士の部屋」(『野球界 臨時増刊 夏場所相撲号])
	6月	「壮烈にして痛快なりし 四大学リーグ戦記：早法第二回戦/早明第二回戦/早明第三回戦」(『野球界』8巻8号)
	7月	「痛快なりし 四大学交戦続記 慶明第二回戦/早法第三回戦/明法第一回戦」/「壮烈を極めたる 向陵野球団奮闘記」(『野球界』8巻9号)
	8月	「京浜中学球界の情勢」(『野球界』8巻10号)
	9月	「駿台軍の主将 小西得郎論：四、小西君余談」(『野球界』8巻11号)
	10月	「稲門の名三塁 池田豊論：四、豊さん余談」/「痛快を極めたりし 沙市朝日軍奮闘記：対慶応第一回戦」(『野球界』8巻12号)
	11月	「駿台の名投手 藤田元論 一、藤田君の印象」/「全関西軍三田を襲ふ」/「痛快なりし 極東大会予選試合：早大対法政第一回戦/早大対明大第二回戦」(『野球界』8巻13号)
	12月	「稲門の快投手 伊藤十郎論 (五) 変さん余談」/「血湧き肉躍る 極東大会予選競技会」/「三大学の乱闘：明大対法政決勝戦」(『野球界』8巻14号)
大正8年	1月	「四大学野球団の印象 油の乗切つた法政大学」/「我輩はボールである」(『野球界』9巻1号)
	4月	「さらば読者諸君よ」/「一高の聯合野球大会▲見た儘と試合の経過▲」(『野球界』9巻5号)
	12月	『野球ローマンス』(実業之日本社)
大正9年	2月	『平易最新野球規則』(光進堂)
	4月	『通俗 野球新教範』(岡本盛花堂)
	10月	『最新野球術初歩』(先進堂)
大正10年	4月	『ベースボールの見方』(先進堂)
大正11年	4月	「運動界膽つ玉ばなし 外人を驚かした富さん」(『雄弁』13巻4号)
	5月	「豪放磊落雲をつかむ様な『庄屋様』こと横綱栃木山」/「あいた口のふさがらぬ力士達の呑気茶気無邪気ぶり」(『雄弁』13巻5号)
	6月	「最近の三大野球戦」(『雄弁』13巻6号)
	7月	「□誌上コーチ□ 野球のお話」(『少年倶楽部』9巻7号)
		「案外弱かつたイ大学野球団」(『中学生』7巻7号)
		「初夏の中空に冴ゆる憂々の響 龍攘虎博の東都野球戦 早法第一回戦三田稲門第二回戦 慶明第二回戦早明第二回戦」(『雄弁』13巻7号)
	8月	「野球小説 最後の本塁打」(小川治平画)/「□誌上コーチ□ 野球のお話」(『少年倶楽部』9巻8号)
	9月	「誌上コーチ 野球のお話」(『少年倶楽部』9巻9号)
12月	「野球吃驚帳 (その二)」(『少年倶楽部』9巻12号)	
『茶目さんの旅日記』(駸々堂書店)		
大正12年	1月	『野球ローマンス 続』(先進堂)
	5月	「野球小説 燃ゆる怨」(深澤省三画)(『少年倶楽部』10巻5号)
	6月	『少年野球教範』(岡村盛花堂)
	8月	小泉三郎「野球小説 嗚呼復讐戦」(松野奏風画)(『少年倶楽部』10巻8号)
	9月	小泉三郎「野球小説 嗚呼復讐戦」(松野奏風画)(『少年倶楽部』10巻9号)
大正13年	3月	「米国球界便り 本塁打王 (ホームランキング) ベーブ・ルース物語」(『少年倶楽部』11巻3号)
	5月	『スポーツ・パンフレット第1編 この頃の野球術 (守備篇)』(朝香屋書店)
	12月	「静枝さんの初陣」(加藤まさを画)(『少女倶楽部』2巻12号)
大正14年	4月	『少年運動叢書2 野球のやり方 (攻め方の巻)』(研修社) ※奥付著者の欄に「小泉三郎」とある。
		『少年運動叢書2 野球のやり方 (守り方の巻)』(研修社) ※奥付著者の欄に「小泉三郎」とある。
大正15年	7月	『誰にもよく解る野球新規則の詳解』(河内盛華堂)
昭和7年	9月	『相撲の話』(誠文堂)
	12月	「出版界の毒虫小川菊松を葬れ! 嘘で固めた! 誠文堂 僕の蒙つた被害のかずへ」(『実業之世界』29巻12号)
昭和8年	2月	「野球と相撲」(『文藝春秋』11巻2号)
昭和10年	5月	『昭和相撲便覧』(野崎書房)
昭和20年頃		東京カップス結成か

3. 著作物の傾向

小泉葵南の著述は大きく分けて観戦記、ハウツーもの、周辺人物記、創作物に分けられる。観戦記は即時性が求められるため、主に雑誌に掲載されていることが多い。最も多いのが『野球界』に掲載した記事であり、平均して一号の中で二～三編の記事を担当している。試合の結果を伝えたものが多いが、球界のあれこれを伝える「球界無駄話」など、人物や境界の情報に通じた葵南ならではの記事も多い。筆名は「小泉葵南」のほか、「小泉三郎」「小泉葵南子」「葵南生」「葵南子」などを確認している。『野球界』以外に掲載された観戦記事としては、「全比律賓野球団の印象」（『学生』1913〔大正2〕年7月）、「秋季野球観戦記」（『学生』1915〔大正4〕年11月）、「早慶両野球団の優劣」（『学生』1915〔大正4〕年12月）、「春の野球界」（『学生』1916〔大正5〕年4月）、「最近の三大野球戦」（『雄弁』1922〔大正11〕年6月）、「案外弱かつたイ大学野球団」（『中学生』1922〔大正11〕年7月）、「初夏の中空に冴ゆる憂々の響 龍攘虎博の東都野球戦 早法第一回戦三田稲門第二回戦 慶明第二回戦早明第二回戦」（『雄弁』1922〔大正11〕年7月）などだ。

ハウツーものとしては、『野球技の研究』（博文館 1913〔大正2〕年5月）、『術語詳解 野球手引』（博文館 1913〔大正2〕年7月）、『通俗 野球新教範』（岡本盛花堂 1920〔大正9〕年4月）、『最新野球術初歩』（先進堂 1920〔大正9〕年10月）、『ベースボールの見方』（先進堂 1921〔大正10〕年4月）、『スポーツ・パンフレット第1編 この頃の野球術（守備篇）』（朝香屋書店 1924〔大正13〕年5月）、『誰にもよく解る野球新規則の詳解』（河内盛華堂 1926〔大正15〕年7月）などがある。その中のいくつかの著書は、「今迄出版された本を読んで見た處で、既に野球を遣つて居る人の為めに書いたものであるから猶ほ更ら見当の付きつこがありやしない。故に自分は斯う云ふ未だ野球を少しも知らぬ人の為めに此の本を書いて見たのである」（『術語詳解 野球手引』）とあるように、専門家向けに限っているわけではない。1920〔大正9〕年2月に刊行された『平易最新野球規則』（光進堂）は、「本規則は一千九百十九年度発行のガイドブックの巻末に附してあつた、米国野球協会が制定したものに據つたのであるから、我国に於ける最も新しい規則であると云ふ事が出来る」という一冊だ。「成るべく平易な文章を以て懇切に説明」している点も特徴であり、初学者にも優しい解説書を心掛けていることがわかる。

周辺人物記は、主に自身の界限や野球界で見聞きした出来事などを書き留めたものである。『野球界』では大正5年あたりから、大学野球の選手たちを一人ずつ取り上げ、複数の執筆者でその選手に関するエピソードを紹介するシリーズの連載が始まるが、葵南は毎号執筆者に加わっている。その他の周辺人物記は、著書でいうと『野球茶咄』（博文館 1914〔大正3〕年2月）、『野球百物語』（菊屋出版部 大正4年8月）、『野球ローマンス』（実業之日本社 1919〔大正8〕年12月）などがある。『野球ローマンス』には親交のあった押川春浪に関するエピソードも掲載されている。博文館と都新聞の野球団が日比谷公園で試合をするにあたり、審判を頼まれた押川春浪が松本（筆者注、松本楼のことであろう）に入り、田舎者扱いをされたこと、開かれた送別会で春浪が歌を披露せざるを得なくなった顛末な

どだ。本書からは葵南の交友関係の広さがうかがえると同時に、出来事を簡潔に面白味をもって叙述する記者ならではの筆致が見てとれる。

創作物は野球に関する物語を『野球界』に、少年少女向け読み物を『少年倶楽部』と『少女倶楽部』にそれぞれ執筆している。『少年倶楽部』と『少女倶楽部』では競技が異なっており、『少女倶楽部』では庭球に没頭する少女の物語を一編、『少年倶楽部』では野球に関する解説五編と創作小説を四編執筆している(10)。ここで両誌に掲載されている創作物に注目してみると、ある違いが見えてくる。それは、少年向け創作では、試合中の様子や経過が事細かに描かれるのに対し、少女向けではそれが簡略化されているということだ。次の二つを見比べてみたい。

が然し敵の投手は流石に巧い。続く村松が好機逸すべからずとばかりに、再びバントを試みようとしたのを早くも看破し、カーヴに次ぐにウエストボールを以てして、巧みに其の裏を欠いたばかりでなく遂に之を三振に倒し、更に強打の誉れの高い山田を凡打せしめ、こゝにツーダウンとなつて好機は空しく去らうとしつゝあるのである。これを見た彼は其の打撃順が来たので憤然として立つや、矢庭にバット日本を引ツ掴んで力に任せて、一振二振したかと思ふと其の中の本一本を捨て、兼ねて愛撫の兄から米国みやげに貰つたバットを提げ、きつと眦を決して而も悠然とボックスに入つた斯くと見た敵の首将は日頃四番を承はる彼の猛打を知つてゐるので、直ちに令を全軍に下して陣形を深く変へると同時にわざわざ投手板の所まで歩を運んで投手に何かを囁くのであつたが、これぞ彼の猛打を未然に防がうが為め故意に四球を与へ、然る後に稍打力の劣つた碁盤の丸山に凡打させて、此の試合の最後を飾らうといふ頗る都合のいゝ策戦である事は独り彼のみでなく何人にも直ちに首肯れるのである。

(「最後の本塁打」)

するとレシーヴァーの静枝さんは試合馴れがして居りませんので、最初は少し落付かないと見えて何となくソハへして居りましたが、伊藤さんがお得意のカーヴするサーブの強球を、素早いモーションと共に巧みに受け返してからは、すっかり落付いたらしくそれこそ悠々迫らず、城北選手仕込みの鮮やかなるプレーを二三回演じました。そのうち早くも見抜いたと見えて剛球に次ぐに軟球を以て、其の弱点とも云ふべきバツクを巧みに衝き、忽ちワン、セツトを得てリードしたばかりでなく、次のセツトには惜しい所でエラーを遣らかして盛返され、セツトオールとなつて皆の手に汗を握らしめました。続いて第三セツトには又もや数回の美技を見せた末、何んの苦もなく零敗を喫せしめて、此の強敵を破りましたので満場はアツとばかりに驚き、拍手と喝采とを惜しまずに静枝さんの鮮やかなるお手並を、褒めちぎらない者はありませんでした。

(「静枝さんの初陣」)

「最後の本塁打」は『少年倶楽部』に掲載されたもの、「静枝さんの初陣」は『少女倶楽部』に掲載されたものであるが、前者のほうが試合中の様子がテンポよく描かれている一方で、後者は静枝の心の動きが合間にさしはさまれ、試合の経緯については適宜まとめられている。

そして次に引用したのは、静枝が全力を注ぐ、日本女子庭球選手権争奪戦の結末であるが、肝心の試合結果が「静枝さんの初陣は実に華々しく、さしもの大敵たる三條時子さんを物の美事に、所謂段違ひのストレートセットに破つて、一躍大選手の列に入つたのでありました」の一言で終わってしまっている（以下、傍線部筆者）。

会場へ着いてホツと一息する間もなく、伊藤さんを相手に軽い練習を試みた静枝さんは、踊る胸をぢつと抑へながら選手席の一隅から、手に汗を握つて先輩たちの試合を見物して居りました。やがて四番目にはコートへ立たなければなりませんでした。ブル〜と戦く手にラケットを堅く握り締め、ネットを間に相手の三條さんに御挨拶をした時は、頭がボーツとして、何が何やら薩張り見当が付きませんでした。練習の打合ひを始めた頃にはいくらか余裕も出来、審判官の『プレイボール！』に次いで三條さんのサーブを、ハツと思ひながらも素早くモーションを付け、得意のバツクで巧みに打ち返してからは元気も出て、又落付も出て、思ふやうな技量を揮ふ事が出来ました。静枝さんの初陣は実に華々しく、さしもの大敵たる三條時子さんを物の美事に、所謂段違ひのストレートセットに破つて、一躍大選手の列に入つたのでありました。

（「静枝さんの初陣」）

本作は言ってしまうと争奪戦を迎えるまでの静枝の心のありよう、それも父親から施される「精神的コーチ」によっていかにして試合当日を迎えたかに重点が置かれている。作品の冒頭は、静枝の父親の人物説明から始まっている。静枝の父は「それは〜有名な運動家」であり、「学生時代は城北大学の野球選手として、二度までも遠く布哇から米国へ遠征を試み、赤髯尖り鼻の米人達を驚かして来たといふ名選手で、今だつてその名を知らない者は殆んどない位」の人物である。「男を産め、男を産め」が口癖で、静枝が生まれた後も、「お前は何故男に生れて来なかつたんだい」と言っている。そればかりか母親までもが「何うして貴女は女なんかに生れて来たの」と言うのである。だが、それに対し、静枝が思い悩むことはない。静枝の精神的苦悩は試合に関するものにのみ起こるのであり、自身のアイデンティティという深層に至ることはない。むしろ、静枝が男の子ではなかったという事実は、「昔気質で頗る厳格なお祖父さんやお祖母さんが、いや『女らしくない』とか、或いは、『あんなにお転婆に育てちやつては』などと、それこそ顔色を変へながら頻りと反対するのも構はず」、「熱心にそれを奨励しては大に力んでゐる」父母の態度となつて、静枝が庭球を取り組むきっかけへと結びついている。静枝の父は、男の子が生まれることを思い描き、親友の一人と「君の處のを投手にしたら、僕の處のを捕手にして、然うして名投捕手を作り上げやう

ぢやないか」とまで言い合うほどであった。静枝が庭球に取り組むまでの動機は、恵まれた環境と、両親にとって男の子の代替としての存在であるということ以外にはない。雪辱を晴らすため「嘗て蒙つた敗戦の恥辱を奈何せん！」（「燃ゆる怨」）と決意したり、「これに依つて受けた自分に対する極端な侮辱と、辛辣な迫害とを何うして此のまゝ済ます事が出来よう」と「独り吾が心に固く堅く誓」ったり（「嗚呼復讐戦」）といった、自身の心から湧き上がる動機は、葵南の描く少年小説の方に顕著であると言える。競技場面と精神的葛藤の描写のバランスを鑑みるに、少年向け読み物には「精神力がスポーツの技術を向上させる」ことをテーマとし、少女向け読み物には「スポーツが精神力を向上させる」ことをテーマとしている葵南の書き分けがうかがえるが、少女小説の方では少年小説とは異なり、少女が競技に向かう動機付けが葵南の中で不十分であったために、その後作品が描かれることはなかったのではないかと推察される。

このほか大正末には少年野球に関する本を出している。『少年野球教範』（岡村盛花堂 1923〔大正12〕年6月）、『少年運動叢書2 野球のやり方(攻め方の巻)』（研修社 1925〔大正14〕年4月）、『少年運動叢書2 野球のやり方(守り方の巻)』（研修社 1925〔大正14〕年4月）などがそうであるが、これらの少年向けの著作を執筆するに至ったのは、当時の少年野球の発達にもかかわらず、「これ程盛んでありながら、少年諸君が研究の手引ともなる好参考書が一つも無い事」、「無い事はないでせうが、それ等は何れも大して経験のない人達が所謂机上の論を、書いて見たら何うやら売れるだらう位の考へから、唯無責任に書き列ねたもの」であるため、薦めたいものはない、という思いが根底にあったからだ。そして「二三年前から東京少年野球界の雄として、有名な彼の戸塚小学校の先輩に依つて組織されてゐる青年団其他の依頼に依り、親しく同チームをコーチした経験を土台として、少年諸君の為に本書を著はして見たのであります」（『少年野球教範』）と、自身も少年野球の指導に携わっていた経緯が動機であるとしている。『少年倶楽部』に記事を書き始めたのは本書刊行の一年前のことである。『少年倶楽部』及び『少女倶楽部』に作品を執筆するに至った経緯は判明していないが、同年には同じく講談社刊の『雄弁』に記事を執筆しており、少年野球の指導に携わっていたということもあって依頼がきたとも考えられる。

その他、相撲に関する著作物としては、「東京相撲が地方を巡業する時 彼等の宿と食事と土俵」（『生活』1916〔大正5〕年2月）、『お相撲さん物語』（泰山房 1918〔大正7〕年1月）、「豪放磊落雲をつかむ様な『庄屋様』こと横綱栃木山」／「あいた口のふさがらぬ力士達の呑気茶気無邪気ぶり」（『雄弁』1922〔大正11〕年5月）、『相撲の話』（誠文堂 1932〔昭和7〕年9月）、「野球と相撲」（『文藝春秋』1933〔昭和8〕年2月）、『昭和相撲便覧』（野崎書房 1935〔昭和10〕年5月）などがあるが、野球ものと比べると少ない。

以上、今回の調査で把握できた小泉葵南の仕事を概観してきた。時代としては明治末期から1935〔昭和10〕年までのものに限られているが、その後のことにも以下、触れておきたい。

4. 球団設立の仕事へ

小泉葵南の大きな仕事としては、著述活動のほかに、球団「東京カップス」の設立にかかわったということが挙げられる。「東京カップス」は1945〔昭和20〕年の冬、河野安通志によって立ち上げられた球団であるが、一般のファンには知られることなく、試合もせぬまま幻となったプロ球団である。河野安通志は、早大野球部草創期のエースであり、また、日本プロ野球の創始者だ(11)。河野と親しかった葵南は球団代表を務め、球団立ち上げにかかわっていたようだ。小川勝の著書では河野安通志という人物に迫り、その仕事を丹念に追っている(12)。その中で小泉葵南の名前も何度か挙がっているが、そこに記される内容からは、目立った功績は見つけられない。

だが、小川はインタビューをした河野の長男、通の証言から、「仮に、小泉のほうから近づいて河野がものを頼むようになった、という形だったとしても、当時の河野が、手足となって動いてくれる小泉を、ある程度頼りにしたことは間違いないだろう」としている。河野と葵南のつながりは古くからあった。河野は二十六歳の時『野球界』の創刊第2号に原稿を書き、そのころからの付き合いではないかと小川は推測する。河野自身は高血圧で過激な行動が取れない体であり、河野の手足となって動いたという(13)。河野は『野球ロマンス』などにも名前が登場しており、つき合いの深さがうかがえる。しかし球団が解散してからの葵南の行方は杳として知れない。

葵南は『野球界』を去る年の一月に、「我輩はボールである」という、夏目漱石「吾輩は猫である」のパロディともいえる創作小説を掲載している。作品の冒頭は次の通りだ。

我輩はボールである。なんて云ふといやに堅苦しくもなるし威張つて居るやうにも取られるから、これからは我輩を廃めて俺と呼ぶことにする。だから即ち我輩ではない、俺はボールであるんだ、と云つたつて、そこいらにザラにある出来星の運動具店の店先きで埃だらけの汚いボール箱の中へ、ゴチャゴチャ雑居して居る、一個二十銭だの三十銭だのといふ安物とは少しばかり出来が違ふんだ。と云つたからつて試合に使用はれて居る美満津の一個一円二十銭の物でもない。見かけはこの通り真黒いケチな野郎ぢやあるが、これだつて生れは本場の亜米利加なんだぜ。

『野球界』において久しく創作を書いていた葵南が、同誌を去る年に本作を掲載したことは興味深い。本作はアメリカ出身のタイラス・レイモンド・カップ選手の元にあったボールが、日本人の手に渡り、ボールの視点で見た日本人が描写されていく。ボールはやがて「早稲田のナインと共に東洋へ向つて旅立つ」ていくが、流浪しながら観察眼を光らせ、「我輩」ではなく「俺」と名乗り、自身の出自に誇りを持つ自我の強さは葵南とも重なるものであろう。ボールという選手にとって最も身近な、そして懐に入り込むことのできるアイテムに自身を投影し葵南が描こうとしていたのは、海外から見た日本人選手の立ち位置であり、そこでは常に日本野球の行く末が見据えられている。

今回の調査にあたり、著作物からその人物像に迫っていったが、雑誌などは未確認のものもあり、小泉葵南の周辺の人々による著述についても補完する必要がある。それらの調査については引き続き行っていきたい。

注

- (1) 小泉葵南の本名については横田順彌「近代へんてこりんスポーツ本^{①9}小泉葵南『茶目さんの旅日記』」（『日本古書通信』2015年11月）でも触れられているほか、小泉葵南自身の著作物（『野球茶咄』（博文館 1914〔大正3〕年2月）ほか）の奥付の著者名が「小泉三郎」となっていることからわかる。なお、明治42年に生まれ、昭和45年より日本軟式野球連盟の理事・常務理事や審判技術委員長等を歴任し、平成17年逝去時まで顧問として在籍していた小泉三郎氏とは別人である。
- (2) 横田順彌「近代へんてこりんスポーツ本^{②7}小泉葵南著『野球百物語』」（『日本古書通信』2016年7月）
- (3) 昭和7年12月『実業之世界』に掲載された「『出版界の毒虫小川菊松を葬れ！ 嘘で固めた！ 誠文堂 僕の蒙った被害のかず〜』（『実業之世界』）」の「彼が同じ茨城県の水戸出身（といつても僕は市内である）であるといふことゝ、」「生来飲めない僕は」という発言からわかる。
- (4) 小泉葵南『お相撲さん物語』（泰山房 1918〔大正7〕年1月）
- (5) 佐藤彰宣『スポーツ雑誌のメディア史 ベースボール・マガジン社と大衆教養主義』（勉誠出版 2018年1月）
- (6) 小泉葵南「さらば読者諸君よ」（『野球界』1919〔大正8〕年4月）
- (7) 赤澤祐美、來田享子「横井春野の人物像と女子野球普及活動」（『東海学園大学教育研究紀要』2021年）
- (8) 影山忠弘、小池謙一編著『古今大相撲力士事典』（1989年10月）
- (9) 同上
- (10) 『少年倶楽部』における葵南の仕事については松村良「ゴムボールを手にした子供たち——「少年倶楽部」に見る野球」（疋田雅昭、日高佳紀、日比嘉高編著『スポーツする文学 1920-30年代の文化詩学』青弓社 2009年6月）に詳しい。
- (11) 小川勝『幻の東京カップス』（毎日新聞社 1996年4月）
- (12) 小川勝前掲書
- (13) 小川勝前掲書

※本論執筆にあたっては、公益財団法人野球殿堂博物館図書室、公益財団法人全日本軟式野球連盟、一般社団法人神奈川県野球連盟に大変お世話になった。改めてお礼を申し上げます。

※本研究は JSPS 科研費 21K17990 の助成を受けたものである。

『少年倶楽部』『少女倶楽部』における運動小説をめぐる人々——小泉葵南の仕事

山田昭子

The People of the Sports Novel in "Shonen Club" and "Shojo Club":Koizumi Kinan's Work
Akiko Yamada

研究実績報告

Annual Report of Center for Research and Development of Higher Education, Kanto Gakuin University

杉原 亨

職名 准教授

学位 博士 (ライブラリーサイエンス、九州大学)

1. 教育活動

(1) 本学における担当授業科目

授業科目名	2022年度方針・計画
キャリアデザイン基礎Ⅰ	人生100年時代を踏まえた「ライフキャリア」をデザインする。男女共同参画社会の形成や展開に加えて、パートナーシップ、ロールモデルの必要性を理解することで、男女差だけでない多様性 (ダイバーシティ) の観点を学びます。また、持続可能な世界を実現するための17の開発目標を定めたSDGs (Sustainable Development Goals) の理解を通じて、社会参画を自分ごととして考えていく。 卒業生が社会でどのような体験を重ねているかを知ることで、社会の実情を理解し、自らの目指すべき道を考察する。さらに、社会人で働くために必要な業界・企業研究に取組み、労働に関する法律について学んでいく。このような社会情勢を踏まえて、人生100年時代を踏まえた「ライフキャリア」をデザインしていく。
キャリアデザイン基礎Ⅱ	本科目は、「社会の中の『私』『私たち』を知る」をテーマに、卒業後に社会へ出てから「自分はどうかあるのか?」「どんな働き方をしていきたいのか?」を、現実社会の変化や実情に即した視点で、自分のキャリアをデザインできるようになるための授業科目である。
自校史	本授業では、関東学院大学の歴史や理念に対して教育理解を深めていくことで、各自が将来を見据え大学生活を有意義に過ごすための指針を得ることを目的としている。授業は大学の歴史をコンパクトにまとめた『関東学院大学のあゆみ』で学ぶ。また講義だけでなく学内のフィールドワークや、ポスター作りを通して、主体的に考え、表現する力を養う。
地域創生概論	本授業では、「地方創生」に関する中央政府、自治体、企業、市民などを通じた取組の動向を把握し、今後を展望することにより、地域創生を考える基礎的な知識や態度を身につけることを目指します。この授業では、第3回「SDGs (持続可能な開発目標) の理念、17の開発目標、地域での事例等」を担当。

(2) 本学以外における非常勤講師担当科目

授業科目名	年月 (西暦)	大学・その他教育機関等
情報Ⅱ (データサイエンス)	2022年～現在	帝京科学大学 非常勤講師
職業と人生	2018年～現在	拓殖大学 非常勤講師
キャリアデザイン発展 (体育部)	2019年～現在	拓殖大学 非常勤講師

(3) その他

授業以外の教育活動等	年月 (西暦)	摘要
作成した教科書・教材・参考書		
ディスカッションに活用するワークシートの作成。(論理的文章力育成)	2012年～現在	文献や映像コンテンツを参考に、与えられたテーマ (IT技術はヒトの仕事を奪うか?等) について、ワークシート (意見と根拠を記述) に記入した後、小グループで議論する機会を設けた。これらを通じて、自分の意見を主張し、かつ人の意見を聴く態度を修得させることができた。
文献を活用した読解教材の作成	2012年～現在	論理的な読解、すなわち要約するために、様々な学問分野の文献から、意見と根拠に線を引かせる問題と解説をした教材を作成した。
ループリックの作成と活用 (ミニレポートや社会人インタビューなどの学習評価)	2015年～現在	キャリアデザイン基礎Ⅱで実施した社会人インタビューについて、レポートを評価するために、ループリックを作成し、学習成果の評価の精度を向上させた。
調査研究の基礎 (様々なデータにあたろう)	2018年～現在	養護教諭及び目指す学生向けの研究ガイドとして、共著で「健康を科学する実践研究」を刊行し、そのうち「様々なデータにあたろう」を執筆担当した。
オンライン授業の関する授業手法	2020年～現在	コロナ禍によるオンライン授業の推進を踏まえて、初心者でもわかりやすい授業手法 (manaba、Zoomなど) に関する資料を作成し、学内の教職員へ公開した。
教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
鈴鹿短期大学 入学前準備講座 「大学基礎講座」 講師	2013年3月～2015年3月	短大入学前の学生を対象とした入学前教育プログラム。その中で論理的な文章の書き方や、レポートの書くための文献・資料の調べ方などの講義を行った。

慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボ シンポジウム「就職必須実践力の見える化技術とアジアの若者の人材力急成長」 パネリスト	2013年7月	大学の就職担当の教職員、及び企業採用・人事担当者を対象としたシンポジウム。パネリストとして、採用現場の現状報告及び、就職内定学生とコミュニケーション力との関係についての研究発表などを行った。
学校法人享栄学園SD (Staff Development) 研修会 講師	2013年9月	学校法人享栄学園の職員を対象に実施した研修会。平成24年8月中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」についての講演と、今後の学園についてどのような施策をすべきかについて、ワークショップを行った。
鈴鹿国際大学 初年次教育「プレゼミナール」ゲスト講師	2014年6月	1年生対象の必修科目「プレゼミナール」で、資料や論文の調べ方 (CiNii など) をテーマにして、グループワークを実施した。
第8回 kotoken Coffee Hour 「関東学院大学において望ましいActive Learning は何か?」 講師	2015年6月	アクティブラーニングをテーマにしたワークショップを取り入れた講演を実施し、大学において望ましいアクティブラーニングに関して参加者各自が検討し、発表した。
鈴鹿大学 (旧鈴鹿国際大学) 初年次教育「プレゼミナール」ゲスト講師	2015年11月	1年生対象の必修科目「プレゼミナール」で、キャリア教育に関する授業を実施した。
3大学FD合同懇談会「キャリア教育におけるアクティブ・ラーニング」オーガナイザー	2015年12月	横浜3大学 (神奈川大学・関東学院大学・横浜国立大学) の合同懇親会で、「キャリア教育におけるアクティブ・ラーニング」に関して話題提供とグループワークのとりまとめを行った。
大学IR人材育成カリキュラム 京都集中講習会2016 講師	2016年1月	IR (Institutional Research) の手法の1つである学生調査についての実践と活用事例について講演とワークショップを行った。
第4回大学コンソーシアム石川FD・SD研修会 第1回MJIRワークショップ「大学をどのように測り、評価し、アピールするか」講師	2016年2月	ショートレクチャーとして、「文系学部または文系分野の本当の力」について、様々な調査結果の紹介と考察を行った。
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 FD研修会 講師	2016年2月	「鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の魅力を伝えるデータ・エビデンスの活用法」をテーマに、IRの基礎的概念の講演と、ワークショップを実施した。
ヨコハマFDフォーラム16 学生の学びのモチベーションを高める大学教育 総司会	2016年2月	3大学における「FD活動の連携に関する包括協定」締結後、初めてのイベント「ヨコハマFDフォーラム16」で総司会を務めた。
関東学院大学 新任教職員研修「Active learning の理解と導入」講師	2016年度～2018年度	関東学院大学の新任教員を対象に、アクティブラーニングについて基礎的概念の講演と、アクティブラーニング型の授業を考えるワークショップを実施した。
FMICS 5月例会 「キャリア教育におけるアクティブ・ラーニング」パネリスト	2016年5月	教育に関する研究集会FMICSで、「キャリア教育におけるアクティブ・ラーニング」について話題提供を行った。
2016年度関東学院大学 新任教職員研修「反転授業を活用したActive Learning 実践講座」講師	2016年7月	関東学院大学の新任教員を対象に、反転授業について基礎的概念の講演と、反転授業の活用に関するワークショップを実施した。
関東学院大学 教員免許状更新講習 選択講習「主体的な学習を引き出すアクティブラーニング実践講座」講師	2016年～現在	受講者が自身の担当する授業や教育活動にアクティブラーニングを導入できるようになることを目指し、対象者を全教員・全学校種 (幼・小・中・高・養護・栄養教諭) で、アクティブラーニングの基礎理解と実践に向けたワークショップを行った。
"2016年度 関東学院六浦中学校・高等学校 教員研修会「生徒の主体性をより引き出すアクティブラーニングの導入・実践とその評価」講師"	2016年8月	関東学院六浦中学校・高等学校の全教員を対象とし、アクティブラーニングについて基礎的概念の講演と、アクティブラーニング型の授業を考えるワークショップを実施した。
関東学院大学 経済学部FD研修 カリキュラムマップ作成支援	2016年9月	経済学部のFD研修にて、同僚の奈良講師 (主担当) と共にグループワークによるカリキュラムマップの作成支援を実施した。
2016年度人間環境学部・人間共生学部・栄養学部・教育学部教員研修会 話題提供・ファシリテーター	2016年9月	アセスメントデータやインタビュー調査の結果から新入生の傾向を共有し、ワークショップで教育力向上のための施策を話し合った。調査結果について話題提供を行った。
関東学院大学 新任教職員研修「模擬授業実践講座」講師	2016年度～2018年度	新任教員を対象に、1人15分の模擬授業を実践させ、グループ内でのレビューを行った。
大学・高校実践ソリューションセミナー 2016 東京 講師	2016年11月	関東学院大学ではベネッセグループと「学生の成長支援に向けた共同研究」を実施しており、本セミナーでは特に質的調査から見てきた成長学生の特徴について紹介し、ワークショップを通じて自校の学生の成長支援について振り返る機会を設けた。

シラバスライティング講座（関東学院大学小田原キャンパス）講師	2017年1月	小田原キャンパスにて、教員のシラバス作成支援を目的としてシラバスライティング講座の講習を行った。
2016 AIT（足利工業大学）-FD研修会「アクティブ・ラーニングの体系的導入に向けて」講師	2017年3月	足利工業大学のFD研修会で、「アクティブ・ラーニングの体系的導入に向けて」に向けてワークショップを実施した。
藤沢翔陵高等学校 総合的な学習の時間「アクティブラーニングの学習法」講師	2017年～現在	藤沢翔陵高等学校と出石稔ゼミが、「総合的な学習の時間」でごみ屋敷などをテーマにプロジェクト学習を実施しているが、その一環として講師を担当した。
教育実践力向上セミナー（兼 新任教職員研修会）「データから見た本学学生」講師	2017年度～2018年度	関東学院大学の新任教員を対象に、初年次の教学を中心したデータについて解説し、成長支援を題材としたワークショップを実施した。
外国語教育メディア学会（LET）ワークショップ アクティブラーニングⅡ「アクティブラーニングと授業実践のヒント」講師	2017年7月	外国語教育メディア学会（LET）にて、アクティブラーニングの英語における授業実践のヒントについて講演とワークショップを実施した。
MJIR2017 第6回 大学情報・機関調査研究集会 MJIR-WS1「IR業務を楽しく取り組むためには？～パターン・ランゲージの手法から考える～」講師	2017年8月	IR（Institutional Research）実務者の研究集会で、問題解決手法の1つであるパターンランゲージを活用したワークショップを実施した。
日本アクティブ・ラーニング学会 チャレンジ教育部会第1回研究会「アクティブ・ラーニングの実践と課題」講師	2017年8月	アクティブラーニング学会にて、アクティブラーニングの実践と課題について、講師の経験を踏まえて共有した。
2017年度 関東学院大学 経済学部研修教授会（第一部）話題提供「大学生基礎力レポートのデータに見る経済学部生の現状」-DP・カリキュラムマップ・シラバスの理解・取り組み状況、及び履修選択の考え方に着目して-	2017年9月	経済学部の研修教授会にてカリキュラム改革のワークショップの前に、新入生の現状をDPやカリキュラムマップ、シラバスの理解度や学習の考え方についてをデータで示した。
パターンランゲージ イノベーターズサミット 話題提供	2017年9月	パターンランゲージを活用した実践例について話題提供を行った。
2017年度 第5回教育力実践力向上セミナー（兼 新任教職員研修会）「ICTを活用した授業実践」講師	2017年10月	「Office Mix」や授業支援BOXなどICTを活用した授業改善についてICT活用支援課と連携してワークショップを行った。
ヨコハマFDフォーラム「学生調査の現状と課題—学生の声を基に調査結果の活用について考える—」 話題提供者・パネリスト	2017年12月	学内の学生調査や授業改善アンケートの事例について講演を行った。
第43回 kotoken Coffee Hour「SDGsを活用した教育プログラム」講師	2018年8月	学内の勉強会にて教職員を対象に、「SDGsを活用した教育プログラム」に関するワークショップを行った。
2018年度 第6回教育力実践力向上セミナー（兼 新任教職員研修会）「大人数における効果的な授業運営を考える」事例紹介	2018年11月	大人数における効果的な授業運営について、実践事例を紹介した。
ヨコハマFDフォーラム「アクティブラーニングの理論と実践」基調講演	2018年12月	アクティブラーニングをテーマに、参加者同士でのグループワークを取り入れた基調講演を行った。
町田総合高等学校「アクティブラーニングと学校評価」教員向け講演	2019年2月	教員向けにアクティブラーニングと学校評価について講演を行った。
第8回 大学IR集中講習会「課題と知見の共有から考えるIR業務の発展・改善」（井芹俊太郎・杉原亨）	2019年2月	IR業務の改善を目的としたワークショップを実施した。
関東学院六浦中学校・高等学校 総合的な学習の時間「SDGsを自分ごととして捉える」講師	2019年4月	関東学院六浦中学校・高等学校（中学3年生対象）の総合学習にて、SDGsに関する講義とワークショップを行った。
第41回大学教育学会ポストワークショップA「教学IRと教育改善の接続—指標としての可視化—」（松田岳士、杉原亨）	2019年6月	大学教育学会にて「教学IRと教育改善の接続」をテーマにワークショップを行った。
2019年度 第2回教育力実践力向上セミナー（兼 新任教職員研修会）「着任後の授業実践を振り返る」	2019年9月	半期の授業実践について、授業アンケートや公開授業などを踏まえて振り返り、グループワークを行った。
国際文化学部研修教授会、話題提供「データから見る国際文化学部生の学び——初年次学生の学習意識・行動を中心に——」	2019年9月	アセスメントの結果をサマリーし、国際文化学部生の学びの傾向をつかむと同時に、ワークに向けて、データから議論のヒントを得ることをねらいとした。

藤沢翔陵高等学校 総合的な学習の時間「SDGsを自分ごととして捉えよう!」講師	2019年10月	藤沢翔陵高等学校の総合学習にて、SDGsに関する講義とワークショップを行った。
公開講座「アクティブラーニングで学ぶSDGs(持続可能な開発目標)」	2019年10月	公開講座で、SDGsに関して基礎知識や自治体、企業、境域機関における実践例についての講義を行い、参加者同士のグループワークで理解を深めるようにした。
東京工業大学社会人アカデミー「Institutional Reseach論」教学IR事例・学生調査 担当講師	2019年度～現在	東京工業大学社会人アカデミー 連続講座「Institutional Reseach論」にて、教学IRにおける学生調査の講義を担当した。
教学マネジメント学習会 講師	2020年1月	首都圏の主要私立大学関係者が集う学習会で、「ディプロマ・サプリメント」について講演を行った。
帝京平成大学 第2回FD/SD研修会「教育の質保証とディプロマサプリメント」講師	2020年3月	近年の教育の質保証に関する動向とディプロマサプリメントに関して講演を行った。
関東学院大学法学部研修教授会「新しい生活様式のなかでの大学授業のあり方 - オンライン授業の手法について -」講師	2020年9月	オンライン (Zoom) にて、オンライン授業の基礎知識と、オンラインホワイトボードMiro (ミロ) を活用したワークを行った。
ヨコハマFDフォーラム (第6回)「横浜4大学におけるオンライン授業の実施状況・課題・展望」パネリスト	2020年12月	オンライン (Zoom) にて、「本学におけるコロナ禍のオンライン授業と授業支援について」発表を行った。
2021年度 関東学院大学国際文化学部・社会学部 非常勤講師懇談会 講師 (オンライン授業に関して)	2021年3月	オンライン (Zoom) にて、manabaやZoom、オンラインホワイトボード Google Jamboardに関して講習を行った。
2020年度 関東学院大学理工学部春期研修会【第二部】FD講習会「これまでのICTの経験を活かした対面授業の取り組み」講師	2021年3月	ICTの経験を活かした対面授業の取り組みに関して講習を行った。事例としてresponなどを取り上げた。
関東学院大学「基礎からのICT講習会」講師	2021年4月	オンライン (Zoom) にて、manabaやZoom、Google jamboardに関する基本的な活用方法を講習した。
関東学院大学「manaba小テスト自動採点機能講習会」講師	2021年5月	オンライン (Zoom) にて、manaba小テスト自動採点機能について講習を行った。
芝浦工業大学「教育成果を可視化するための統計手法入門」ワークショップ担当	2021年6月	オンライン (Zoom) にて、オンラインホワイトボードMiroを活用したワークショップを担当した。
2021年度 関東学院大学全学教員研修会「オンライン授業をどうする?」講師	2021年9月	ハイブリット形式で、オンライン授業に関して学内事例も示して講習を行った。
2021年度 第1回教育力実践力向上セミナー(兼 新任教職員研修会)「着任後の授業実践を振り返る」	2021年9月	半期の授業実践について、授業アンケートや公開授業などを踏まえて振り返り、グループワークを行った。(2022年度も同様に実施)
関東学院大学地域創生実践シンポジウム2021 脱炭素社会と地域創生 総合企画・司会担当	2021年10月	地域創生実践研究所が主催する地域創生実践シンポジウム2021「脱炭素社会と地域創生」の総合企画、司会を担当した。
横須賀市市民大学前期講座 Withコロナ時代の「地方創生」第5回「コロナ禍のSDGsの在り方」担当	2021年7月	横須賀市市民大学前期講座 Withコロナ時代の「地方創生」で第5回「コロナ禍のSDGsの在り方」を担当
2021年度 関東学院大学職業実践力育成プログラム (BP) 地域創生実践論「地域創生とSDGs」担当	2021年12月	関東学院大学職業実践力育成プログラム (BP) 地域創生実践論で「地域創生とSDGs」で講義を行った。
横須賀市議会 情報モラル研修 講師	2021年2月	横須賀市議会にて市議会議員を対象に「情報モラル」について講演を行った。
2022年度 関東学院大学 国際文化学部・社会学部 非常勤講師懇談会「学習支援システムmanaba活用説明会」講師	2022年3月	学習支援システムmanabaやZoom、オンラインホワイトボード Google Jamboardの活用法について講習を行った。
第2回「IRよろず相談：錚々たるIRerの皆さんとあれこれ議論しようの会」講師	2022年7月	IRに関する業務や研究について話題提供を行った。
その他教育活動上特記すべき事項		
専門社会調査士 (第002551号)	2019年10月	データサイエンス教育にあたっての基礎的知識・手法の修得

2. 研究活動

研究テーマ	研究概要	2021年度方針・計画
データサイエンス教育に関する研究	データサイエンス教育に関する実践や検証を行う。	データサイエンス教育に関する理論の整理と、実践した教育手法に関してデータを基に分析する。
オンライン教育に関する研究	オンライン教育に関する実践や検証を行う。	オンライン教育に関する理論の整理と、実践した教育手法に関してデータを基に分析する。
教育の質保証に関わる実践的研究	高等教育における教育の質保証、とりわけ「学修成果の可視化」に関わる調査を行う。	教育の質保証、特に「学修成果の可視化」に関して、国内外の研究動向や実践事例を調査し、本学の教育の質向上に寄与する形を提案する。
SDGsに関する教育プログラムの開発と実践	SDGsに関する教育プログラムを大学及び中学・高校と連携して開発する。	生徒・学生に対して社会課題に対しての意識や行動を向上させるために、SDGs（持続可能な開発目標）に関する教育プログラムを開発し、検証を行う。
クラシック音楽の演奏に関する教育実践と効果検証	クラシック音楽の演奏に関するアクティブラーニングの実践と検証を行う。	クラシック音楽の演奏に関するアクティブラーニングの教育プログラムを、プロの音楽家と開発し検証を行う。オンライン教育に関して実証を行う。

2013年度以降に発表した著書・論文等

著書・学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ）	該当頁
(博士論文)					
学生の多様化に対応した学生調査に関する研究	単著	2020年3月	九州大学		
(著書)					
生活コミュニケーション学を学ぶ（執筆担当「地方短期大学のキャリア教育、及び進路支援に関する一考察 ～鈴鹿短期大学の事例より～」）	共著	2014年2月	あるむ	編者：川又俊則、久保さつき。著者：川又俊則、久保さつき、杉原亨、他16名	59-75頁
大学IRスタンダード指標集 教育の質保証から財務まで	共著	2017年3月	玉川大学出版社	著者：関東地区IR研究会 監修、松田岳士、森雅生、相生芳晴、姉川恭子 編著、著者、松田岳士、杉原亨他18名	第1部第1章「教育の質保証」46-51頁、第3章「エンロールメント・マネジメント」124-127頁、138-141頁
健康を科学する実践研究 ―読めばできる養護教諭の研究ガイド―	共著	2018年10月	大学教育出版	編者：大野泰子、川又俊則。著者：大野泰子、川又俊則、杉原亨、他18名	第Ⅱ部第3章、32-46頁
地域創生入門―地域創生を実現するために押さえておくべき基本事項	共著	2021年11月	第一法規	出石稔、牧瀬稔、杉原亨、津軽石昭彦、廣川聡美、江崎澄孝、小澤光男、木村乃、籠谷和弘	第3章SDGsと地域創生、47-71頁
大学IR標準ガイドブック インスティテューショナル・リサーチのノウハウと実践	共著	2022年5月	インプレスR&D	相生芳晴、井芹俊太郎、今井匠太郎、大石哲也、岡田佐織、近藤伸彦、杉原亨、田尻慎太郎、塚本浩太、椿本弥生、西山慶太、松田岳士、森雅生	7.2 IR活動の推進、239-247頁
(学術論文)					
鈴鹿短期大学卒業生調査からの分析と考察―3つの視点より―	単著	2013年8月	生活コミュニケーション学第4号、鈴鹿短期大学生活コミュニケーション学研究所年報		13-23頁

学生の主体的参加を高める短期大学入学準備プログラムの開発	共著	2014年3月	鈴鹿短期大学紀要34巻	渋谷郁子、岩田昌子、杉原亨、石川拓次、前澤いすず	19-30頁
地方私立大学における、入試形式別での学習動機と大学進学動機に関する一考察	単著	2014年7月	関西教育学会年報38巻		186-190頁
学習における消費者意識及び行動に関する一考察 -マーケティングの視点より-	単著	2014年8月	生活コミュニケーション学 第5号、鈴鹿短期大学生活コミュニケーション学研究年報		1-11頁
短大入学生における生活習慣および身体症状と自尊感情および学習に対する印象の関連	共著	2015年3月	鈴鹿短期大学紀要35巻	石川拓次、渋谷郁子、前澤いすず、杉原亨、岩田昌子、松本亜香里	85-95頁
大学生の多文化共生志向に関する一考察	単著	2015年3月	鈴鹿国際大学紀要 No.21.2014		27-39頁
国際系地方大学における多文化共生志向について-学生調査からの分析と考察-	単著	2015年7月	第4回大学情報・機関調査研究集会 論文集		52-57頁
入試形式別における大学生のコンピテンスに関する一考察 -地方国際系大学の事例より-	単著	2015年8月	関西教育学会年報39巻		91-95頁
地方短期大学生のコミュニティ意識に関する一考察 -卒業生調査からの分析-	単著	2015年9月	生活コミュニケーション学 第6号、鈴鹿短期大学生活コミュニケーション学研究年報		9-20頁
体育会学生の学習動機とキャリア観及び将来展望に関する一考察	共著	2015年10月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第1号	杉原亨、奈良堂史	19-29頁
A study on the survey for actual condition of local junior college graduates in Japan (査読論文)	単著	2016年4月	Information Engineering Express International Journal Volume2,Number1		33-43頁
初年次キャリアデザイン科目におけるアセスメントの実施と活用	単著	2016年7月	第5回大学情報・機関調査研究集会 論文集		86-90頁
体育会学生の学習意識・行動や協調的問題解決力に関する考察-カリキュラム開発に向けて-	共著	2016年10月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第2号	杉原亨、奈良堂史	19-29頁
高等教育の質保証に関する枠組み及び政策的動向への視点	単著	2017年10月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第3号		17-24頁
女子学生の理想のライフコースと進路選択に対する自己効力の変化~青山学院女子短期大学のキャリア科目におけるアンケート調査から~	共著	2017年12月	青山学院女子短期大学紀要第七十一輯	宇田美江、奈良堂史、杉原亨	61-77頁
Extraction of the Characteristic Attributes of Student Athletes using a Questionnaire using the Support Vector Machine (査読論文)	共著	2018年5月	International Journal of Institutional Research and Management 2018, Vol.2, No.1	Toru Sugihara, Soichiro Aihara, Sachio Hirokawa, Takashi Nara	35-48頁
入学までに形成された学習観が専門職養成系短期大学への適応に与える影響 (査読論文)	共著	2018年7月	リメディア教育研究第12巻 (2018)	渋谷郁子、岩田昌子、前澤いすず、石川拓次、杉原亨	19-25頁
学生の成長プロセスを可視化する発展的研究-初年次キャリア教育科目の記録分析及び総まとめプログラムの開発	共著	2019年3月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第4号	杉原亨、岡田佐織、友滝歩、奈良堂史、佐藤昭宏、松尾洋希、田上慧子	48-76頁
SDGs達成へ向けた地域創生に関する教育プログラムの実践 -関東学院六浦中学校・高等学校における総合学習の事例-	共著	2019年12月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第5号	杉原亨、出石稔、木村乃、牧瀬稔	14-24頁

オンライン授業におけるSDGs(持続可能な開発目標)に関する大学生の意見分析ーオンラインホワイトボード(Miro)を活用した双方向授業の実践ー	単著	2020年11月	第9回 大学情報・機関調査研究会 論文集		180-185頁
統計データで見るMJIR	共著	2020年11月	第9回 大学情報・機関調査研究会 論文集	大石哲也、杉森公一、杉原亨、石井雅章、森雅生	10-15頁
SDGs及び地域創生に関して大学連携した生涯学習の実践 - 横須賀市市民大学講座の事例 -	単著	2021年11月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第7号		5-17頁
自校史授業の実践と報告 一次年度以降のSDGsへの視点を含めてー	共著	2022年3月	関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会「科学/人間」第51巻	山田昭子、杉原亨	239-259頁
気候変動対策及び脱炭素社会に対する大学生の意識行動に関する分析	単著	2022年3月	関東学院大学理工学部建築・環境学部教養学会「科学/人間」第51巻		203-221頁
RESAS(地域経済分析システム)及びe-Stat(政府統計)を活用した社会人向けオンライン公開講座「データサイエンス」における実践	単著	2022年7月	関東学院大学 KGU 教職課程ジャーナル、Vol.19		28-35頁
(その他)					
(学会発表) 地方短期大学における学生の主体的参加を高める入学準備プログラムの開発	共著	2013年8月	日本リメディアル教育学会 第9回全国大会	渋谷郁子、杉原亨、石川拓次、前澤いすず、岩田昌子	104-105頁
(学会発表) 就職内定獲得学生のモデル化とコミュニケーション力の比較(試論)	共著	2013年9月	日本教育工学会第29回大会	杉原亨、大島禎、梅嶋真樹	553-554頁
(学会発表) 入試形式別における学習動機と大学進学動機に関する一考察 一般入試と推薦AO入試における比較	単著	2013年11月	関西教育学会第65回大会		50頁
(学会発表) 学習における消費者意識と学習成績との関係性についてー地方短期大学の卒業生調査より	単著	2014年5月	大学教育学会第36回大会		262-263頁
(学会発表) 短期大学入学者における生活習慣が学習観および進学動機に及ぼす影響	共著	2014年9月	日本教育工学会第30回大会	石川拓次、渋谷郁子、前澤いすず、杉原亨、岩田昌子、松本亜香里	727-728頁
(学会発表) 大学生の多文化共生志向に関する一考察	単著	2014年9月	日本社会教育学会第61回研究大会		113頁
(学会発表) 入試形式別における大学生の資質能力に関する一考察 ー地方国際系大学の事例よりー	単著	2014年11月	関西教育学会第66回大会		35頁
(学会発表) 地方短期大学生のコミュニティ意識についてー卒業生調査からの分析よりー	単著	2015年6月	大学教育学会第37回大会		176-177頁
(国際会議 Proceedings) Examining the result of a survey conducted from five viewpoints with Junior College graduates	単著	2015年7月	2015 IIAI 4th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2015		50頁
(学会発表) 短期大学入学前に行う準備講座の有効性についての検討(一仲間づくり・主体性を高めるプログラムの有効性を中心に)	共著	2015年8月	日本リメディアル教育学会 第11回全国大会	石川拓次、渋谷郁子、前澤いすず、杉原亨、岩田昌子	96-97頁

(学会発表) 体育会学生のキャリア観と将来展望に関する一考察	共著	2015年9月	日本教育工学会第31回大会	杉原亨、奈良堂史	103-104頁
(学会発表) 音楽による教育活動や社会貢献を試みる「kyoumei」の設立	共著	2015年9月	日本教育工学会第31回大会	杉原亨、柴田ゆき、柴田元広	317-318頁
(実践報告) 学院改革推進5カ年計画支援事業、自校史授業開講に向けて1	共著	2015年10月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第1号	山田昭子、杉原亨、千葉隆行	31-35頁
(学会発表) 大学生の多文化共生志向と学習動機及びコンピテンスとの関係性	単著	2015年11月	関西教育学会第67回大会		27頁
(学会発表) 体育会学生の学習動機とキャリア形成に関する調査研究—支援プログラムの開発を目指して—	共著	2015年12月	日本スポーツマネジメント学会第8回大会号	奈良堂史、杉原亨	48頁
(ラウンドテーブル：企画者、報告者) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅷ	共著	2016年5月	大学教育学会第38回大会	高橋真義、中村拓昭、十河功一、菊池勇次、郷原正好、杉原亨、田尻慎太郎、米田敬子	46-47頁
(書評) 編者：中井俊樹「シリーズ 大学の教授法3 アクティブラーニング」	単著	2016年5月	大学教育学会誌第38巻第1号		183-185頁
(雑誌記事) 連載 大学IRの今第11回 地方短期大学におけるIR～卒業生調査の実践より～	単著	2016年6月	文部科学通信教育 No.391 2016 7月11日号		28-29頁
(国際会議Proceedings) A study on the survey for consumer awareness and behaviors of local junior college graduates in Japan	単著	2016年7月	2016 IIAI 5th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2016		1200-1204頁
(実践報告) 自校史授業開講へ向けて2	共著	2016年10月	関東学院大学高等教育・研究開発センター年報第2号	山田昭子、杉原亨、千葉隆行	23-30頁
(口頭発表) クラシック音楽の演奏に関するルーブリックの作成	単著	2016年12月	関西教育学会第68回発表要旨集録		27頁
(ラウンドテーブル) 学生の成長を可視化し、教育の質保証へつなげるために必要なこと	共著	2017年3月	第23回 大学教育研究フォーラム発表論文集	企画者：岡田佐織、佐藤昭宏 話題提供者：杉原亨、志村知美、岡田佐織 指定討論者：池田輝政、奈良堂史、木村治生	448-449頁
(口頭発表) 初年次学生における成長要因の可視化に関する研究—多面的な分析手法を通じて	共著	2017年3月	第23回 大学教育研究フォーラム発表論文集	杉原亨、岡田佐織、奈良堂史、佐藤昭宏、山田昭子、松尾洋希、影山裕介	346-347頁
(共同研究報告書) 学生の成長プロセスを可視化する実践的研究—成長軌道に乗せる「仕掛け」の多い教育を目指して—	共著	2017年3月	関東学院大学、(株)ベネッセホールディングス、(株)ベネッセ—キャリア		
(ラウンドテーブル) チャレンジ教育部会「学ぶ責任、教える責任」パネリスト	共著	2017年3月	日本アクティブ・ラーニング学会第1回全国大会		
(自校史テキスト) 関東学院大学のあゆみ	共著	2017年3月	関東学院大学	編集チーム：奥聡一郎、山田昭子、千葉隆行、杉原亨、淡路治子	

(ラウンドテーブル) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 IX - 「主体的・対話的で深い学び」 を見える化する-	共著	2017年6月	大学教育学会第39回大 会 発表要旨集録	企画者：高橋真義、 中村拓昭、十河功一、 菊池勇次、郷原正好、 杉原亨、田尻慎太郎、 米田敬子	38-39頁
(口頭発表) 質問紙調査の記録分析による体育会学 生の実態把握 - テキストマイニング の手法を用いて-	共著	2017年6月	記録管理学会2017年研究 大会予稿集	杉原亨、相原総一郎、 野口和久、廣川佐千 男、奈良堂史	25-28頁
(国際会議Proceedings) An Anysis of Characteristics of Student - Athletes from Questionnaire by SVM	共著	2017年7月	2017 IIAI 6th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2017	Toru Sugihara, Soichiro Aihara, Sachio Hirokawa, Takashi Nara	163-166頁
(実践報告) 自校史授業開講へ向けて3	共著	2017年10月	関東学院大学高等教育・ 研究開発センター年報第 3号	山田昭子、杉原亨、 千葉隆行、淡路治子	25-28頁
(口頭発表) 顔検出技術を活用した授業撮影による 受講者の学習意欲・興味の可視化に関 する研究	共著	2017年10月	第24回日本教育メディア 学会年次大会	奈良堂史、杉原亨、 小山巖也、林昌宏、 木村剛美、藤本敏浩、 宮田和幸	
(ラウンドテーブル報告) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 IX - 「主体的・対話的で深い学び」を 見える化する	共著	2017年11月	大学教育学会誌、第39巻 第2号	高橋真義、中村拓昭、 十河功一、菊池勇次、 郷原正好、杉原亨、 田尻慎太郎、米田敬 子	115-118頁
(口頭発表) 高大協働による地域の課題解決に向け たプロジェクト学習の試み	共著	2018年3月	日本アクティブ・ラーニ ング学会 第2回全国大 会	杉原亨、出石稔、山 本富士雄、橋本哲也	
(口頭発表) ディプロマ・ポリシーと学長・学部長 訓示に見る教育の質保証—地域に着目 した分析—	共著	2018年3月	第24回 大学教育研究 フォーラム発表論文集	小柏香穂理、杉原亨、 金川久美子、北中佑 樹、野口和久、相原 総一郎、森雅生、廣 川左千男	187頁
(口頭発表) 顔検出技術による受講者の学習意欲・ 興味の可視化に関する試み—大人教授 業の質向上と効果的なFD活動の探求—	共著	2018年3月	第24回 大学教育研究 フォーラム発表論文集	奈良堂史、杉原亨、 小山巖也、林昌宏、 木村剛美、藤本敏浩、 宮田和幸	198頁
(ラウンドテーブル) 学生の成長を可視化し、教育の質保証 へつなげるために必要なこと	共著	2018年3月	第24回 大学教育研究 フォーラム発表論文集	企画者：岡田佐織 話題提供者：塩崎俊彦、 松本留奈、志村知美、 木村治生、杉原亨、 奈良堂史、友滝歩	234頁
(ラウンドテーブル) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 X - 「主体的・対話的で深い学び」 を深めるために-	共著	2018年6月	大学教育学会第40回大 会	企画者：高橋真義、 橋本勝、中村拓昭、 十河功一、菊池勇次、 郷原正好、杉原亨、 米田敬子	
(国際会議Proceedings) Quality Assurance in Education Through the Diploma Policy and President's Message An Analysis Focused on Local Community	共著	2018年7月	2018 IIAI 7th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2018	Kahori Ogashiwa, Toru Sugihara, Kumiko Kanekawa, Yuki Kitanaka など 計8名	964-965頁
(国際会議Proceedings) Analysis of Institutional Research in Japan using a Pattern Language Workshop	共著	2018年7月	2018 IIAI 7th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2018	Toru Sugihara, Takuya Honda	493-496頁
(事例集) 関東学院大学版「授業実践事例集」	共著	2018年9月	関東学院大学 高等教育 研究・開発センター	奥聡一郎、杉原亨、 奈良堂史など計13名	16-17頁

(ラウンドテーブル報告) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 X－「主体的・対話的で深い学び」を 深めるために－	共著	2019年1月	大学教育学会誌、第40巻 第2号	高橋真義、橋本勝、 菊池勇次、郷原正好、 杉原亨、中村拓昭、 十河功一、米田敬子	76-79頁
(口頭発表) SDGsに関する高校生向け教育プログラムの開発	共著	2019年3月	日本アクティブ・ラーニ ング学会 第3回全国大 会	杉原亨、本田卓也、 望月翔太	
(ラウンドテーブル) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 XI－しっかり「学べる」大学、学び を「活かせる」人材育成－	共著	2019年6月	大学教育学会第41回大会	企画者：高橋真義、 橋本勝、菊池勇次、 郷原正好、杉原亨、 中村拓昭、十河功一、 柳生修二、米田敬子	
(口頭発表) 機械学習のための区間属性の提案	共著	2019年9月	第18回情報科学技術 フォーラム	廣川佐千男、杉原亨	
(口頭発表) 検定とp値に代わる2群比較のための区 間属性によるベクトル化と機械学習	共著	2019年12月	第24回情報・統計科学 シンポジウム	廣川佐千男、杉原亨	
(ラウンドテーブル報告) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 XI－しっかりと「学べる」大学、学びを「生 かせる」人材育成	共著	2020年1月	大学教育学会誌、第41巻 第2号	高橋真義、橋本勝、 菊池勇次、柳生修二、 郷原正好、杉原亨、 石田康行、青木康、 米田敬子	
(口頭発表) SDGsに関わる大学生向け教育プログラ ムの開発及び授業実践	単著	2020年3月	第26回大学教育研究 フォーラム発表論文集		
(口頭発表) 関東学院大における論文指導ルーブリッ クの開発と組織的展開－文学・工学・ 看護学分野の実践から得られた成果と 課題－	共著	2020年3月	第26回大学教育研究 フォーラム発表論文集	奈良堂史、杉原亨、 滝口宜明	
(ラウンドテーブル) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 VIII－楽しく対話すれば学生はどう成長 する？－	共著	2020年6月	大学教育学会第42回大会	高橋真義、橋本勝、 杉原亨、中村拓昭、 十河功一、菊池勇次、 郷原正好、柳生修二、 米田敬子	
(ラウンドテーブル報告) 学生の目を輝かせる大学教育の可能性 XII－楽しく対話すれば学生はどう成長 する？－	共著	2021年1月	大学教育学会誌、第42巻 第2号	高橋真義、橋本勝、 杉原亨、中村拓昭、 十河功一、菊池勇次、 郷原正好、柳生修二、 米田敬子	59-63頁
(国際会議Proceedings) Analysis of university students' awareness and opinions on the SDGs— From interactive lessons using the online whiteboard (Miro)	単著	2021年7月	2021 IIAI 10th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2021		207-212頁
(口頭発表) 大学の中期計画に共通する成功事例の 特徴－私立大学の公的文書を対象とし た事例研究－	共著	2021年8月	日本教育情報学会 第37 回年会	小柏香穂理、金川久 美子、杉原亨、相原 総一郎、森雅生	
(国際会議Proceedings) A Preliminary Study on the Medium－ term Plan of Public Universities Transferred from Private Universities	共著	2021年12月	IIAI AAI 2021 Winter Congress on Advanced Applied Informatics	Soichiro Aihara,Toru Sugihara,Kahori Ogashiwa,Kumiko Kanekawa,Masao Mori,Sachio Hirokawa	230-239頁
(国際会議Proceedings) Text Analysis to the Preambles of the 4th Medium－term Goals/Plans of National University Corporations	共著	2022年7月	2022 IIAI 11th International Congress on Advanced Applied Informatics IIAI-AAI 2022	S o i c h i r o A i h a r a , K a h o r i O g a s h i w a , M a s a o M o r i , S a c h i o H i r o k a w a , K u m i k o K a n e k a w a , T o r u S u g i h a r a	

3. 社会活動等

テーマ	概要
大学教育学会誌編集委員 (2018年6月～現在)	大学教育学会誌の編集委員として、編集会議への参加及び論文のレビュー等を行った。
日本アクティブ・ラーニング学会理事 (2018年12月～現在)	日本アクティブ・ラーニング学会の理事として、運営を担当した。
日本アクティブ・ラーニング学会誌編集委員 (2018年10月～現在)	日本アクティブ・ラーニング学会誌の編集委員として、編集会議への参加及び論文のレビュー等を行った。
日本インスティテューショナル・リサーチ協会 理事 (2022年4月～現在)	日本インスティテューショナル・リサーチの理事として、運営を担当した。
大学情報・機関調査研究集会 (MJIR. Meeting on Japanese Institutional Research) 運営幹事 (2016年～現在、主幹事は2016年～2017年)	大学情報・機関調査の事例紹介や研究発表を通じて、日本における機関調査を推進し、高等教育のみならず経営学や統計学、情報科学など、関連する分野の研究者や実務家、および大学の現場で活躍する教育者の方々を対象とした人的交流の促進とネットワーク形成を行っている。
DSIR プログラム委員会委員 program committee (paper reviewer) (2016年～現在)	国際会議 DSIR (Data Science and Institutional Research) のプログラム委員として paper review を行った。
横浜市内4大学におけるFD活動に関する大学間連携 (2016年～現在)	横浜市内に立地する4大学 (横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川大学、関東学院大学) の大学教育センター等の組織が連携して、「FD活動合同連絡会議」や各種セミナー等を開催・共催している。
神奈川県ライフキャリア教育検討委員 (2016年)	神奈川県が主催する若年層を対象としたライフキャリアに関して、特にアクティブラーニングを導入した教育内容に関する情報提供と議論を行った。
音楽による教育活動や社会貢献を軸に活動する任意団体「kyoumei」首席研究員 (2016年～現在)	2015年3月に設立した、音楽による教育活動や社会貢献を軸に活動する任意団体「kyoumei (きょうめい)」へ、教育施策、事業運営に関する調査研究を実施している。

4. 管理運営等

名称等	期間 (西暦)
教学マネジメント委員会 委員	2018年4月～現在
高等教育研究・開発センター員会議センター員	2015年10月～現在
高等教育研究・開発センターFD推進部会部長	2015年4月～2019年3月

富田 茂美

職名 准教授
学位 博士(神学)

1. 教育活動

(1) 本学における担当授業科目

授業科目名	2022年度方針・計画
キリスト教と現代社会 (B)	現代社会に横たわる主な倫理的諸問題について、キリスト教の基本的な人間観、世界観、自然観、倫理観から観察、理解、評価する。また、個人的見解を展開、発展させる。
キリスト教学 [土木]	聖書、特に新約聖書におけるイエスキリストの生き方、教えを学ぶことの中から、現代に生きる我々の行動指針を見つけ出すこと。
キリスト教学 [電気・スポーツ]	聖書、特に新約聖書におけるイエスキリストの生き方、教えを学ぶことの中から、現代に生きる我々の行動指針を見つけ出すこと。
キリスト教学 (技術者としての倫理) [電気・スポーツ]	現代社会に横たわる主な倫理的諸問題の問題性、課題、留意点、解決方法等についてキリスト教の基本的な人間観、世界観、自然観、倫理観から観察、理解、評価する。また、個人的見解を展開、発展させる。
キリスト教学 (技術者としての倫理) [土木]	現代社会に横たわる主な倫理的諸問題の問題性、課題、留意点、解決方法等についてキリスト教の基本的な人間観、世界観、自然観、倫理観から観察、理解、評価する。また、個人的見解を展開、発展させる。
キリスト教学 (B)	聖書、特に新約聖書におけるイエスキリストの生き方、教えを学ぶことの中から、現代に生きる我々の行動指針を見つけ出すこと。
自校史と建学の精神 [国際文化]	「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ」の第2回と第3回を担当。
自校史と建学の精神 [人間共生、栄養]	「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ」の第2回と第3回を担当。
女子教育の歴史	「自校史」の第11回を担当。

(2) その他

授業以外の教育活動等	年月 (西暦)	摘要
作成した教科書・教材・参考書		
アーツ英会話クラス 教材	2013年5月－2015年3月	幼児から成人のための英会話教材作成
関東学院小学校 5-6年生聖書科 教材	2014年4月－2015年3月	小学校 5-6年生聖書科用教材作成
関東学院六浦小学校 オリーブキッズ (課外英会話クラス) 教材	2014年4月－2014年7月	小学校1、2、5、6年生課外英会話クラス教材作成
関東学院六浦こども園「英語で遊ぼう」クラス 教材	2014年4月－2014年7月	園児英会話クラス教材作成
第4回KGU高等教育セミナー「外国語による教授法セミナー (入門編)」教材、資料	2015年 8月	セミナー用資料作成
ACTS Seminarie 講義 教材	2013年5月－2013年8月	オンライン授業用教材作成
関東学院小学校 父兄聖書クラス 教材	2014年5月－現在	聖書クラス教材作成

教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
第4回KGU高等教育セミナー「外国語による教授法セミナー (入門編)」講師	2015年 8月	外国語による教授方法について学内教師及び職員に解説

その他教育活動上特記すべき事項		
McMaster Divinity College ゲスト講義	2011年－2012年	講義名：Interdisciplinary Seminar, Women in Christian History, 及び Systematic Theology
Wilfrid Laurier University ゲスト講義	2011年3月	講義名：Interdisciplinary Survey on Environmental Issues
Trinity Western University ゲスト講義	2012年9月	講義名：Principles of Biology, 及び Introduction to Biology-Ecology and Biodiversity
アーツ英会話クラス講師	2013年5月－2015年3月	幼児から成人の英会話を指導
関東学院小学校 5-6年生聖書科講師	2014年4月－2015年3月	聖書科を担当
関東学院小学校 チャペル講話	2014年4月－2015年3月	チャペル (月2回程度) と特別礼拝の講和を担当 (年4回程度)
関東学院六浦小学校 オリーブキッズ (課外英会話クラス) 講師	2014年4月－2014年7月	小学校1、2、5、6年生課外英会話クラス担当
関東学院六浦こども園「英語で遊ぼう」クラス講師	2014年4月－2014年7月	3クラスの園児「英語で遊ぼう」担当

関東学院六浦こども園 チャペル講話	2014年4月－現在	チャペルの講和（随時）
関東学院小学校 父兄聖書クラス講師	2014年5月－現在	聖書クラス担当（月1回）
ACTS Seminaries 非常勤講師	2013年5月－8月	講義科目：Women in Christian History

2. 研究活動

研究テーマ	研究概要	2022年度方針・計画
キリスト教教育	関東学院小学校 父母聖書クラス講師（1回/月）	講義内容の充実、参加者との交流を図る。
キリスト教教育・宣教活動	関東学院大学 チャペル講話	春学期、秋学期に3キャンパスにおいてチャペルでの講話を行う。
キリスト教教育	関東学院・大学出版物への執筆	『告知版』、『いんまぬえる』等の出版物への執筆。
キリスト教教育	「シグマ」（関東学院大学生サークル）顧問	月例会参加、活動への随時協力。
キリスト教教育・宣教活動	「かんらん」（関東学院大学生の聖書学習会）顧問	夏季合宿、月例食事会、聖書の学び。
キリスト教教育	C-ランチ：学生と聖書について等語り合う時間	新型コロナウイルス感染の拡大がない場合は再開する。
女性の役割に関する神学	キリスト教の「男女の役割」とその聖書解釈法についての研究を継続する。	<i>Interpretation: A Journal of Bible and Theology</i> に応募。

2015年度以降に発表した著書・論文等

著書・学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ）	該当頁
(著書)					
『関東学院聖書科整備への手引き』	共著	2017年 10月	関東学院大学出版会	関東学院両小学校・両中学校聖書科整備検討委員会編	pp52-58, 67-68, 78-79, 88-89
(学術論文)					
「聖書を学ぶ意味：人間として成長すること」ということ	単著	2016年5月 vol. 368	『告知版』		pp.2-3
「男女の役割と創造物語—理性（reason）により墮落前の状態を理解することについて—」	単著	2020年3月 no. 49	『科学/人間』		pp.107-121
「創造物語の読み方とジェンダーロール」	単著	2020年1月 no.5	『高等教育研究・開発センター年報』		pp.26-45
「アダムとエバの召命：スタート地点かゴールか」	単著	2023年1月 no.8	『高等教育研究・開発センター年報』		pp.37-54
(研究ノート)					
「心の動く学びの会：効果的な聖書講座法を求めて」	単著	2019年3月 no. 17	『キリスト教と文化』		pp.43-49
(書評)					
来住英俊『キリスト教は役に立つか』	単著	2017年 11月 no.3	『高等教育研究・開発センター年報』		pp.31-33
『小さな地球の大きな世界』	単著	2020年 12月 no.6	『高等教育研究・開発センター年報』		pp.17-20
(報告レポート)					
「Training of Conflict Transformation Trainers (TCTT) 報告レポート」	単著	2018年 12月 no.4	『高等教育研究・開発センター年報』		pp.87-91
(学会発表)					
“Gender Roles and the Use of Reason to Obtain Knowledge of Conditions before the Fall”	単独発表	2017年 3月 17日	American Academy of Religion, Western Region		
(セミナー共催・発表)					
“Women in Ministry”	共催・共同発表	2017年 9月 27日	Asia Pacific Baptists Congress		

「いのちを考える —『神のかたち』より」	単独発表	2016年5月16日	キリスト教公開講座
「キリスト教が現代社会に果たした役割」	単独発表	2017年5月13日	キリスト教公開講座
「宗教改革は女性にとって有益だったか」	単独発表	2017年10月17日	キリスト教公開講座
「神と出会った人：Elizabeth C. Stantonが理解した神と女性」	単独発表	2018年11月9日	キリスト教公開講座
「やさしいキリスト教学」 (キリスト教学内出版物)	単独発表	2022年10月－11月	キリスト教公開講座
『いんまぬえる』	共著	2014年－現在	関東学院
『告知版』	共著	2014年－現在	関東学院大学宗教主事会議
『IMPRESSIONS』	共著	2015年－現在	関東学院大学宗教教育センター

3. 社会活動等

テーマ	概要
地域貢献 ア	ヴァンクーバー ミャンマー バプテスト教会 牧師 (ヴァンクーバー、カナダ) (2003－2006, 2012)
大学教会連携 ウ	アメリカンバプテスト インターナショナルミニストリーズ 協力宣教師 (2014-現在)
地域貢献・連携 ア	キリスト教公開講座 講師 (横浜市関内メディアセンター) (2016-現在)

※テーマ記載にあたって、ア.地域貢献・連携 イ.産官学連携 ウ.大学間連携等に関する事項については、ア.イ.ウの記号をもって省略可

4. 管理運営等

名称等	期間 (西暦)
関東学院第三号理事	2014年10月25日－現在
関東学院評議員	2014年5月24日－現在
アメリカンバプテスト協力宣教師	2014年4月1日－現在
関東学院大学宗教主事	2016年4月1日－現在
高等研センター員会議 センター員	2015年4月1日－現在

高等教育研究・開発センター活動報告、記録

Annual Report of Center for Research and Development of Higher Education, Kanto Gakuin University

2021年度 高等教育研究・開発センター事業報告

—概要—

高等教育研究・開発センターでは、大学ユニバーサル化に伴う学生の学力格差の拡大、教育の質保証への対応、学生を主体的な学びへ誘うための学修支援強化など教学上の諸課題を、学部の枠を超えた学士課程における全学的課題として分析・対応しています。

主なセンターの活動は、高等教育の課題全般について戦略的な観点から調査・研究および全学的な諸施策の企画・開発、教育内容・教育技法の改善に向けた提案、全学教職員を対象としたセミナーやフォーラムの開催と多岐に渡っています。

センター所属教員、職員を中心に、学外セミナー・フォーラム等に参加し、幅広く情報収集を行っており、センターの企画立案、学部からの調査依頼等に活用されています。

—活動報告—

■教育手法・教育内容の改善、セミナー等の実施

学生の声を教育手法・教育内容の改善に活かすために実施している「学生による授業改善アンケート」は、2017年度よりWebシステムを利用して、実施しています。

新任教職員を対象とした研修として「教育実践力向上セミナー」を全3回オンラインにて開催いたしました。第1回は「半期の授業を振り返る」をテーマに、グループワーク等を行いました。第2回は、「ヨコハマFDフォーラム」への参加をもって実施し、他大学との交流を深めました。第3回は「自らの教育活動を振り返り、教育理念と行動を結びつける～TPチャートとティーチングステートメントの作成～」をテーマに行いました。

この他に、全教職員を対象としたオンライン講習会を「基礎からのICT講習会」と題して、全3回開催しました。

■横浜市内4大学のFD活動の連携

前述の「ヨコハマFDフォーラム」は、FD活動についての連携協定を締結している神奈川大学教育支援センター、横浜国立大学大学教育総合センター、横浜市立大学との共催にて毎年実施しています。2021年度（第7回）は、横浜国立大学が主催校となり、「大学における教養教育を、今一度、考える」というテーマでオンラインにて開催しました。

■全学的な教育及び学修支援プログラム

<全学共通キャリア教育科目>

第1 Semesterに登録必須科目として「KGU キャリアデザイン入門」を設置し、「KGU キャリアデザイン基礎Ⅰ」「KGU キャリアデザイン基礎Ⅱ」「KGU キャリアデザイン応用」「KGU インターンシップⅠ（事前指導）」「KGU インターンシップⅡ（実習）」と、キャリア教育科目を体系的に開講しています。また、2021年度には「KGU キャリアデザイン入門」の授業内容を見直し、科目再編を行い、2022年度から「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ」（春学期前半）及び「KGU キャリアデザイン入門Ⅱ」（春学期後半）として、新規開講することを決定しました。

<全学共通地域志向科目>

学びのフィールドとなる神奈川県についての理解を深めるために、全学共通地域志向科目「KGU かながわ学」として全10科目（分野）を開講しているほか、各学部が開講する地域志向科目の他学部への開放を進めています。

■刊行物の編集・発行

定期刊行物として、年間の活動内容をまとめた年報を刊行いたしました。また、ニュースレターとして、オンライン授業に特化した特別号を刊行いたしました。

高等教育研究・開発センター員会議開催記録

2021 年度

構成員

議長	江頭 幸代	センター長（副学長）／センター次長（教務部長）※兼務 経営学部教授
	宮崎 雄吾	センター次長（教学支援部長）
	杉原 亨	高等教育研究・開発センター
	富田 茂美	高等教育研究・開発センター
	奥 聡一郎	建築・環境学部教授
	滝口 宣明	教務課担当課長
	千葉 隆行	教務課（金沢文庫キャンパス）担当課長

第 1 回センター員会議（メール審議）

期間：2021 年 4 月 19 日（月）10 時 00 分 ～4 月 20 日（火）15 時 00 分

I. 確認事項

1. 関東学院大学高等教育研究・開発センター規程について
2. 2020 年度第 1 1 回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 「基礎からの ICT 講習会」の実施報告について
2. 2021 年度全学共通科目の履修者数について
(新型コロナウイルス感染症に伴う対面授業参加に関する申告書提出者の報告を含む)

III. 審議事項

1. 2021 年度高等教育研究・開発センター員会議構成員について
2. 2021 年度「学生による授業改善アンケート」の実施について
3. 2021 年度公開授業の実施方法について
4. 「manaba 小テスト自動採点機能講習会」の実施について

IV. その他

なし

第2回センター員会議（メール審議）

期間：2021年5月20日（木）10時00分～5月21日（金）15時00分

I. 確認事項

1. 2021年度第1回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2021年度全学共通キャリア教育科目「KGU キャリアデザイン入門」の実施形式の一部変更について（追認）
2. 2021年度春学期「公開授業」の中止について（追認）
3. GPS-Academic（2021年度1年次生）の受検結果について<速報>
4. 2021年度春学期「学生による授業改善アンケート」各学部独自設問について
5. 高等教育研究・開発センターNEWS LETTER 特別号の発行について
6. 高等教育研究・開発センター2020年度事業報告について（追認）

III. 審議事項

1. 年報第7号について

IV. その他

なし

第3回センター員会議

日時：2021年6月16日（水） 10時00分～10時40分

場所：第4会議室（金沢八景キャンパス 2号館2階）

I. 確認事項

1. 2021年度第2回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2020年度秋学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について
2. GPS-Academic（2021年度1年次生）の受検結果について<詳細>
3. 「manaba 小テスト自動採点機能講習会」の実施報告について
4. 関東学院大学試験規程の一部改正について
5. 受験心得の一部改正について
6. 高等教育研究・開発センター所属教員の研究倫理教育・コンプライアンス教育の実施計画について

Ⅲ. 審議事項

1. 全学共通キャリア教育科目「KGU キャリアデザイン入門」の実施の全面的な見直しについて（2022年度）

Ⅳ. その他

なし

第4回センター員会議

日時：2021年7月21日（水） 9時00分～9時55分

場所：第2会議室（金沢八景キャンパス 1号館4階）

Ⅰ. 確認事項

1. 2021年度第3回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

Ⅱ. 報告事項

1. 2021年度春学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について<速報>
2. 2021年度第1回教育実践力向上セミナーの実施について
3. 第7回ヨコハマFDフォーラムの開催について
4. オンラインにも対応した「公開授業」の実施方法について
5. 年報第7号の目次（案）について
6. 「2021年度全学教員研修会」について
7. ZoomClass（Zoom教育版）の学内実証について

Ⅲ. 審議事項

1. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ・Ⅱ」について

Ⅳ. その他

なし

第5回センター員会議

日時：2021年9月7日（火） 9時30分～11時07分

※Zoomによる開催

Ⅰ. 確認事項

1. 2021年度第4回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2021年度春学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について<詳細>
2. 年報第7号の進捗について
3. 第7回ヨコハマFDフォーラムの開催について
4. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ・Ⅱ」等について

III. 審議事項

1. 2021年度秋学期開講予定全学共通科目の授業運営方針について
2. 2021年度開講予定全学共通科目のレア・プラン表の変更について
3. 2022年度開講予定全学共通科目のレア・プラン表について
4. 2021年度秋学期「公開授業」の中止について
5. 2022年度からの「公開授業」の実施方法について

IV. その他

なし

第6回センター員会議

期間：2021年9月17日（金） 12時00分～12時40分

※Zoomによる開催

I. 確認事項

1. 2021年度第5回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

なし

III. 審議事項

1. 2021年度秋学期開講全学共通科目の授業運営方針について
2. 2021年度開講全学共通科目のレア・プラン表の変更について
3. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ・Ⅱ」等について
4. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅱ」で使用するテキストについて（業者の選定）
5. 2022年度開講予定全学共通科目のレア・プラン表の変更について

IV. その他

なし

第7回センター員会議

日時：2021年10月1日（金） 12時23分～12時51分

※Zoomによる開催

I. 確認事項

1. 2021年度第6回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

なし

III. 審議事項

1. 2021年自己点検・評価について
 - (1) 2021年度自己点検・評価シートについて
 - (2) 学習成果・教育成果の把握及び評価に関する現状確認シート
 - (3) 長所・特色及び問題点その他の課題の確認
2. 2021年度事業計画の上半期進捗状況報告について
3. 2021年度秋学期聴講生の全学共通科目の受講許可について

IV. その他

第8回センター員会議

日時：2021年10月20日（水） 16時00分～17時09分

場所：第2会議室（金沢八景キャンパス 1号館4階）

I. 確認事項

1. 2021年度第7回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2021年度第1回教育実践力向上セミナーの実施報告について
2. 第7回ヨコハマFDフォーラムの進捗について
3. 年報第7号の進捗について
4. 2021年度秋学期全学共通科目の履修者数について
5. 2021年度秋学期「学生による授業改善アンケート」各学部独自設問について

Ⅲ. 審議事項

1. 2022年度「学生による授業改善アンケート」の仕様・設問内容について
2. 2022年度予算要求について
3. 2022年度開講予定全学共通科目のレア・プラン表について
4. 2022年度からの「公開授業」の実施方法について（継続審議）
5. 「学生による授業改善アンケート」に基づく、学生からの要望等の授業への反映状況の確認の実施について（提案）
6. 2022年度高等研所属教員の他学部からの科目担当推薦依頼について

Ⅳ. その他

なし

第9回センター員会議

日時：2021年11月17日（水） 16時00分～16時53分

場所：第2会議室（金沢八景キャンパス 1号館4階）

Ⅰ. 確認事項

1. 2021年度第8回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

Ⅱ. 報告事項

1. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅱ」各学部の科目の取扱い及び学部学科独自回のプログラムについて
2. 第7回ヨコハマFDフォーラムの開催について
3. 2021年度春学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について

Ⅲ. 審議事項

1. 2022年度事業計画について
2. 2022年度高等研所属教員の他学部からの科目担当推薦依頼について
3. 2022年度高等教育研究・開発センター所属の非常勤講師の新規採用について（「KGU キャリアデザイン入門Ⅱ」）
4. 2022年度開講全学共通科目のレア・プラン表の変更について
5. 年報第7号について

Ⅳ. その他

なし

第10回センター員会議

日時：2021年12月14日（火） 14時00分～15時19分

場所：第3会議室（金沢八景キャンパス 1号館3階）

I. 確認事項

1. 2021年度第9回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 賞罰規程第3条第7号に基づく処分内規の一部改正について
2. 第7回ヨコハマFDフォーラム（兼「2021年度第2回教育実践力向上セミナー」）の実施報告について
3. 2022年度「公開授業」のスケジュールについて
4. ナンバリングについて
5. 2022年度「学生による授業改善アンケート」の全体告知方法の変更について
6. 2021年度第3回教育実践力向上セミナーの開催について
 - ・日時：2022年3月8日（火） 9:00～17:00 ※Zoomにて開催
 - ・講師：北野 健一氏（大阪府立大学工業高等専門学校）
 - ・内容：自らの教育活動を振り返り、教育理念と行動を結びつける～TPチャートとティーチングステートメントの作成～

III. 審議事項

1. 高等教育研究・開発センター所属の非常勤講師の新規採用について（「KGU かながわ学（歴史・文化）」「KGU かながわ学（健康）」）
2. 2022年度高等研所属教員の他学部からの科目担当推薦依頼について
3. 2022年度開講全学共通科目のレア・プラン表の変更について
4. 2022年度各学部・研究科における教育課程の編成等について
5. 「学生による授業改善アンケート」の活用（PDCA）について（提案）
6. 2022年度版シラバスの公開前第三者チェックの実施について
7. 「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ・Ⅱ」のカリキュラムマップ（チェックリスト型）について
8. 2022年度事業計画の修正について

IV. その他

なし

第11回センター員会議

日時：2022年1月19日（水） 15時30分～16時50分

場所：第2会議室（金沢八景キャンパス 1号館4階）

I. 確認事項

1. 2021年度第10回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2021年度第3回教育実践力向上セミナーの開催について
2. 「第7回関東学院大学新型コロナウイルス感染症対策会議」の報告について
3. 2021年度秋学期「学生による授業改善アンケート」
一部科目の設定の誤りに伴う回答期間延長等の措置について

III. 審議事項

1. 2022年度全学共通科目の授業実施形式について
2. 2022年度開講全学共通科目のレア・プラン表の変更について
3. ナンバリングの導入について（提案）
4. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ・Ⅱ」のシラバス分担及び成績評価基準・方法について
5. 2022年度高等研所属教員の他学部からの科目担当推薦依頼について（2件）

IV. その他

なし

第12回センター員会議

日時：2022年2月10日（水） 16時00分～16時35分

※Zoomによる開催

I. 確認事項

1. 2021年度11回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

特になし

III. 審議事項

1. 全学共通科目における不正行為の認定について

IV. その他

なし

第13回センター員会議

日時：2022年2月16日（水） 13時00分～13時56分

場所：第2会議室（金沢八景キャンパス 1号館4階）

I. 確認事項

1. 2021年度第12回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2022年度全学共通地域志向科目「KGU かながわ学」の授業実施形式について
2. 2021年度春学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について<速報>
3. 2022年度「KGU キャリアデザイン入門Ⅰ」「同Ⅱ」の授業運営について
4. ナンバリングの導入について（提案）
5. 全学共通科目における不正行為の認定について

III. 審議事項

1. 2022年度開講全学共通科目のレア・プラン表の変更について

IV. その他

特になし

第14回センター員会議（メール審議）

日時：2022年2月22日（火）10時00分～2月24日（木）13時00分

I. 確認事項

1. 2021年度第13回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

なし

III. 審議事項

1. 関東学院大学高等教育研究・開発センター規程の一部改正について

IV. その他

なし

第15回センター員会議

日時：2022年3月17日（水） 11時00分～11時20分

場所：第4会議室（金沢八景キャンパス 2号館2階）

I. 確認事項

1. 2021年度第14回高等教育研究・開発センター員会議議事録の確認について

II. 報告事項

1. 2021年度第3回教育実践力向上セミナーの実施報告について
2. 2022年度全学共通科目シラバスチェック結果について
3. 2022年度予算内示について

III. 審議事項

1. 高等教育研究・開発センター 2021年度事業報告について
2. 2022年度高等教育研究・開発センター員の委嘱について
3. 2022年度開講全学共通科目のレア・プラン表の変更について
4. 2022年度全学共通科目の履修登録方法について

IV. その他

なし

教育実践力向上セミナー開催記録

2021年度

第1回

日 時	2021年9月6日(月) 13時00分～15時00分
実施方法	オンライン (Zoom)
テ ー マ	「半期の授業を振り返る」
実施内容	関東学院大学での半期の授業について、参加者同士による課題の共有
参加人数	12名

第2回

日 時	2021年12月4日(土) 13時00分～16時00分
実施方法	オンライン (Zoom) ヨコハマFDフォーラム(※)への参加をもって、第2回教育実践力向上セミナーへ参加したものとする
テ ー マ	「大学における教育の在り方を、今一度考える。～学生とともに考えるウィズ&ポストコロナ時代の大学教育～」
実施内容	【第1部】教職員と学生による実践報告—横浜4大学の教養教育の現状と今後の展望 【第2部】意見交換会(参加者によるグループディスカッションと全体共有)
参加人数	【第1部】100名弱(8名) 【第2部】31名(2名) ()内は、第2回教育実践力向上セミナーの対象者数のうちの参加者数

※ヨコハマFDフォーラム

FD活動について連携する包括協定を締結している、横浜市内の4大学(神奈川大学、横浜国立大学、横浜市立大学、関東学院大学)にて共催するフォーラム

第3回

日 時	2022年3月8日(火) 9時00分～17時00分
実施方法	オンライン (Zoom)
テ ー マ	「自らの教育活動を振り返り、課題を見つける～TPチャートとティーチングステートメントの作成～」
実施内容	TPチャートの作成、ティーチングステートメントの作成作業、意見交換
参加人数	10名

高等教育研究・開発センター 構成員

2021 年度

高等教育研究・開発センター

センター長 江頭 幸代（経営学部教授）
センター次長 江頭 幸代（経営学部教授）※兼務
宮崎 雄吾（教学支援部長）

センター所属教員 杉原 亨（准教授）
富田 茂美（准教授）

センター員 奥 聡一郎（建築・環境学部教授）
滝口 宣明（教務課担当課長）
千葉 隆行（教務課（金沢文庫キャンパス）担当課長）

事務局（教務課）

課長 川出 道紀
課長補佐 大澤麻衣子
吉田 朋央
職員 濱田 清華（教学改革支援・教学 IR 推進担当）
梅村 俊行（教学改革支援・教学 IR 推進担当）

関東学院大学高等教育研究・開発センター規程

(2012年12月20日制定)

(設置)

第1条 本学の理念及び目的を実現するため、本学に関東学院大学高等教育研究・開発センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、全学的な教育支援体制に係る諸施策の企画及び開発をするとともに、組織的かつ継続的に教育内容及び教育技法の改善を支援することによって、本学の教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 高等教育に係る調査及び研究に関すること
- (2) 高等教育に係るリファレンスに関すること
- (3) 全学的な教授内容及び教育手法の改善並びにファカルティ・ディベロップメント（FD）に関すること
- (4) 全学的な教育効果の測定及び評価方法に関すること
- (5) 全学的な教育のための企画に関すること
- (6) センター刊行物の編集及び発行に関すること
- (7) その他、センターの目的達成のために必要な事業に関すること

(センター長及びセンター次長)

第4条 センターにセンター長及びセンター次長を置く。

- 2 センター長は副学長の中から学長が指名した者をもって充て、センター次長は教務部長及び教学支援部長をもって充てる。
- 3 センター長は、センターを代表し、センターの運営を統括する。
- 4 センター次長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(センター員)

第5条 センターにセンター員若干名を置く。

- 2 センター員は、本学の専任教職員の中からセンター長の推薦により学長が委嘱する。
- 3 センター員は、第3条に定めるセンターの事業に関する業務に従事する。
- 4 センター員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(部会員)

第6条 センターに部会員若干名を置くことができる。

- 2 部会員は、本学の専任教職員の中からセンター長の推薦によりセンター員会議の議を経て、センター長が委嘱する。
- 3 部会員は、部会の検討課題及び取り扱う業務に従事する。
- 4 前条第4項の規定は、部会員について準用する。

(専任教員)

第7条 センターに、専任教員を置くことができる。

- 2 専任教員の選考については、別に定めるところによる。

(委託研究員)

第8条 センターに、委託研究員を置くことができる。

- 2 委託研究員の職務、勤務条件、報酬等は、別に定める。

(非常勤講師)

第9条 センターに、非常勤講師を置くことができる。

- 2 非常勤講師の採用及び選考については、関東学院大学非常勤講師採用規程（平成元年11月16日制定）及び非常勤講師選考基準（昭和57年2月3日制定）による。
- 3 非常勤講師の給与及び通勤手当は、関東学院大学非常勤講師及びティーチング・アシスタント給与支給規程（昭和63年4月1日制定）により支給する。

(センター員会議)

第10条 センターに、センター員会議を置く。

- 2 センター員会議は、次の各号の委員で構成する。
 - (1) センター長

- (2) センター次長
 - (3) センター員
 - (4) 教務課担当課長のうちセンターの職務を担当する者（以下「教務課高等研担当課長」とする）
 - (5) センターの専任教員（専任教員を置いた場合に限る。）
- 3 センター員会議は、センター長が招集し、議長となる。
- 4 センター員会議は、次の事項を協議する。
- (1) センターの運営に関する基本方針
 - (2) 第3条に定める事業に関する事項
 - (3) センターの予算及び人事に関する事項
 - (4) センター内及び部会間の連絡及び調整に関する事項
 - (5) センターの事業に係る自己点検・評価並びに改善及び改革に関する事項
 - (6) その他、センターの運営上必要な事項
- 5 センター員会議に議事録を作成するため書記を置き、議長が指名する。
- 6 議事録は、教務課高等研担当課長が保管する。
- 7 センター員会議は、議長が必要と認めた場合は、構成員以外の者を出席させることができる。
(部会)

第11条 センターに、第3条に定めるセンターの事業を専門的に検討するため、必要な部会を置くことができる。

- 2 部会の構成員は部会員及び委託研究員（置かれた場合に限る。）とする。
- 3 部会長は、部会員（センター員である者に限る。）の中からセンター員会議の議を経て、センター長が任命する。
- 4 部会長は、部会を統括する。
- 5 部会の設置及び廃止については、センター員会議の議を経て行う。
(事務の所管)

第12条 センターに関する事務の所管は、教務課とする。
(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、学部長会議の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、2013年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、センターの運用状況、実施効果等を勘案し、第2条の目的の達成状況を評価した上で、この規程施行後3年以内に見直しを行うものとする。

附 則

この規程は、2013年7月8日から改正施行する。

附 則

この規程は、2014年3月19日から改正施行する。

附 則

この規程は、2014年6月13日から改正施行する。

附 則

この規程は、2014年7月12日から改正施行する。ただし、第12条第2項第3号の改正規定は、2015年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、2015年3月19日に改正し、2015年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2016年4月14日から改正施行する。

附 則

この規程は、2019年4月3日に改正し、2019年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年4月6日に改正し、2019年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年12月4日に改正し、2020年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2022年3月2日から改正施行する。

執筆者一覧

杉原 亨 (関東学院大学 高等教育研究・開発センター 准教授)
富田 茂美 (関東学院大学 高等教育研究・開発センター 准教授)
山田 昭子 (関東学院大学 理工学部 非常勤講師)